

Sun™ Advanced Lights Out Manager (ALOM) 1.1 オンラインヘルプ

目次

[ALOM の概要](#)

[ヘルプの使用方法](#)

[ALOM の概要](#)

一般的な情報

[著作権情報](#)

[基本的な UNIX コマンド](#)

[システムプロンプト](#)

[関連マニュアル](#)

[Sun マニュアルへのアクセス](#)

[詳細情報](#)

[ご意見](#)

リファレンス

[障害関連用語](#)

[プラットフォーム固有情報](#)

ALOM の構成

[ALOM の構成](#)

[ALOM の構成計画](#)

[外部モデムの設定](#)

[ALOM 通信ポートの選択](#)

[ALOM から他のデバイスにシステムコンソールをリダイレクトする](#)

[設定テーブル](#)

[DHCP を使用したネットワークの構成](#)

[手動によるネットワークの構成](#)

[シリアル管理ポートの機能](#)

[電子メールによる警告の設定](#)

[警告の送受信](#)

ALOM の一般的なタスク

[ALOM の一般的なタスク](#)

[ALOM の設定を変更して Ethernet \(NET MGT\) ポートを使用する](#)

[ALOM ユーザーアカウントの追加](#)

[ALOM ユーザーアカウントの削除](#)

[ALOM アカウントパスワードの変更](#)

[電子メールによる警告の設定](#)

[警告の送受信](#)

[警告メッセージまたは ALOM イベントを送信するスクリプトの作成](#)

[ALOM のリセット](#)

[ホストサーバーのリセット](#)

[ALOM への接続](#)

[ALOM アカウントへのログイン](#)

[ALOM 構成のバックアップ](#)

[ロケータ LED の制御](#)

ALOM コマンドシェルの使用

[ALOM コマンドシェルの概要](#)

[シェルコマンドの種類](#)

[構成コマンド](#)

[ログコマンド](#)

[状態コマンド](#)

[FRU コマンド](#)

[その他のコマンド](#)

[ALOM シェルコマンドの一覧](#)

[bootmode](#)

[break](#)

[console](#)

[consolehistory](#)

[flashupdate](#)

[help](#)

[logout](#)

[password](#)

[poweroff](#)

[poweron](#)

[removefru](#)

[reset](#)

[resetsc](#)

[setdate](#)
[setdefaults](#)
[setlocator](#)
[setsc](#)
[setupsc](#)
[showdate](#)
[showenvironment](#)
[showfru](#)
[showlocator](#)
[showlogs](#)
[shownetwork](#)
[showplatform](#)
[showsc](#)
[showusers](#)
[useradd](#)
[userdel](#)
[userpassword](#)
[userperm](#)
[usershow](#)

ALOM 設定変数の使用

[ALOM 設定変数の概要](#)
[シリアル管理ポート変数](#)
[Ethernet 変数](#)
[管理対象システムのインタフェース変数](#)
[ネットワーク管理および通知変数](#)
[システムユーザー変数](#)
[if_emailalerts](#)
[if_network](#)
[if_modem](#)
[mgt_mailalert](#)
[mgt_mailhost](#)
[netsc_dhcp](#)
[netsc_enetaddr](#)
[netsc_ipaddr](#)
[netsc_ipgateway](#)
[netsc_ipnetmask](#)
[netsc_tpelinktest](#)
[sc_backupuserdata](#)

[sc_clieventlevel](#)
[sc_cliprompt](#)
[sc_clitimeout](#)
[sc_clipasswdecho](#)
[sc_customerinfo](#)
[sc_escapechars](#)
[sc_powerondelay](#)
[sc_powerstatememory](#)
[ser_baudrate](#)
[ser_data](#)
[ser_parity](#)
[ser_stopbits](#)
[sys_autorestart](#)
[sys_enetaddr](#)
[sys_eventlevel](#)
[sys_hostname](#)
[sys_xirtimeout](#)

scadm ユーティリティの使用方法

[scadm ユーティリティの概要](#)
[scadm の開始](#)
[scadm のパスの設定](#)
[scadm コマンド](#)
[date](#)
[download](#)
[help](#)
[loghistory](#)
[modem_setup](#)
[resetrsc](#)
[send_event](#)
[set](#)
[show](#)
[shownetwork](#)
[useradd](#)
[userdel](#)
[usershow](#)
[userpassword](#)
[userperm](#)
[version](#)

OpenBoot PROM 機能の使用方法

[OpenBoot PROM 機能の使用方法](#)

[reset-sc](#)

[.sc](#)

診断と障害追跡

[障害追跡の概要](#)

[ALOM の問題の障害追跡](#)

[ALOM によるサーバーの障害追跡](#)

[ALOM コマンドシェルのエラーメッセージ](#)

[scadm のエラーメッセージ](#)

Sun Advanced Lights Out Manager (ALOM) 1.1 について

Sun Advanced Lights Out Manager (ALOM) 1.1 は、Sun Fire V210、V240、V440 の各サーバーをリモート管理するシステムコントローラです。

ALOM 1.1 ソフトウェアはホストサーバーにプリインストールされています。そのため、サーバーにインストールして電源をオンにすると、すぐに動作します。固有のインストールに合わせて [ALOM をカスタマイズ](#) することができます。

これにより、ネットワーク上でサーバーの監視や制御を行ったり、専用シリアルポートを使って端末または端末サーバーに接続したりすることができます。ALOM では、[コマンド行インタフェース](#)により、地理的に分散しているコンピュータや直接操作が不可能なコンピュータのリモート管理を行うことができます。

また、サーバーのシリアルポートから離れた場所でも POST などの診断をリモート実行できます。さらに、ALOM の設定によりハードウェア障害の電子メールによる警告、ハードウェア警告、およびサーバーまたは ALOM に関連するその他のイベントを送信することができます。

ALOM は回路的にサーバーから独立しており、サーバーのスタンバイ電源を使用します。そのため、サーバーのオペレーティングシステムがオフラインの場合やサーバーの電源がオフの場合でも、ALOM ファームウェアおよびソフトウェアは稼働を続けます。

Sun Fire V210、V240、V440 の各サーバー上で ALOM により監視可能なコンポーネントの一部を以下に示します。

ALOM の監視対象

監視対象コンポーネント	監視内容
ディスクドライブ	各スロットにドライブが存在するかどうか、および状態が OK であるかどうか

ファン	ファン速度、およびファンの状態が OK であるかどうか
CPU	CPU が存在するかどうか、CPU 温度、熱警告または障害の状況
電源	各ベイに電源が存在するかどうか、および状態が OK であるかどうか
システム格納装置の温度	システムの環境温度、格納装置に関する熱警告または障害の状況
回路遮断器および電圧	回路遮断器が作動しているかどうか、電圧の通知が正しいかどうか
サーバーフロントパネル	システムキースイッチの位置 (Sun Fire v240 および V440 のみ) および LED の状態

ヘルプの使用方法

ALOM ヘルプでは、Sun Fire サーバーにインストールした Sun Advanced Lights Out Manager ソフトウェアの使用方法について説明します。サーバーに ALOM コンソールを設定する方法については、サーバーに付属のインストールガイドと管理マニュアルを参照してください。

ALOM ヘルプは使いやすい、ブラウザベースのヘルプシステムです。Sun Fire サーバーに付属のマニュアル CD、Sun マニュアルポータルサイト (<http://www.sun.com/documentation>)、またはローカル Web サーバーで ALOM ヘルプを直接実行することができます。ALOM ヘルプの最新のアップデートについては、<http://www.sun.com/documentation> を参照してください。

要件

ALOM ヘルプを実行するには、以下のソフトウェアが必要です。

ソフトウェアのタイプ	バージョンまたは設定
Web ブラウザ	以下の Web ブラウザで機能します。 Netscape 4.79 および 7.0 (Solaris、Windows、Linux) Microsoft Internet Explorer 5.x および 6.x (Windows) Mozilla 1.x (Solaris、Windows、Linux) Opera 6.x および 7.x (Windows)
JavaScript	JavaScript で最も一般的なバージョン 1.2 およびバージョン 1.3
Java *	Java Virtual Machine 1.2 またはその他の互換性のあるバージョン

* 英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語、またはスウェーデン語での全文検索のみに必要です。

操作およびセッション情報の制御

すべての ALOM ヘルプトピックスには、内容を表示するエリアの最上部に制御バーがあります。各制御アイコンで特定のヘルパーアプリケーションを起動し、トピック間の移動、Sun へのフィードバック送信、現在の ALOM ヘルプセッション

ンに関する情報の表示を行うことができます。

制御アイコン 機能



ALOM のグラフィカルな目次があるポップアップブラウザウィンドウが開きます。概念、手順、およびリファレンスのヘルプトピックを参照するには、このグラフィカルな目次を使用します。



ポップアップブラウザウィンドウが開き、ALOM ヘルプトピックを検索することができます。英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語、またはスウェーデン語で ALOM ヘルプを使用する場合は、全文検索が行えます。日本語、韓国語、簡体字中国語、または繁体字中国語で ALOM ヘルプを使用する場合は、キーワード検索が行えます。



ALOM ヘルプについてのフィードバックを Sun に送信する方法を示すポップアップブラウザウィンドウが開きます。



現在の ALOM ヘルプのバージョン、現在の ALOM ヘルプセッション、およびブラウザ設定についての情報を表示するポップアップダイアログボックスが開きます。ALOM ヘルプについて Sun テクニカルサポートに連絡をとる必要がある場合、このダイアログボックスを開きます。

注意: 一部のブラウザおよびブラウザプラグインではポップアップウィンドウをブロックすることができます。上記で説明した操作および機能を十分に利用するには、ブラウザでポップアップウィンドウを有効にする必要があります。

関連情報

内容を表示するエリアの最下部に、関連する ALOM ヘルプトピックのリンクを表示することができます。By default, the list of links to related topics is "collapsed" under a control icon. 関連するヘルプトピック一覧を展開または縮小するには、制御アイコンをクリックします。

制御アイコン 機能



関連するヘルプトピックの一覧を展開します。



関連するヘルプトピックの一覧を縮小します。

既知の制限

日常的ににブラウザに複雑な Web ページを読み込んだり、Java アプリケーショ

ンまたは JavaScript アプリケーションを実行すると、ALOM ヘルプがデスクトップで正常に動作するアプリケーションであることがわかります。しかし、サポートするすべてのブラウザ上での ALOM ヘルプの実行方法、オペレーティング環境、Java のバージョン、JavaScript のバージョン、および場所には既知の制限がいくつかあります。

言語	ブラウザ	オペレーティング環境	制限
英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語、スウェーデン語	Netscape 4.79	Solaris	Web ページから長い文字列をコピーして全文検索の入力ボックスに貼り付けると、Netscape がクラッシュする可能性があります。
英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語、スウェーデン語	Netscape 4.79	Solaris	混雑している LAN を通して ALOM ヘルプを実行していて、「the」や「command」あるいは「ALOM」といった一般的な単語を全文検索の入力ボックスに入力すると、LAN 上のすべての ALOM ヘルプファイルの検索が完了する前に Java 検索アプレットがタイムアウトになる可能性があります。
日本語	すべて	Solaris、Windows	ALOM ヘルプのホームページ (index.html) で「Browser Test」をクリックすると、ブラウザはポップアップウィンドウを開けないか、そのウィンドウに誤った出力を表示する可能性があります。
すべて	Netscape 4.79	Solaris、Windows	Netscape 4.79 ユーザーには、関連するヘルプトピック一覧を展開および縮小する「関連情報」制御アイコンは表示されません。Netscape 4.79 には DOM (Document Object Model) の実装に関してバグがあり、HTML を正しく表示できません。Netscape 4.79 ユーザーの ALOM ヘルプにはすべての「関連情報」リンクが表示され、一覧を展開および縮小する制御アイコンはありません。

ALOM の概要

ALOM 1.1 ソフトウェアはホストサーバーにプリインストールされています。そのため、サーバーにインストールして電源をオンにすると、すぐに動作します。外部のASCII 端末をシリアル管理ポート (SERIAL MGT) に接続すれば、ALOM ソフトウェアを設定しなくても直ちに ALOM を使用できます。外部端末の接続方法については、ホストサーバーのインストールガイドを参照してください。

ALOM ソフトウェアでは、ALOM ハードウェアが設置されているホストサーバーを監視することもできます。この場合、ホストサーバーのみが監視可能であり、ネットワーク上の他のサーバーは監視できません。複数ユーザーがホストサーバーを監視可能ですが、権限を要求するコマンドを発行できるのは1度に1ユーザーのみです。他のユーザーは読み取り専用モードで接続します。これらのユーザーはシステムコンソールの表示および ALOM 出力コマンドは使用できませんが、設定の変更はできません。

初めてサーバーの電源をオンにしたとき、ALOM はシステムを自動監視し、設定済みのデフォルトアカウントを使用してシステムコンソールに出力を表示します。デフォルトアカウントは `admin` と呼ばれ、[すべての \(cuar\) 権限](#)が与えられています。

ALOM にログインして `admin` のパスワードを指定するには、以下の手順に従います。

ALOM コマンドプロンプト (`sc>`) で [password](#) コマンドを入力し、`admin` アカウントのパスワードを指定します。

ログインする前にタイムアウトした場合、システムコンソールに戻って次のメッセージが表示されます。

```
Enter #. to return to ALOM.
```

必要に応じて、ALOM にログインした後で、固有のインストールに合わせて [ALOM をカスタマイズ](#) することができます。

これで、[ALOM ユーザーアカウントの追加](#)などの一部の[一般的な管理タスク](#)を実行できます。

ALOM の一般的なタスク

著作権

Copyright 2003 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている製品に採用されている技術に関する知的所有権を有しています。特に、また限定することなく、これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付属する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されません。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

Sun、Sun Microsystems、サンのロゴマーク、Sun Fire、Solaris、VIS、Sun StorEdge、Solstice DiskSuite、Java、JavaScript、OpenBoot、SunVTS、および Solaris のロゴマークは、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは OPEN LOOK GUI を実装し、別段に米国 Sun Microsystems 社の書面によるライセ

ンス契約に従う実施権者にも適用されます。

Federal Acquisitions: Commercial Software-- Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions.

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

Copyright 2003 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, Etats-Unis. Tous droits reserves.

Sun Microsystems, Inc. a les droits de propriete intellectuels relatants a la technologie incorporee dans le produit qui est decrit dans ce document. En particulier, et sans la limitation, ces droits de propriete intellectuels peuvent inclure un ou plus des brevets americains enumeres a <http://www.sun.com/patents> et un ou les brevets plus supplementaires ou les applications de brevet en attente dans les Etats-Unis et dans les autres pays.

Ce produit ou document est protege par un copyright et distribue avec des licences qui en restreignent l'utilisation, la copie, la distribution, et la decompilation. Aucune partie de ce produit ou document ne peut etre reproduite sous aucune forme, par quelque moyen que ce soit, sans l'autorisation prealable et ecrite de Sun et de ses bailleurs de licence, s'il y ena.

Le logiciel detenu par des tiers, et qui comprend la technologie relative aux polices de caracteres, est protege par un copyright et licencie par des fournisseurs de Sun.

Des parties de ce produit pourront etre derivees des systemes Berkeley BSD licencies par l'Universite de Californie. UNIX est une marque deposee aux Etats-Unis et dans d'autres pays et licenciee exclusivement par X/Open Company, Ltd.

Sun, Sun Microsystems, le logo Sun, Sun Fire, Solaris, VIS, Sun StorEdge, Solstice DiskSuite, Java, JavaScript, OpenBoot, SunVTS, et le logo Solaris sont des marques de fabrique ou des marques deposees de Sun Microsystems, Inc. aux Etats-Unis et dans d'autres pays.

Toutes les marques SPARC sont utilisees sous licence et sont des marques de fabrique ou des marques deposees de SPARC International, Inc. aux Etats-Unis et dans d'autres

pays. Les produits portant les marques SPARC sont basés sur une architecture développée par Sun Microsystems, Inc.

L'interface d'utilisation graphique OPEN LOOK et Sun™ a été développée par Sun Microsystems, Inc. pour ses utilisateurs et licenciés. Sun reconnaît les efforts de pionniers de Xerox pour la recherche et le développement du concept des interfaces d'utilisation visuelle ou graphique pour l'industrie de l'informatique. Sun détient une licence non exclusive de Xerox sur l'interface d'utilisation graphique Xerox, cette licence couvrant également les licenciés de Sun qui mettent en place l'interface d'utilisation graphique OPEN LOOK et qui en outre se conforment aux licences écrites de Sun.

LA DOCUMENTATION EST FOURNIE "EN L'ETAT" ET TOUTES AUTRES CONDITIONS, DECLARATIONS ET GARANTIES EXPRESSES OU TACITES SONT FORMELLEMENT EXCLUES, DANS LA MESURE AUTORISEE PAR LA LOI APPLICABLE, Y COMPRIS NOTAMMENT TOUTE GARANTIE IMPLICITE RELATIVE A LA QUALITE MARCHANDE, A L'APTITUDE A UNE UTILISATION PARTICULIERE OU A L'ABSENCE DE CONTREFACON.

基本的な UNIX コマンドと手順

ALOM 1.1 オンラインヘルプでは、具体的なソフトウェアコマンドや手順を記述せずに、ソフトウェア上の作業だけを示すことがあります。具体的なコマンドや手順および UNIX 関連の情報については、以下のマニュアルを参照してください。

『Sun 周辺機器使用の手引き』
Solaris オペレーティング環境のオンラインマニュアル
システムに付属しているその他のソフトウェアマニュアル

[Sun マニュアルへのアクセス](#)

[システムプロンプト](#)

システムプロンプト

ALOM 1.1 オンラインヘルプでは以下のシステムプロンプトを使用しています。

プロンプトの種類	プロンプト
C シェル	machine-name %
C シェルのスーパーユーザー	machine-name #
Bourne および Korn シェル	\$
Bourne および Korn シェルのスーパーユーザー	#
ALOM システムコントローラ	sc>
OpenBoot PROM ファームウェア	ok

[基本的な UNIX コマンドと手順](#)

関連マニュアル

ALOM とホストサーバーの連携方法については、ホストサーバーのマニュアルを参照してください。

以下のマニュアルでは ALOM 関連タスクの実行方法を説明しています。

タスク	タイトル
診断テストの実行	『SunVTS ユーザーマニュアル』 『SunVTS Quick Reference Guide』 『SunVTS テストリファレンスマニュアル』 『Sun Management Center ソフトウェアユーザーマニュアル』
システムおよびネットワークの管理	『Solaris System Administrator Guide』 『SPARC: Installing Solaris Software』
オペレーティング環境ソフトウェアの操作方法	『Solaris ユーザ - ズガイド』

上記のマニュアルは Solaris オペレーティング環境に付属の Solaris マニュアルパッケージ、またはシステムハードウェアに付属の Computer Systems Supplement CD に入っています。

scadm コマンドのマニュアルページは、次のディレクトリの Solaris 8 HW 7/03 Supplement CD に入っています。

```
/cdrom/solaris8_hw0703_suppcd#1/Man_Page_Supplement/Product
```

これらのマニュアルページを読み込むには、pkgadd コマンドを使用し

てSUNWs8hwman という名前のパッケージを指定します。Solaris 8 HW Specific Additions のオンラインマニュアルページが読み込まれます。詳細は、Supplement CD に付属のマニュアルを参照するか Solaris Operating Environment Media Kit を参照してください。

また、次の Web サイトでは、サンのシステムマニュアル、Solaris のマニュアル、およびその他の関連マニュアルをオンラインで参照することができます。

<http://www.sun.com/documentation>

[Sun マニュアルへのアクセス](#)

Sun マニュアルへのアクセス

次の Web サイトで、さまざまな Sun マニュアルを表示、印刷、または購入することができます。ローカライズ版もあります。

<http://www.sun.com/documentation>

ALOM マニュアルへのアクセス

ALOM のオンラインマニュアルは次の場所にあります。

サーバーに付属のプラットフォームマニュアル CD
製品 Web サイト (<http://www.sun.com>)

詳細情報

[Sun マニュアルへのアクセス](#)

[基本的な UNIX コマンドと手順](#)

[障害およびエラー関連用語](#)

[関連マニュアル](#)

ご意見をお寄せいただくには

サンではマニュアルの内容を改善していくため、皆様のご意見やご提案をお待ちしています。このオンラインヘルプシステムの内容に関するご意見をお寄せいただくには、封筒アイコンをクリックします。Web ブラウザに電子メールのウィンドウが表示されます。フィードバックを作成したら、「送信」をクリックして送信してください。

下記のアドレスにサンのマニュアル全般に関するご意見をお寄せいただくこともできます。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

フィードバックの件名にマニュアルのタイトルおよび Part No. を記入してください。

Sun Advanced Lights Out Manager (ALOM) 1.1 Online Help, Part Number 817-1969-10

障害およびエラー関連用語

すべての Sun サーバーには ALOM で表示および監視可能な 2 つの処理状態 (ok と failed または failure) があります。一部のサーバーには fault という処理状態があります。ここでは、fault 状態と failed 状態の相違点を説明します。

Fault 状態

fault はデバイスの機能が縮退状態で動作していますが、まだ完全に使用可能です。この縮退により、デバイスは fault 状態ではないデバイスより信頼性が劣りますが、主な機能は引き続き実行可能です。

たとえば、内部のファンに障害が発生すると、電源は fault 状態になりますが、温度のしきい値が Critical (高) を超えない限り、安定した電源を供給します。このような fault 状態の電源は、温度、負荷、効率によっては機能が停止する可能性があります。そのため、fault 状態でない電源と比べて信頼性が劣ります。

Failed 状態

failure は、デバイスがシステムの要求どおりに機能しないことを表します。重大な障害や、複数の障害の併発が原因でデバイスに問題が発生します。failed 状態になると、デバイスは機能を停止し、システムリソースとして使用することができなくなります。

電源を例にすると、安定した電源の供給が停止すると、電源は failed 状態になったと見なされます。

プラットフォーム固有情報

ALOM 1.0 では次のハードウェアプラットフォームのみをサポートします。

Sun Fire V210 サーバー
Sun Fire V240 サーバー
Sun Fire V440 サーバー

フロントパネルキースイッチ

Sun Fire V210 サーバーにはフロントパネルキースイッチはありません。Sun Fire V240 および V440 サーバーにはフロントパネルキースイッチがあります。 [flashupdate](#) コマンドまたは [scadm download](#) コマンドで ALOM ファームウェアをアップデートする前に、Sun Fire V240 または V440 のキースイッチが Normal (ロックされていない状態) の位置に設定されていることを確認してください。

詳細は、Sun Fire V210、V240 および V440 サーバーの管理マニュアルを参照してください。

ALOM システムコントローラカード

Sun Fire V210 および V240 サーバーの ALOM ハードウェアはサーバーのマザーボードに内蔵されていますが、Sun Fire V440 の ALOM ハードウェアは独立したシステムコントローラカードで構成されています。カードはホストサーバーのマザーボード上の専用スロットにプラグインします。シリアル管理 (SERIAL MGT) ポートおよびネットワーク管理 (NET MGT) ポートは ALOM カードの背面にあり、ホストサーバーの後部から接続できます。

ALOM システムコントローラカードの詳細については、『Sun Fire V440 Server Administration Guide』を参照してください。

システム構成カード

Sun Fire V210、V240、V440 の各サーバーにはシステム構成カード (SCC) が付属しています。SCC には、ネットワーク情報や OpenBoot PROM 情報など、ホストサーバーに関する重要な情報と、ALOM のユーザーデータや設定データが保存されます。ホストサーバーに障害が発生して交換が必要な場合、SCC を元のサーバーから新しいサーバーに移行することができます。新しいサーバーは元のサーバーの構成データを使用して起動します。そのため、ダウンタイムが最小限に抑えられ、新しいサーバーを最初から構成する必要がありません。

ALOM 1.1 では、SCC に関して次の処理を行います。

ホストサーバーに SCC が存在しない場合、サーバーの電源はオンになりません。

ホストサーバーに SCC が存在し、マシンアドレス (MAC アドレス) の数も足りているのに、カードが他のサーバーからインストールされている場合、SCC のパラメタはインストール先サーバーのデフォルト値に自動的にリセットされます。

電源がオンになっているシステムから SCC を取り外すと、1 分以内にホストサーバーの電源はオフになります。

ALOM には、SCC 上のユーザーデータおよび構成データのバックアップコピーが保存されます。これにより、ホストサーバーを他のサーバーに交換しても、ALOM の設定は保持されます。最初のサーバーから SCC をインストールしておけば、ALOM の設定は復元可能です。

SCC の詳細については、『Sun Fire V440 Server Administration Guide』を参照してください。

ALOM の構成

ALOM ソフトウェアはプリインストールされているため、電源投入後、ホストサーバー上ですぐに実行することができます。この時点で実行準備は完了です。端末をシリアル管理ポート (SERIAL MGT) に接続し、直ちに ALOM を使用できます。

ただし、ALOM のインストールをカスタマイズする場合は、多少の基本的な作業が必要です。

ALOM をカスタマイズするには、以下の作業を行います。

1. [構成のカスタマイズ方法を計画する](#)
2. [設定テーブルで設定を記録する](#)
3. [ホストサーバーの電源をオンにする](#)
4. [setupsc コマンドを実行して、カスタマイズした構成プログラムを起動する](#)
5. [設定変数で ALOM ソフトウェアをカスタマイズする](#)

構成のカスタマイズを計画する

ALOM を構成する前に[構成計画](#)を立てます。

設定テーブルの使用

[設定テーブル](#)を印刷し、設定を書き留めておくと便利です。

ホストサーバーの電源をオンにする

システムの電源をオンにする方法については、ホストサーバーのマニュアルを参照してください。ALOM のメッセージを取得する場合、[SERIAL MGT ポート](#)に接続している端末の電源をオンにしてから、ホストサーバーの電源をオンにします。

ホストサーバーに電源が投入されると、直ちに SERIAL MGT ポートがホストサーバーのシステムコンソールに接続されます。ALOM に切り替えるには、「#。」(ハッシュ記号とピリオド)を入力します。起動時は、ALOM には設定済み

の管理者アカウント (admin) が 1 つあります。システムコンソールから ALOM に切り替えると、このアカウントのパスワードを作成するよう要求するメッセージが表示されます有効なパスワードの条件については、[password](#) コマンドのセクションを参照してください。

デフォルトの admin アカウントには、すべての [ALOM ユーザー権限](#) (cuar) が与えられています。このアカウントでは、ホストサーバーからのシステムコンソール出力の表示、他のユーザーアカウントやパスワードの設定、ALOM の構成を行うことができます。

setupsc コマンドの実行

構成計画が完了したら、[setupsc](#) コマンドを使用して、カスタマイズした構成プログラムを実行します。画面の指示に従って ALOM ソフトウェアのインストールをカスタマイズします。

注意: ALOM ソフトウェアのカスタマイズは、ALOM ソフトウェアを使用できるようになってから行ってください。ALOM ソフトウェアは電源投入後、ホストサーバー上ですぐに実行することができます。

setupsc コマンドは、ALOM 機能のカスタマイズ手順を示すスクリプトを実行します。各機能は 1 つまたは複数の [設定変数](#) に関連付けられています。機能を設定する場合、setupsc スクリプトで指示メッセージが表示されたときに `y` と入力します。機能をスキップするには、`n` と入力します。

後から設定を変更する場合は、[setsc](#) コマンドを実行します。

設定変数で ALOM ソフトウェアをカスタマイズする

setupsc スクリプトを使用すると、複数の [設定変数](#) を 1 度に設定することができます。setupsc スクリプトを使用せずに 1 つまたは複数の設定変数を変更するには、[setsc](#) コマンドを使います。

[設定テーブル](#)

[ALOM シェルコマンドの一覧](#)

[ALOM の構成計画](#)

ALOM 構成のカスタマイズ

ALOM ソフトウェアはプリインストールされているため、電源投入後、ホストサーバー上ですぐに実行することができます。ALOM のインストール設定をカスタマイズしてデフォルト設定を変更するには、このセクションの手順に従います。

注意: シリアル管理ポートおよびネットワーク管理ポートの場所については、ホストサーバーのマニュアルを参照してください。

[setupsc](#) コマンドを実行する前に、ALOM の使用方法を決めておく必要があります。構成に関して以下の事項を決定する必要があります。

[使用する ALOM 通信ポート](#)

[警告メッセージの使用の有無および警告メッセージの送信先](#)

これらの事項が決定したら、[設定テーブル](#)を印刷し、`setupsc` コマンドプロンプトからの問い合わせメッセージに回答するときに参照します。

外部モデムの設定

外部の PC や端末からモデムを使用して ALOM に接続するには、外部モデムをシリアル管理ポート (SERIAL MGT) に接続します。これによりリモート PC を使用して ALOM ソフトウェアを実行できるようになります。

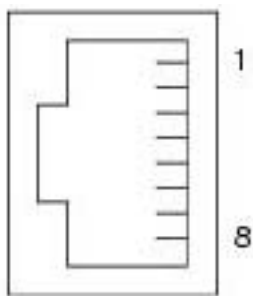
ただし、外部モデムの用途は、シリアルポートに接続して ALOM コマンドプロンプト (sc>) を表示するための受信 ASCII 接続に限られます。モデムを使った ALOM からの送信はサポートされていません。

モデムをシリアル管理ポートに取り付ける前に、出荷時設定にリセットします。モデムの多くが、出荷時設定にリセットするのに AT&F0 コマンドを使用します。

ハードウェアの設定

モデムをシリアル管理ポートに接続するには、専用のピン配列を使用した専用コネクタを作成または購入する必要があります。

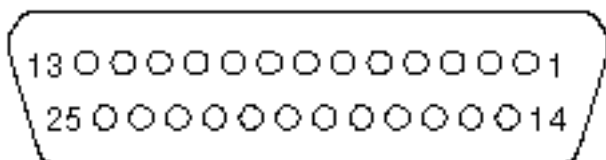
次の図および表で RJ-45 コネクタ関連のピン割り当てと信号について説明しています。次の図は RJ-45 ジャックの例です。



ピン	信号の説明	ピン	信号の説明
1	送信要求 (Request To Send:RTS)	5	接地 (Ground)
2	データ端末レディ (Data Terminal Ready:DTR)	6	受信データ (Receive Data:RXD)

3	送信データ (Transmit Data:TXD)	7	データキャリア検出 (Data Carrier Detect:DCD)
4	接地 (Ground)	8	送信可 (Clear To Send:CTS)

次の図および表で DB-25 コネクタ関連のシリアルポートコネクタと信号について説明しています。次の図は DB-25 メスコネクタの例です。



ピン番号	機能	I/O	信号の説明
1	なし	なし	N.C.*
2	TXD_A	O	送信データ
3	RXD_A	I	受信データ
4	RTS_A	O	送信レディ
5	CTS_A	I	送信可
6	DSR_A	I	データセットレディ
7	GND		信号接地
8	DCD_A	I	データキャリア検出
9	なし	なし	N.C.*
10	なし	なし	N.C.*
11	DTR_B	O	データ端末レディ
12	DCD_B	I	データキャリア検出
13	CTS_B	I	送信可
14	TXD_B	O	送信データ
15	TRXC_A	I	送信クロック
16	RXD_B	I	受信データ
17	RXC_A	I	受信クロック
18	RXC_B	I	受信クロック
19	RTS_B	O	送信レディ
20	DTR_A	O	データ端末レディ

21	なし	なし	N.C.*
22	なし	なし	N.C.*
23	なし	なし	N.C.*
24	TXC_A	O	送信クロック
25	TXC_B	O	送信クロック

* N.C. は「接続なし」の意味です。

モデムをこのポートに接続するには、Part No. 530-2889-03 の RJ-45 to DB-25 コネクタ (一部変更したもの) および RJ-45 to RJ-45 クロスオーバーケーブルを使用する方法があります。コネクタ 530-2889-03 はピン 6 の位置から DB-25 ピンを抜いてピン 8 の位置に差し込み、変更します。

自分で配線する場合、以下の情報に従って RJ-45 コネクタと DB-25 コネクタ間の信号を変換してください。

RJ-45	DB-25
1 - RTS	5 - CTS
2 - DTR	6 - DSR
3- TXD	3 - RXD
4 - GND	7 - GND
5 - RXD	7 - GND
6 - RXD	2- TXD
7 - DCD	8 - DCD
8 - CTS	4 - RTS

モデム設定の障害追跡

問題	解決方法

ALOM モデムが応答しない	正しく配線されていることを確認します。詳細は、 ハードウェアの設定 を参照してください。
ALOM モデムの応答がすぐに途絶える	if_modem 変数が true に設定されていることを確認します。
ALOM モデムが応答しているが接続していないようだ	<ol style="list-style-type: none">1. ALOM エスケープ文字 #. (ハッシュ記号とピリオド) を入力して、sc> プロンプトに戻ることができるかを確認します。2. シリアルポートとモデムポートの速度が同じ値に設定されていることを確認します。3. データ圧縮を無効にしてみます。モデムの多くが、AT&K0 モデムコマンドを使用して無効にします。

[if_modem](#)

ALOM 通信ポートの選択

ALOM ハードウェアには 2 種類の通信ポートがあります。

シリアル管理ポート (SERIAL MGT)
ネットワーク管理 (Ethernet) ポート (NET MGT)

どちらのポートでも ALOM コマンドシェルを使用することができます。デフォルトでは、ALOM の起動時の通信には SERIAL MGT ポートが使用されます。

注意: サーバーのシリアル管理およびネットワーク管理 (Ethernet) 接続の場所については、ホストサーバーのマニュアルを参照してください。

シリアル管理ポート

ASCII 端末で[シリアル管理ポートに接続](#)することができます。このポートは汎用シリアルポートではなく、ALOM への接続および ALOM を使用したシステムコンソールへの接続に使用されます。ホストサーバー上では、このポートは SERIAL MGT ポートと呼ばれます。

詳細は、サーバーのマニュアルを参照してください。

ネットワーク管理 (Ethernet) ポート

10 MB Ethernet ポートを使用すると、社内ネットワークから ALOM にアクセスすることができます。標準の Telnet クライアントと TCP/IP (Transmission Control Protocol/Internet Protocol) で ALOM にリモート接続できます。

ホストサーバー上では、ネットワーク管理ポートは NET MGT ポートと呼ばれません。

注意: 端末デバイスを NET MGT ポートに接続する場合、サーバーを 10 メガビットのネットワークに接続する必要があります。ALOM では 100 メガビットおよび 1 ギガビットのネットワークをサポートしていません。

詳細は、サーバーのマニュアルを参照してください。

シリアル管理ポートの機能

ALOM から他のデバイスにシステムコンソールをリダイレクトする

ホストサーバーに初めて電源を投入すると、ALOM は最初にシステムコンソール出力が表示されるように設定されます。ホストサーバー上では SERIAL MGT ポートは `ttya` と表示されます。

システムコンソールに接続するデバイスは、シリアル管理ポートに接続されている端末以外のデバイスでも構いません。また、ホストサーバーの背面パネルにある汎用シリアルポート (`ttyb`) を使用することもできます。このポートには 10101 というラベルが付いています。詳細は、サーバーのマニュアルを参照してください。

システムコンソールのリダイレクト

システムコンソールからの出力を `ttyb` にリダイレクトするには、以下の手順に従います。

1. ALOM の `sc>` プロンプトで `break` コマンドを入力して、ホストサーバーに OpenBoot PROM プロンプト (`ok`) を表示します。(`kadb` デバッガを構成している場合は、「`$#`」と入力して `kadb` を終了します)。
2. `sc>` プロンプトで `console` コマンドを入力し、サーバーのシステムコンソールに接続します。

```
sc> console
ok
```
3. `ok` プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
ok setenv input-device ttyb
ok setenv output-device ttyb
```
4. これらの変更をすぐに適用するには、`ok` プロンプトで `reset-all` と入力します。このコマンドを入力しなければ、変更は次回ホストサーバーの電源を再投入したときに適用されます。

次に説明するように、これらの変更は OpenBoot PROM の設定を手動で ALOM (`ttya`) に戻すまで有効です。

デフォルトコンソールを ALOM (`ttya`) にリ

セットする

システムコンソール出力をリダイレクトして ALOM に戻すには、OpenBoot PROM の `ok` プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
ok setenv input-device ttya  
ok setenv output-device ttya
```

これらの変更をすぐに適用するには、`ok` プロンプトで `reset-all` と入力します。このコマンドを入力しなければ、変更は次回ホストサーバーの電源を再投入したときに適用されます。

設定テーブル

注意: ALOM のインストールをカスタマイズする場合にのみ、この表を使用します。

ALOM をカスタマイズするには、[設定変数](#)を使用します。ALOM の設定変数の設定方法は 2 種類あります。

[setupsc](#) コマンドの実行時に変数の値を指定する。

[setsc](#) コマンドで個々の変数を設定する。

このセクションを印刷し、入力時に下の表を参照してください。この表は、サーバーソフトウェアの再インストールや ALOM 設定の変更が必要な場合のホストサーバーの設定記録として役立ちます。

[端末デバイスが ALOM に接続されている](#)ことを確認してから ALOM ソフトウェアをカスタマイズしてください。ALOM 用シリアル接続および Ethernet 接続の場所については、ホストサーバーのマニュアルを参照してください。

Ethernet 接続の設定

機能	値 / 応答	設定変数	デフォルト変数
ネットワーク構成の制御方法	手動 DHCPを使用		
ALOM の IP (インターネットプロトコル) アドレス		netsc_ipaddr	0.0.0.0
サブネットマスクの IP アドレス		netsc_ipnetmask	255.255.255.0

宛先が ALOM と異なるサブネットにある場合に使用するデフォルトゲートウェイの IP アドレス		netsc_ipgateway	0.0.0.0
電子メールによる警告送信の有無 警告の送信に使用する電子メールアドレス		mgt_mailalert	[] デフォルトでは電子メールアドレスは設定されていません。
SMTP (Simple Mail Transfer Protocol) メールサーバーの IP アドレス (最大 2 つのメールサーバーを使用可)		mgt_mailhost	

注意: ユーザーアカウントの設定を手動で行うことはできますが、`setupsc` スクリプトを使用することはできません。

[ALOM 設定変数の概要](#)

[権限レベル](#)

[userpassword](#)

DHCP の構成

ALOM 用に DHCP (動的ホスト構成プロトコル) を構成する方法は 2 種類あります。

[setupsc](#) スクリプトで [netsc_dhcp](#) 変数を設定する。

[setsc](#) コマンドで [netsc_dhcp](#) 変数の値に `true` (DHCP を有効にする) を設定する。

注意: ネームサーバーマップ (NIS または DNS) の IP (インターネットプロトコル) に関連付ける ALOM デバイス名には、ホストサーバー名の後ろに `-sc` を追加した名前を設定することをお勧めします。たとえば、ホストサーバー名が `bert` の場合、ALOM デバイス名は `bert-sc` です。

DHCP でネットワーク構成を制御する場合、ALOM に固定 IP アドレスが割り当てられるように DHCP サーバーを設定します。

手動によるネットワーク設定

ALOM 用に手動でネットワークを構成する方法は 2 種類あります。

[setupsc](#) スクリプトで [ネットワーク設定変数](#) を一度に設定する。

[setsc](#) コマンドで各ネットワーク設定変数の値を個別に設定する。

各変数を個別に設定する場合、以下の変数を設定する必要があります。

[if_network](#)

[netsc_ipaddr](#)

[netsc_ipnetmask](#)

[netsc_ipgateway](#)

[netsc_enetaddr](#)

注意: ネームサーバーマップ (NIS または DNS) の IP (インターネットプロトコル) に関連付ける ALOM デバイス名には、ホストサーバー名の後ろに `-sc` を追加した名前を設定することをお勧めします。たとえば、ホストサーバー名が `bert` の場合、ALOM デバイス名は `bert-sc` です。

シリアル管理ポートの使用

シリアル管理ポート (SERIAL MGT) は、外部端末と ALOM またはホストサーバーとの ASCII 通信を行うための専用ポートです。このポートは標準の RJ-45 コネクタを使用します。

このシリアルポートはワークステーションからのシリアル接続などの外部端末または端末エミュレータにのみ使用可能です。ALOM シリアルポートは汎用シリアルポートではありませんが、Solaris オペレーティング環境はこのポートを `ttya` として認識します。

汎用シリアルポートを使用する場合は、サーバーの背面パネルにある通常の 7 ピンシリアルポートを使用してください。Solaris オペレーティング環境はこのポートを `ttymb` として認識します。サーバーのシリアルポートの詳細は、サーバーのマニュアルを参照してください。

シリアル管理ポートでシステムコンソールに接続する

開始する前に

初めてサーバーと外部端末の電源をオンにしたとき、シリアル管理ポートは自動的にシステムコンソール出力に接続します。

シリアル管理ポートには以下のパラメタが設定されます。

- 9600 baud
- 8 ビット
- パリティなし
- ストップビット 1
- ハンドシェイクなし

ホストサーバーは起動時にこれらのパラメタを自動設定します。設定は読み取り専用で、ALOM の `sc>` プロンプトから変更することはできません。ALOM セッションを確立した後に `sc>` プロンプトからパラメタの設定を参照するには、[シリアルポート変数](#)を確認します。

操作方法

1. [ALOM に接続](#)して[ログイン](#)し、ALOM システムコントローラのセッションを確立します。
ALOM の `sc>` プロンプトが表示されます。
2. システムコンソールに接続するには、ALOM システムコントローラウィンドウで次のように入力します。

```
sc> console
```

システムコンソールと ALOM との切り替え

システムコンソール出力から ALOM の `sc>` プロンプトに切り替えるには、「#。」(ハッシュ記号とピリオド)を入力します。

`sc>` プロンプトからシステムコンソールに切り替えるには、`console` を入力します。

注意: #. (ハッシュ記号とピリオド) 文字シーケンスは、ALOM のデフォルトエスケープ文字シーケンスです。必要に応じて、[sc_escapechars](#) 変数を使用して、このエスケープシーケンスの最初の 1 文字を変更することができます。次はその例です。

```
sc> setsc sc_escapechars a.
```

注意: システムコンソールからの出力を一時的にシリアル管理ポートにリダイレクトするには、『Sun Fire V440 Server Administration Guide』の「About Performing OpenBoot Emergency Procedures」の説明に従って IDPROM 変数をリセットします。または、[システムコンソールをリダイレクト](#)します。

電子メールによる警告の設定

ホストサーバーに問題が発生すると、そのホストの ALOM アカウントにログイン中のすべてのユーザーに対して警告メッセージが送信されます。また、ALOM の設定によりログインしていないユーザーに電子メールによる警告を送信することもできます。警告を受けたユーザーは、該当のホストサーバーの ALOM アカウントに接続して問題に対処することができます。

電子メールによる警告

電子メールによる警告を送信するには、[ネットワーク管理 \(Ethernet\) ポート](#)を有効にする必要があります。ALOM ソフトウェアでは、警告メールの一意的受信用電子メールアドレスを最大 8 件まで設定することができます。各電子メールアドレスに固有の警告の重要度 (critical、major、または minor) を受信するように設定できます。

[電子メールによる警告の設定](#)

警告の送受信

ALOM から警告を受信する

ALOM は次の形式で警告メッセージを生成します。

```
$HOSTID $EVENT $TIME $CUSTOMERINFO $HOSTNAME message
```

カスタマイズした警告の送信

カスタマイズした警告を送信するには、scadm コマンドの [send_event](#) を使用します。方法は次の 2 種類があります。

[スーパーユーザーのプロンプトから](#)すぐに警告を送信する。

指定の状況で警告を送信する[スクリプトを作成する](#) (コマンドファイル)。

ALOM の一般的なタスク

ALOM に admin でログインし、admin パスワードを指定すると、次のような一般的な管理タスクを実行できます。

- [ALOM ユーザーアカウントの追加](#)
- [ALOM ユーザーアカウントの削除](#)
- [自分のアカウントまたは他のユーザーのアカウントのパスワードを変更する](#)
- [システムコンソールと ALOM との切り替え](#)
- [ALOM の設定を変更して Ethernet \(NET MGT\) ポートを使用する](#)
- [電子メールによる警告の設定](#)
- [ALOM のリセット](#)
- [ホストサーバーのリセット](#)

その他にも、ALOM には以下の機能があります。

- [ALOM のバージョン確認](#)
- [ロケータ LED の制御](#)
- [サーバーの環境情報の表示](#)
- [イベントログおよびコンソールログの確認](#)
- [ALOM から警告を送信するスクリプトの作成](#)
- [ALOM 構成のバックアップ](#)

[ALOM の概要](#)

ALOM の設定を変更してネットワーク管理ポートを使用する

デフォルトでは、ALOM はシリアル管理ポート (SERIAL MGT) を使用して、外部端末や他の ASCII デバイスとの通信を行います。必要に応じて、ALOM の設定を変更し、Ethernet ネットワーク管理 (NET MGT) ポートを使って telnet で ALOM に接続することもできます。

NET MGT ポートは標準の RJ-45 コネクタをサポートします。NET MGT ポートとネットワークとのハードウェア接続の確立方法については、サーバーのマニュアルを参照してください。

注意: 端末デバイスを NET MGT ポートに接続する場合、サーバーを 10 メガビットのネットワークに接続する必要があります。ALOM では 100 メガビットおよび 1 ギガビットのネットワークをサポートしていません。

ALOM ソフトウェアを設定して NET MGT ポートを使用した通信をするには、[ネットワークインタフェース変数](#)の値を指定する必要があります。これらの変数の設定方法は 3 種類あります。

sc> プロンプトから [setupsc](#) スクリプトを実行します。

[sc> プロンプトから setsc](#) コマンドを指定して各変数の値を設定します。

[scadm set](#) コマンドを指定して[システムコンソールから各変数の値を設定](#)します。

setupsc スクリプトの実行

sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> setupsc
```

設定スクリプトが開始します。

スクリプトを終了し、変更を保存するには、Ctrl キーを押しながら Z キーを押します。変更を保存せずにスクリプトを終了するには、Ctrl キーを押しながら C キーを押します。

スクリプトの開始例を次に示します。

```
sc> setupsc
```

対話型のスクリプトモードになります。この時点で終了して変更を破棄するには、Ctrl キーを押しながら c キーを押し、終了して変更を保存するには、Ctrl キーを押しながら z キーを押しします。

必要に応じて、スクリプトの対話型の質問に答えていくことで、1 度にすべての [ALOM 設定変数](#) をカスタマイズできます。[ネットワークインタフェース変数](#) のみを設定するには、次のプロンプトが表示されるまで、各プロンプトで Enter キーを押します。

```
Do you wish to configure the enabled interfaces [y]?
```

上記のプロンプトで、以下の手順に従ってネットワークインタフェース変数を設定します。

1. ネットワークインタフェース変数の設定を確定するには、y を入力します。

setupsc スクリプトから次のプロンプトが表示されます。

```
Should the SC network interface be enabled?
```

2. ネットワークインタフェースを有効にするには true を入力するか、Enter キーを押し、無効にするには false を入力します。これで [if_network](#) 変数の値が設定されます。
3. スクリプトの対話型の質問に答えていきます。以下の変数の値を設定するよう指示するよう要求されます。
 - [if_modem](#) -- false を指定する
 - [netsc_dhcp](#)
 - [netsc_ipaddr](#)
 - [netsc_ipnetmask](#)
 - [netsc_ipgateway](#)
 - [netsc_tpelinktest](#)
4. ネットワークインタフェース変数の設定が完了したら、Ctrl キーを押しながら Z キーを押して変更を保存し、setupsc スクリプトを終了します。必要に応じて、すべての ALOM 設定変数の設定を終了することができます。
5. ネットワーク構成を使用する前に、ALOM をリセットする必要があります。方法は次の 2 種類があります。
 - sc> プロンプトで [resetsc](#) コマンドを入力します。

- システムコンソールのスーパーユーザープロンプトで [scadm](#) [resetrsc](#) コマンドを入力します。

setsc コマンドでネットワークインタフェース変数を設定する

ネットワークインタフェース変数の値を設定するには、`sc>` プロンプトから `setsc` コマンドを指定します。設定する各変数ごとにコマンドを 1 回発行します。次はその例です。

```
sc> setsc if_network true
sc> setsc netsc_enetaddr 0a:2c:3f:1a:4c:4d
sc> setsc netsc_ipaddr 123.123.123.123
```

以下の各変数の値を指定 (またはデフォルト値を使用) します。

- [if_network](#)
- [if_modem](#)
- [netsc_dhcp](#)
- [netsc_ipaddr](#)
- [netsc_ipnetmask](#)
- [netsc_ipgateway](#)
- [netsc_tpelinktest](#)

scadm set コマンドでネットワークインタフェース変数を設定する

ネットワークインタフェース変数の値を設定するには、システムコンソールのスーパーユーザー (#) プロンプトから `scadm set` コマンドを指定します。設定する各変数ごとにコマンドを 1 回発行します。次はその例です。

```
# scadm set if_network true
# scadm set netsc_enetaddr 0a:2c:3f:1a:4c:4d
# scadm set netsc_ipaddr 123.123.123.123
```

以下の各変数の値を指定 (またはデフォルト値を使用) します。

- [if_network](#)

[if_modem](#)

[netsc_dhcp](#)

[netsc_ipaddr](#)

[netsc_ipnetmask](#)

[netsc_ipgateway](#)

[netsc_tpelinktest](#)

[ALOM 設定変数の概要](#)

ALOM ユーザーアカウントの追加

ALOM ユーザーアカウントの追加方法には次の 2 種類があります。

ALOM コマンドシェルの [sc> プロンプトから](#)追加する。

[システムコンソールから scadm](#)ユーティリティを使用して追加する。

最大 15 件の一意のユーザーアカウントを ALOM に追加することができます。

sc> プロンプトから ALOM ユーザーアカウントを追加する

sc> プロンプトから ALOM ユーザーアカウントを追加および設定するには、以下の手順に従います。

1. sc> プロンプトで [useradd](#) コマンドを入力し、その後にユーザーに割り当てるユーザー名を入力します。次はその例です。

```
sc> useradd joeuser
```

2. アカウントにパスワードを割り当てるには、[userpassword](#) コマンドを入力し、その後にアカウントに割り当てるユーザー名を入力します。パスワードの入力を要求され、パスワードが確認されます。実際のパスワードは画面にエコー表示されません。次はその例です。

```
sc> userpassword joeuser
```

```
New password:
```

```
Re-enter new password:
```

注意: パスワードには一定の[制限](#)があります。指定したパスワードがこれらの制限に準拠していることを確認してください。

3. アカウントに権限を割り当てるには、[userperm](#) コマンドを入力し、その後にアカウントに割り当てるユーザー名とそのユーザーに与える[権限レベル](#)を入力します。次はその例です。

```
sc> userperm joeuser cr
```

1 件の ALOM ユーザーの権限とパスワードの状態を表示するには、sc> プロンプ

トで [usershow](#) コマンドを入力し、その後に指定するユーザー名を入力します。次はその例です。

```
sc> usershow joeuser
```

Username	Permissions	Password?
-----	-----	-----
joeuser	cr	Assigned

ALOM ユーザーアカウント、権限、およびパスワードの状態一覧を表示するには、sc> プロンプトで [usershow](#) と入力します。次はその例です。

```
sc> usershow
```

Username	Permissions	Password?
-----	-----	-----
admin	cuar	Assigned
wwilson	--cr	None
joeuser	--cr	Assigned

scadm ユーティリティでALOM ユーザーアカウントを追加する

システムコンソールから ALOM ユーザーアカウントを追加および設定するには、[scadm](#) ユーティリティを使用し、以下の手順に従います。

1. システムコンソールに root でログインします。
2. # プロンプトで [scadm useradd](#) コマンドを入力し、その後にユーザーに割り当てるユーザー名を入力します。次はその例です。

```
# scadm useradd joeuser
```

3. アカウントにパスワードを割り当てるには、[scadm userpassword](#) コマンドを入力し、その後にアカウントに割り当てるユーザー名を入力します。パスワードの入力を要求され、パスワードが確認されます。実際のパスワードは画面にエコー表示されません。次はその例です。

```
# scadm userpassword joeuser
```

```
New password:
```

Re-enter new password:

注意: パスワードには一定の制限があります。指定したパスワードがこれらの制限に準拠していることを確認してください。

4. アカウントに権限を割り当てるには、[scadm userperm](#) コマンドを入力し、その後にアカウントに割り当てるユーザー名とそのユーザーに与える[権限レベル](#)を入力します。次はその例です。

```
# scadm userperm joeuser cr
```

1 件の ALOM ユーザーの権限とパスワードの状態を表示するには、# プロンプトで [scadm usershow](#) コマンドを入力し、その後に指定するユーザー名を入力します。次はその例です。

```
# scadm usershow joeuser
```

Username	Permissions	Password?
-----	-----	-----
joeuser	cr	Assigned

ALOM ユーザーアカウント、権限、およびパスワードの状態一覧を表示するには、# プロンプトで [scadm usershow](#) と入力します。次はその例です。

```
# scadm usershow
```

Username	Permissions	Password?
-----	-----	-----
admin	cuar	Assigned
wwilson	--cr	None
joeuser	--cr	Assigned

ALOM ユーザーアカウントの削除

ALOM ユーザーアカウントの削除方法には次の 2 種類があります。

ALOM コマンドシェルの [sc> プロンプトから](#)追加する。

[システムコンソールから scadm](#)ユーティリティを使用して追加する。

注意: デフォルトの `admin` アカウントを ALOM から削除することはできません。

sc> プロンプトから ALOM ユーザーアカウントを削除する

sc> プロンプトから ALOM ユーザーアカウントを削除するには、以下の手順に従います。

sc> プロンプトで [userdel](#) コマンドを入力し、その後に削除するアカウントのユーザー名を入力します。次はその例です。

```
sc> userdel joeuser
```

```
Are you sure you want to delete user <joeuser> [y/n]? y
```

```
sc>
```

scadm ユーティリティでALOM ユーザーアカウントを削除する

システムコンソールから ALOM ユーザーアカウントを削除するには、[scadm](#) ユーティリティを使用し、以下の手順に従います。

1. システムコンソールに `root` でログインします。
2. # プロンプトで [scadm userdel](#) コマンドを入力し、その後に削除するアカウントのユーザー名を入力します。次はその例です。

```
# scadm userdel joeuser
```

Are you sure you want to delete user <joeuser> [y/n]? **y**
#

ALOM アカウントパスワードの変更

自分の ALOM パスワードを変更する

ALOM アカウントパスワードの変更を `sc>` プロンプトから行うことができます。パスワードを変更するにはユーザー権限は不要です。

`sc>` プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> password
```

このコマンドを使用すると、現在のパスワードの入力を要求されます。正しいパスワードを入力すると、新しいパスワードの入力を 2 回要求されます。

次はその例です。

```
sc> password
password: Changing password for username
Enter current password: *****
Enter new password: *****
Re-enter new password: *****
sc>
```

他のユーザーの ALOM パスワードを変更する

注意: 他のユーザーのパスワードを変更するには、[u レベルのユーザー権限](#)が必要です。

他のユーザーの ALOM アカウントのパスワードを変更する方法は次の 2 種類あります。

`sc>` プロンプトで [userpassword](#) コマンドを入力します。

システムコンソールの # (スーパーユーザー) プロンプトで [scadm userpassword](#) コマンドを入力します。

電子メールによる警告の設定

ALOM をカスタマイズして、特定のイベントが発生したときに、ALOM にログインしているすべてのユーザーに電子メールによる警告を送信することができます。送信する警告の警告レベル (Critical (高)、Major (中)、Minor (低)) をユーザーごとに指定したり、[イベントメッセージをカスタマイズして各ユーザーに電子メールで送信](#)したりすることが可能です。

注意: 電子メールによる警告を設定できるのは最大 8 ユーザーです。

電子メールによる警告を設定するには、以下の手順に従います。

1. [ALOM で Ethernet ネットワーク管理ポート \(NET MGT\) が使用できるように設定されていること、およびネットワークインタフェース変数が設定されていることを確認します。](#)
2. [if_emailalerts 変数を true に設定します。](#)
3. [mgt_mailhost 変数の値を設定し、ネットワーク上の 1 つまたは 2 つのメールホストを指定します。](#)
4. [mgt_mailalert 変数の値を設定し、各ユーザーの電子メールアドレスと警告レベルを指定します。](#)

[警告の送受信](#)

警告の送受信

カスタマイズした警告の送信

重要度が Critical (高) の警告をカスタマイズして送信するには、システムコンソールから `scadm` の `send_event -c` コマンドを使用します。このコマンドを [スーパーユーザプロンプトで直接実行する](#) ことも、指定の状況で警告を送信する [スクリプトを作成する](#) こともできます。

イベントのレベルには次の 3 種類があります。

- Critical (高)
- Major (中)
- Minor (低)

警告の受信

`sc>` プロンプトを表示している場合、重要度が Major (中) または Critical (高) のイベントが検出されたときに ALOM から警告メッセージを受信します。警告メッセージは ALOM コマンドの入力中に表示されることがあります。この場合、Enter キーを押してコマンドを再入力してください。次はその例です。

```
sc> cons
```

```
MAJOR: Fan1 Faulty
```

```
sc> console
```

スクリプトの作成

`scadm` の `send_event` コマンドをスクリプトに組み込んで、ALOM イベントのログ記録や、一定の状況が発生したときの警告の送信を行うことができます。重要度が「高」の警告をカスタマイズして送信するには、`-c` オプションを使用します。

次の例は、`dmon.pl` という名前の Perl スクリプトで指定のディスクパーティションが一定容量 (%) を超えたときに ALOM 警告を送信する場合を示しています。

注意: このスクリプトは Sun Fire V440 ホストサーバー用に記述されています。ホストサーバーのプラットフォーム名を取得するには、`uname -i` コマンドを使用します。次の例の `SUNW,Sun-Fire-V440` の文字は適宜変更してください。

このスクリプトを使用するには、監視する各ディスクパーティションごとに個別のエントリを `crontab` ユーティリティに送信します。

```
#!/usr/bin/perl

# Disk Monitor
# USAGE: dmon <mount> <percent>
# e.g.: dmon /usr 80

@notify_cmd = `/usr/platform/SUNW,Sun-Fire-V440/sbin/scadm`;

if (scalar(@ARGV) != 2)
{
print STDERR "USAGE: dmon.pl <mount_point> <percentage>¥n";
print STDERR " e.g. dmon.pl /export/home 80¥n¥n";
exit;
}

open(DF, "df -k|");
$title = <DF>;

$found = 0;
while ($fields = <DF>)
{
chop($fields);
($fs, $size, $used, $avail, $capacity, $mount) = split(` `, $fields);
if ($ARGV[0] eq $mount)
{
```

```
$found = 1;
if ($capacity > $ARGV[1])
{
print STDERR "ALERT: ¥%", $mount, "¥" is at ", $capacity,
" of capacity, sending notification¥n";
$notify_msg = `mount point "`.$mount.`" is at `.`.
$capacity.` of capacity`;
exec (@notify_cmd, `send_event`, `-c`, $notify_msg)
|| die "ERROR: $!¥n";
}
}
}

if ($found != 1)
{
print STDERR "ERROR: ¥%", $ARGV[0],
"¥" is not a valid mount point¥n¥n";
}

close(DF);
```

ALOM のリセット

ALOM をリセットすると、ALOM ソフトウェアが再起動します。設定変数に新しい値を指定するなど、ALOM の設定を変更後にリセットすることもできます。ALOM が応答しなくなった場合にシステムコンソールからリセットすることもできます。

ALOM をリセットする方法は 2 種類あります。

sc> プロンプトで [reset](#) コマンドを入力します。

システムコンソールのスーパーユーザー (#) プロンプトで [scadm](#)
[reset](#) コマンドを入力します。

ホストサーバーのリセット

sc> プロンプトからホストサーバーをリセットする方法は 4 種類あります。

サーバーを正常にリセットするには、[poweroff](#) コマンドを入力し、その後 [poweron](#) コマンドを入力します。正常なリセットにより Solaris オペレーティング環境は停止します。poweroff コマンドを入力して、poweron コマンドを入力しない場合、ホストサーバーはスタンバイモードになります。

ホストサーバーの状態に関係なくサーバーを強制的に停止するには、[poweroff -f](#) コマンドを入力し、その後 [poweron](#) コマンドを入力します。これにより、Solaris オペレーティング環境に障害が発生した場合または停止した場合でも、ホストサーバーは直ちにリセットされます。これは正常な停止ではないため、データが消失する可能性があります。

サーバーを正常に停止せず、直ちにリセットするには、[reset](#) コマンドを入力します。reset -x オプションは XIR (外部操作による初期リセット) と同様の機能です。

サーバーに OpenBoot PROM プロンプト (ok) を表示するには、[break](#) コマンドを入力します。

注意: poweroff コマンドまたは poweroff -f コマンドを発行すると、次のメッセージが表示されます。

```
SC Alert: Host system has shut down.
```

このメッセージが表示されるのを確認してから poweron コマンドを発行してください。

ALOM への接続

Sun Fire V210、V240 および V440 の各サーバーでは Ethernet ポートに NET MGT というラベルが付いています。シリアルポートには SERIAL MGT というラベルが付いています。これらのポートについて、およびポートへのデバイスの接続方法の詳細は、サーバーのインストールガイドを参照してください。

ALOM に接続する方法を以下に示します。

ASCII 端末を直接 [SERIAL MGT ポート](#) に接続する。

telnet コマンドを使用し、[NET MGT ポートに取り付けられた Ethernet 接続](#)で ALOM に接続する。

[外部モデムを SERIAL MGT ポートに接続](#)し、モデムにダイヤルインする。
このポートでは外部モデムへの発信呼び出しはサポートされていません。

端末サーバーのポートを SERIAL MGT ポートに接続し、telnet コマンドで端末サーバーに接続する。

上記の接続、および tip 接続などの上記以外の接続の詳細は、サーバーのインストールガイドおよび管理マニュアルを参照してください。

[ALOM 通信ポートの選択](#)

[ALOM アカウントへのログイン](#)

[シリアル管理ポートの使用](#)

ALOM アカウントへのログイン

初めて ALOM に接続したときは、自動的に admin アカウントで接続されます。このアカウントにはすべての [\(cuar\) 権限](#)が与えられます。ALOM の使用を続けるには、先にこのアカウントのパスワードを指定する必要があります。パスワードを指定すると、ALOM の使用を続行できるようになります。次回ログインするときは、パスワードを指定する必要があります。admin でログインすると、[ユーザーの追加](#)、[パスワードの指定](#)、[権限の設定](#)を行うことができます。

すべてのユーザー (admin およびその他のユーザー) は、以下の手順で ALOM にログインします。

1. [ALOM に接続します](#)。
2. 接続が確立されたら、「#.」(ハッシュ記号とピリオド)を入力して、システムコンソールからエスケープします。
3. ALOM ログイン名とパスワードを入力します。

実際のパスワードは画面にエコー表示されず、入力した各文字がアスタリスク (*) で画面に表示されます。ログインに成功すると、コマンドプロンプトが表示されます。

```
sc>
```

これで [ALOM コマンド](#)の使用または[システムコンソールへの移動](#)を行うことができます。

ALOM [イベントログにログイン情報が記録されます](#)。5 分間でログインに 6 回以上失敗すると、重要度が「高」のイベントが生成されます。

[ALOM ログ表示コマンド](#)

ALOM 構成のバックアップ

[scadm コマンド](#)で定期的によりモートシステムの ALOM 構成のバックアップファイルを作成する必要があります。次のコマンドは、scadm コマンドを使用して remote-filename というバックアップファイルに情報をコピーする方法を示しています。

注意: これらのコマンドを使用する前に、[scadm ユーティリティにパスを設定する](#)必要があります。

```
# scadm show > remote-filename
# scadm usershow > remote-filename
#
```

ファイル名には、ALOM が制御するサーバー名を含めたわかりやすい名前を付けてください。必要があれば、後からこのファイルを参照して設定を復元することができます。

ロケータ LED の制御

ホストサーバーにフロントパネルロケータ LED があれば、ALOM で LED のオン / オフ制御や、LED の状態確認を行うことができます。ホストサーバーにフロントパネルロケータ LED がなければ、このコマンドは機能しません。

注意: ALOM 1.1 では次のプラットフォームのみをサポートします。

- Sun Fire V210 サーバー
- Sun Fire V240 サーバー
- Sun Fire V440 サーバー

これらのサーバーすべてに、フロントパネルにロケータ LED が付属しています。

LED をオンまたはオフにするには、[setlocator](#) コマンドを使用します。

LED の状態を確認するには、[showlocator](#) コマンドを使用します。

[ALOM の一般的なタスク](#)

ALOM コマンドシェルの概要

ALOM コマンドシェルは ALOM と対話するための単純なコマンド行インタフェースです。ALOM コマンドシェルでは、ホストサーバーの管理、診断、制御や、ALOM の構成および管理を行うことができます。ALOM コマンドシェルには `sc>` プロンプトが表示されます。

ALOM は 1 サーバーあたり、同時に 4 つの Telnet セッションと 1 つのシリアルセッションをサポートします。これにより、1 度に 5 つのコマンドシェルを実行可能です。

[ALOM アカウントにログインする](#)と、ALOM コマンドプロンプト (`sc>`) が表示されます。ここで [ALOM コマンド](#)を入力することができます。

注意: これらのコマンドの一部は [scadm](#) ユーティリティの[コマンド](#)としても実行可能です。

コマンドオプションの入力方法

使用するコマンドに複数のオプションがある場合、次の例に示すように、各オプションを個別に入力することも、まとめて入力することもできます。次の 2 つのコマンドの機能は同じです。

```
sc> poweroff -f -y
```

```
sc> poweroff -fy
```

[ALOM シェルコマンド](#)

[ALOM シェルのエラーメッセージ](#)

[ALOM アカウントへのログイン](#)

[警告の送受信](#)

ALOM コマンドの種類

ALOM ソフトウェアには以下の種類のコマンドがあります。

[サーバーの状態および制御コマンド](#)

[ログ表示コマンド](#)

[構成コマンド](#)

[FRU コマンド](#)

[その他のコマンド](#)

[ALOM シェルコマンド](#)

構成コマンド

ALOM 特性またはホストサーバーの構成の設定や表示に使用するコマンドを以下に示します。

[password](#)
[setdate](#)
[setdefaults](#)
[setsc](#)
[setupsc](#)
[showplatform](#)
[showfru](#)
[showusers](#)
[showsc](#)
[showdate](#)
[usershow](#)
[useradd](#)
[userdel](#)
[userpassword](#)
[userperm](#)

[ALOM シェルコマンド](#)

[ALOM コマンドの種類](#)

ログ表示コマンド

ALOM のイベントログおよびコンソールログを表示するコマンドを以下に示します。

[showlogs](#)

[consolehistory](#)

[ALOM シェルコマンド](#)

[ALOM コマンドの種類](#)

サーバーの状態および制御コマンド

サーバーの状態表示およびサーバー操作の制御を行うコマンドを以下に示します。

[showenvironment](#)

[shownetwork](#)

[console](#)

[break](#)

[bootmode](#)

[flashupdate](#)

[reset](#)

[poweroff](#)

[poweron](#)

[setlocator](#)

[showlocator](#)

[ALOM シェルコマンド](#)

[ALOM コマンドの種類](#)

FRU コマンド

ALOM では、ホストサーバーの FRU (現場交換可能ユニット) の状態を監視することができます。以下の ALOM シェルコマンドがあります。

[showfru](#)

[removefru](#)

[ALOM シェルコマンド](#)

[ALOM コマンドの種類](#)

[FRU エラー](#)

その他のコマンド

ALOM には以下の追加コマンドがあります。

[help](#)

[logout](#)

[ALOM シェルコマンド](#)

[ALOM コマンドの種類](#)

ALOM シェルコマンド

次の表は ALOM シェルコマンドとその機能概要を示しています。各コマンドの詳細は、コマンド名をクリックしてください。

コマンド	説明
help	ALOM コマンドの一覧およびその構文と機能概要を表示します。
resetsc [-y]	ALOM を再起動します。-y オプションを指定すると、確認メッセージを表示しないようにすることができます。
reset [-y] [-x]	ホストサーバーのハードウェアリセットを生成します。-x オプションはサーバーの XIR (外部操作による初期リセット) と同様の機能です。-y オプションを指定すると、確認メッセージを表示しないようにすることができます。
poweroff [-y] [-f]	ホストサーバーからの主電源を切断します。-y オプションを指定すると、確認メッセージを表示しないようにすることができます。-f オプションを指定すると、ただちに強制停止します。
poweron	ホストサーバーまたは FRU に主電源を投入します。
flashupdate	ALOM ファームウェアをアップデートします。このコマンドでは、メインファームウェアイメージおよび bootmon ファームウェアイメージを ALOM にダウンロードします。
removefru [-y] [FRU]	電源などの FRU の取り外し準備を行い、ホストサーバーの取り外し可能 LED を点灯します。-y オプションを指定すると、確認メッセージを表示しないようにすることができます。
setsc	指定した ALOM パラメータに、割り当てられた値を設定します。

setupsc	対話型構成スクリプトを実行します。このスクリプトでは、 ALOM 設定変数 を設定します。
setdate	管理対象オペレーティングシステムが非稼働のときに、日付と時刻を設定します。
setdefaults [-y] [-a]	すべての ALOM 構成パラメータをデフォルト値にリセットします。-y オプションを指定すると、確認メッセージを表示しないようにすることができます。-a オプションを指定すると、ユーザー情報が出荷時設定にリセットされます (1 つの admin アカウントのみ)。
setlocator [on/off]	サーバーのロケータ LED をオンまたはオフにします。この機能はロケータ LED を装備したホストサーバーでのみ使用可能です。
showlocator	現在のロケータ LED のオンまたはオフの状態を表示します。この機能はロケータ LED を装備したホストサーバーでのみ使用可能です。
showplatform [-v]	ホストサーバーのハードウェア構成と、そのハードウェアがサービスを提供しているかどうかに関する情報を表示します。
showenvironment	ホストサーバー環境の状態を表示します。表示される情報は、システム温度、電源状態、フロントパネル LED 状態、ハードディスクドライブ状態、ファン状態、電圧および電流センサー状態、キースイッチの位置などです。
showfru	ホストサーバーの FRU (現場交換可能ユニット) に関する情報を表示します。
showusers [-g]lines	現在 ALOM にログイン中のユーザー一覧を表示します。このコマンドの表示形式は UNIX コマンドの who と同様です。-g オプションを指定すると、lines で指定した行数を表示するごとに一時停止します。
shownetwork [-v]	現在のネットワーク構成情報を表示します。-v オプションを指定すると、DHCP サーバーについての情報も含めたネットワークに関する追加情報が表示されます。

showsc [-v]	現在の NVRAM 構成パラメータを表示します。-v オプションは詳細情報を表示するのに必要です。
showlogs [-v]	ALOM イベントバッファにログされたすべてのイベントの履歴を表示します。
showdate	ALOM に設定された日付を表示します。Solaris オペレーティング環境と ALOM の時間は同期していますが、ALOM の時間は現地時間ではなく UTC (協定ユニバーサル時間) で表示されます。
usershow	すべてのユーザーアカウント、権限レベル、およびパスワード割り当ての有無を表示します。
useradd	ALOM にユーザーアカウントを追加します。
userdel [-y]	ALOM からユーザーアカウントを削除します。-y オプションを指定すると、確認メッセージを表示しないようにすることができます。
userpassword	ユーザーパスワードを設定または変更します。
userperm	ユーザーアカウントの権限レベルを設定します。
password	現在のユーザーのログインパスワードを変更します。
console [-f]	ホストシステムのコンソールに接続します。-f オプションを指定すると、コンソールの書き込みロックが強制的に別のユーザーに移動します。
break [-y]	ホストサーバー上で動作している Solaris オペレーティング環境を中断し、OpenBoot PROM または kadb に制御を移します。-y オプションを指定すると、確認メッセージを表示しないようにすることができます。
bootmode [skipdiag diag reset_nvram normal bootscript=" <i>string</i> "]	起動時のホストサーバーの OpenBoot PROM ファームウェアメソッドを制御します。

logout	ALOM シェルのセッションからログアウトします。
consolehistory [-v] [boot run]	ホストシステムのコンソール出力バッファを表示します。-v オプションを指定すると、指定したログの全内容が表示されます。

[ALOM 設定変数の概要](#)

[scadm ユーティリティの概要](#)

[ALOM コマンドの種類](#)

bootmode

ホストサーバーの初期化中またはサーバーの[リセット](#)後にホストサーバーのファームウェアの動作を制御するには、`bootmode` コマンドを使用します。

次回サーバーをリセットしたときに、`bootmode` の設定でサーバーの OpenBoot PROM `diagnostics diag-switch?`、`post-trigger`、および `obdiag-trigger` の設定は上書きされます。10 分経ってもサーバーのリセットを検出できなければ ALOM はこのコマンドを無視し、`bootmode` の設定をクリアして、設定を `normal` に戻します。

`bootmode` コマンドの `reset_nvram` オプションでは、OpenBoot NVRAM (不揮発性読み取り専用メモリー) 変数をデフォルトで設定します。`diag-switch?` のデフォルトは次回サーバーリセットした後に適用されます。これは、OpenBoot がシステムの前の `diag` ノードのスナップショットをとっているためです。このスナップショットはキースイッチの位置、`diag-switch?` の値、`bootmode diag/skip_diag` の上書きで構成されます。`diag` ノードが設定されると、次回リセットするまでこの設定が適用されます。

`diag-switch?` を `true` に設定すると、デフォルト `diag-device` が起動デバイスになります。

`diag-switch?` を `false` に設定すると、デフォルト `boot-device` が起動デバイスになります。

bootmode コマンドの使用方法

注意: このコマンドを使用するには、[r レベルのユーザー権限](#)が必要です。

`bootmode` コマンドのすべてのオプションでは、コマンドの発行後 10 分以内にホストサーバーをリセットする必要があります。[poweroff](#) および [poweron](#) コマンドまたは [reset](#) コマンドを 10 分以内に発行しなければ `bootmode` コマンドは無視され、`bootmode` の設定は `normal` に戻ります。

1. `sc>` プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> bootmode option\(s\)
```

option(s) は指定するオプション

(skip_diag、diag、reset_nvram、normal、または bootscript = "string") です。

2. poweroff と poweron (推奨)、または reset のいずれかを入力します。

次はその例です。

```
sc> bootmode skip_diag
```

```
sc> poweroff
```

```
Are you sure you want to power off the system [y/n]? y
```

```
SC Alert: Host system has shut down.
```

```
sc> poweron
```

次はその例です。

```
sc> bootmode reset_nvram
```

```
sc> reset
```

bootmode diag オプションを指定すると、次回リセットした後に、OpenBoot PROM の post-trigger の設定に関係なく POST (パワーオンセルフテスト) が実行されます。また、次回リセットの後に、obdiag-trigger の設定に関係なく OpenBoot diagnostics テストが実行されます (diag-script が none に設定されていない場合)。

コマンドオプション

bootmode コマンドにオプションを指定しなければ、ALOM は現在選択されている起動モードと有効期限の時刻を表示します。

```
sc> bootmode [skip_diag, diag, reset_nvram, normal,  
bootscript="string"]
```

bootmode コマンドには以下のオプションがあります。

オプション	説明
skip_diag	サーバーの診断を強制的にスキップします。bootmode skip_diag コマンドの発行後、10分以内に poweroff コマンドおよび poweron コマンドを発行する必要があります。
diag	サーバーで強制的に完全な POST (パワーオンセルフテスト) 診断を実行します。bootmode diag コマンドの発行後、10分以内に poweroff コマンドおよび poweron コマンドを発行する必要があります。
reset_nvram	ホストサーバーの OpenBoot PROM NVRAM (不揮発性読み取り専用メモリー) 設定のすべてのパラメータを出荷時設定にリセットします。サーバーを10分以内に リセット する必要があります。
normal	標準設定で起動します。サーバーは低レベルの診断を実行します。bootmode normal の発行後は、サーバーを リセット する必要があります。
	<p>起動時のホストサーバーの OpenBoot PROM ファームウェアメソッドを制御します。現在の bootmode の設定は変わりません。string の長さは最大 64 バイトです。</p> <p>同じコマンドで bootmode と bootscrip を設定できます。次はその例です。</p> <pre>sc> bootmode reset_nvram bootscrip = "setenv diag-switch? true"</pre> <p>SC Alert: SC set bootmode to reset_nvram, will expire 20030305211833</p>

```
bootmode bootscrip = "string"
SC Alert:SC set bootscrip to
"setenv diag-switch? true"
サーバーをリセットして OpenBoot PROM
が bootscrip に保存されている値を読み取
ると、OpenBoot PROM 変数 diag-
switch? がユーザー指定の true に設定
されます。
注意:bootmode bootscrip = "" を
設定すると、bootscrip の値は空になりま
す。
bootmode の設定を表示するには、次の
コマンドを入力します。
sc> bootmode
Bootmode: reset_nvram
Expires WED MAR 05 21:18:33
2003
bootscrip="setenv diag-switch?
true"
```

[ALOM シェルコマンド](#)

[ALOM から他のデバイスにシステムコンソールをリダイレクトする](#)

[reset](#)

[ALOM コマンドの種類](#)

break

サーバーに OpenBoot PROM プロンプト (ok) を表示するには、break コマンドを使用します。kadb デバッガを構成すると、break コマンドでサーバーがデバッグモードになります。

[サーバーのフロントパネルのキースイッチ](#)がロックされていないこと、およびシステムコンソールが ALOM に指定されていることを確認してください。フロントパネルのキースイッチがロックされていると、次のエラーメッセージが返されます。Error: Unable to execute break as system is locked

break コマンドの使用方法

注意: このコマンドを使用するには、[c レベルのユーザー権限](#)が必要です。

sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> break option
```

指定可能な option は -y です。

break コマンドを入力すると、サーバーから ok プロンプトが返されます。

コマンドオプション

break コマンドのオプションは -y のみです。

-y を指定すると、「Are you sure you want to send a break to the system [y/n]?」という確認メッセージを表示せずにブレークします。

[ALOM シェルコマンド](#)

[ALOM コマンドの種類](#)

[userperm](#)

console

ALOM コマンドシェルからシステムコンソールに接続するには、`console` コマンドを使用します。このコマンドを使用すると、標準の Solaris ログインプロンプトが表示されます。システムコンソールを終了して ALOM コマンドシェルに戻るには、「#.」(ハッシュ記号とピリオド)を入力します。

複数ユーザーが ALOM からシステムコンソールに接続可能ですが、システムコンソールに書き込みアクセスが許されるのは1度に1ユーザーのみです。他のユーザーが入力した文字は無視されます。これを書き込みロックと呼び、他のユーザーセッションはコンソールセッションを読み取り専用モードで参照することになります。システムコンソールにアクセスしているユーザーが他にいなければ、コンソールセッションに接続したユーザーが `console` コマンドを実行すると、自動的に書き込みロックが与えられます。他のユーザーが書き込みロック中の場合は、`-f` オプションを指定して強制的に書き込みロックを取得することができます。この場合、他のユーザーの接続は読み取り専用モードに強制的に切り替わります。

注意: `-f` オプションを使用する前に、ホストサーバー上で [OpenBoot PROM と Solaris オペレーティング環境の両方を構成する](#) 必要があります。

console コマンドの使用方法

注意: このコマンドを使用するには、[c レベルのユーザー権限](#)が必要です。

sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> console option
```

option は必要に応じて指定するオプションです。

Solaris のシステムプロンプトが表示されます。

注意: 表示される [Solaris システムプロンプト](#) は、ホストサーバーのデフォルト Solaris シェルによって異なります。

Solaris システムプロンプトから `sc>` プロンプトに戻るには、エスケープ文字シー

ケンスを入力します。デフォルトシーケンスは#.(ハッシュ記号とピリオド)を入力します。

admin アカウントが書き込みロック中の場合、console コマンドの出力結果には次のメッセージが表示されます。

```
sc> showusers
```

Username	Connection	Login Time	Client IP Addr	Console
admin	serial	Nov 13 6:19		system
jeff	net-1	Nov 13 06:20:00	xxx.xxx.xxx.xxx	

```
sc> console
```

```
Enter #. to return to ALOM.
```

```
%
```

書き込みロック中でない場合、console コマンドの結果には次のように異なるメッセージが表示されます。

```
sc> console
```

```
Console session already in use.[view mode]
```

```
Enter #. to return to ALOM.
```

```
%
```

書き込みロック中でなく、console コマンドに -f オプションを指定して書き込みロックを取得すると、console コマンドの結果には次のようなメッセージが表示されます。

```
sc> console -f
```

```
Warning: User <admin> currently has write permission to this  
console and forcibly removing them will terminate any  
current write actions and all work will be lost.Would you  
like to continue?[y/n]
```

コマンドオプション

`console` コマンドのオプションは `-f` のみです。このオプションでは、他のユーザーの書き込みロックを強制的に解放し、自分のコンソールセッションに割り当てます。これにより、他のユーザーのコンソールセッションは読み取り専用モードになります。このオプションを指定すると、次のメッセージが表示されます。

```
Warning: User <username>currently has write permission to this
console and forcibly removing them will terminate any
current write actions and all work will be lost.Would you
like to continue [y/n]?
```

また、書き込みロック中のユーザーには次のメッセージが表示されます。

```
Warning: Console connection forced into read-only mode.
```

`-f` オプションの構成

`console` コマンドで `-f` オプションを使用するには、ホストサーバー上で OpenBoot PROM と Solaris オペレーティング環境の両方の変数を構成する必要があります。

OpenBoot PROM 変数を構成するには、`ok` プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
ok setenv ttya-ignore-cd false
```

`ok` プロンプトを表示する方法については、サーバーの管理マニュアルを参照してください。

次に、Solaris オペレーティング環境を構成する必要があります。`root` でログインし、スーパーユーザーのプロンプトで次のコマンドを入力します。2 番目のコマンドは、この例では 2 行に分けて示してありますが、すべて 1 行で入力してください。

```
# pmadm -r -p zsmon -s ttya
```

```
# pmadm -a -p zsmon -s ttya -i root -fu -m
```

```
"/dev/term/a:I:~/usr/bin/login::9600:ldterm,ttcompat:ttya  
login¥:~:~:tvi925:n:"-v 1
```

[ALOM シェルコマンド](#)

[権限レベル](#)

[シリアルポート変数](#)

[ALOM コマンドの種類](#)

consolehistory

ALOM バッファにログインされたシステムコンソールメッセージを表示するには、`consolehistory` コマンドを使用します。次のシステムコンソールログがあります。

`boot` ログ -- このログには、最後にリセットした後にホストサーバーから受信した POST、OpenBoot PROM、および Solaris の起動メッセージが記録されています。

`run` ログ -- このログには、POST、OpenBoot PROM、および Solaris 起動メッセージからの最新のシステムコンソール出力が記録されています。また、ホストサーバーのオペレーティング環境からの出力が記録されています。

各バッファには最大 64 Kバイトの情報を記録できます。

ホストサーバーのリセットを感知すると、ALOM はデータを `boot` ログバッファに書き込み始めます。サーバーが Solaris オペレーティング環境の稼働を感知すると、ALOM はバッファを `run` ログに切り替えます。

consolehistory コマンドの使用方法

注意: このコマンドを使用するには、[c レベルのユーザー権限](#)が必要です。

`sc>` プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> consolehistory logname option(s)
```

`logname` は表示するログの名前 (`boot` または `run`) です。`consolehistory` コマンドにオプションを指定しなければ、ALOM は `run` ログの最後の 20 行を返します。

注意: コンソールログに記録されているタイムスタンプはサーバーの時間を反映しています。このタイムスタンプは現地時間を反映していますが、ALOM イベントログでは UTC (ユニバーサル時間) を使用しています。Solaris オペレーティング環境はシステム時間と ALOM 時間の同期をとります。

コマンドオプション

consolehistory コマンドの2つのログには以下のオプションがあります。-g オプションと -b、-e、または -v の各オプションを組み合わせることもできます。-g オプションを指定しなければ、画面出力は一時停止しません。

オプション	説明
-b lines	ログバッファの先頭から、lines で指定した行数を表示します。次はその例です。 consolehistory boot -b 10
-e lines	ログバッファの最後から、lines で入力した行数を表示します。このコマンドの実行中にログに新しいデータが表示された場合、この新しいデータは画面出力に追加されます。次はその例です。 consolehistory run -e 15
-g lines	画面出力を一時停止する前に表示する行数を指定します。一時停止するたびに次のメッセージが表示されます。「Paused: Press 'q' to quit, any other key to continue.」次はその例です。 consolehistory run -v -g 5
-v	指定したログの全内容を表示します。

[ALOM シェルコマンド](#)

[ALOM コマンドの種類](#)

flashupdate

flashupdate コマンドを使用して、指定の場所から新しいバージョンの ALOM ファームウェアをインストールします。コマンドオプションで入力する値によりダウンロードするサイトの IP アドレスと、ファームウェアイメージを保存する場所のパスを指定します。

ALOM 製品ページのダウンロードサイトへのリンクは、次のサイトを参照してください。

<http://www.sun.com/servers/alom.html>

ALOM ファームウェアイメージには、メインファームウェアと bootmon (起動監視) ファームウェアの 2 種類があります。bootmon ファームウェアは低レベルのブートストラップイメージです。flashupdate コマンドを使用する前に、適切なイメージを参照してください。

注意: ファームウェアのアップデート処理中は [scadm resetrsc](#) コマンドを使用しないでください。ALOM をリセットする必要がある場合は、アップデートが完了するまで待ってください。そうしないと、ALOM ファームウェアに障害が発生し、使用不能になる場合があります。

flashupdate コマンドの使用方法

注意: このコマンドを使用するには、[a レベルのユーザー権限](#)が必要です。

開始する前に

このコマンドを使用するには、以下の情報が必要です。

- ファームウェアイメージをダウンロードするサーバーの IP アドレス
- イメージを保存する場所のパス
- プロンプトに入力するユーザー名とパスワード

これらの情報が不明な場合はネットワーク管理者に問い合わせてください。[サーバーにフロントパネルキースイッチがある場合は](#)、コマンドを開始する前に、キースイッチが Normal (ロックされていない状態) の位置にあることを確認してください。キースイッチが Locked (ロックされた状態) の位置にある状態でこのコマ

ンドを実行すると、ファームウェアのアップデートに失敗します。フロントパネルキースイッチの詳細は、サーバーのマニュアルを参照してください。

操作方法

1. `sc>` プロンプトで次のコマンドを入力します。ipaddr にはファームウェアイメージが保存されるサーバーの IP アドレス、pathname にはパス名を指定します。

メインファームウェアイメージの場合、コマンドは次のようになります。

```
sc> flashupdate -s ipaddr -f pathname/alommainfw
```

bootmon イメージの場合、コマンドは次のようになります。

```
sc> flashupdate -s ipaddr -f pathname/alombootfw
```

注意 : pathname に使用するパスは /usr/platform/
platform-name /lib/images/(alommainfw | alombootfw) です。
platform-name の適切な値を調べるには、[uname -i](#) コマンドを使用します。

2. プロンプトが表示されたら、ユーザー名とパスワードを入力します。このユーザー名とパスワードは、ALOM ではなく UNIX または LDAP に基づいたものを入力します。
3. ユーザー名とパスワードを入力すると、ダウンロード処理が続行します。ダウンロード中には、連続したピリオドが画面に表示されます (-v オプションを選択すると、ダウンロード処理中に状態メッセージが表示されます)。ダウンロードが終了すると、「Update complete」というメッセージが表示されます。
4. [resetsc](#) コマンドを入力して ALOM をリセットします。

次はその例です (xxx.xxx.xxx.xxx を有効な IP アドレスに置き換えます)。

```
sc> flashupdate -s xxx.xxx.xxx.xxx -f /usr/platform/SUNW,Sun-
Fire-V440/lib/images/alommainfw
Username: joeuser
Password: *****
.....
Update complete.To use the new image the device will need to
be reset using 'resetsc'.
sc>
```

コマンドオプション

flashupdate コマンドには以下のオプションがあります。

オプション	説明
-s ipaddr	ファームウェアイメージを ipaddr にあるサーバーからダウンロードするよう ALOM に指示します。ipaddr は 123.456.789.012 のような標準的なドット表記の IP アドレスを表示します。
-f pathname	イメージファイルの保存場所に移動します。pathname は /files/ALOM/fw/alommainfw のようなイメージファイルの名前を含めたフルディレクトリパスです。
-v	詳細出力を表示します。このオプションを指定すると、ダウンロードの進行状況に関する詳細情報が表示されます。

[ALOM シェルコマンド](#)

[ALOM コマンドの種類](#)

help

help コマンドを使用すると、すべての ALOM コマンドの一覧と各コマンドの構文が表示されます。

help コマンドの使用方法

注意: このコマンドを使用するにはユーザー権限は不要です。

使用可能なコマンドのヘルプを表示するには、次のコマンドを入力します。

```
sc > help
```

特定のコマンドのヘルプを表示するには、次のコマンドを入力します。

```
sc> help command-name
```

command-name は指定する特定のコマンド名です。

次はその例です。

```
sc> help poweron
```

このコマンドでは、管理対象システムまたは FRU の電源をオンにし、FRU オプションを装備した FRU の取り外し可能 LED をオフにします。

```
sc>
```

次の例は、コマンド指定なしで help を入力した場合の出力結果を示します。

```
sc> help
```

```
Available commands
```

```
-----
```

```
poweron [FRU]
```

```
poweroff [-y] [-f]
```

```
removefru [-y] [FRU]
```

```
reset [-y] [-x]
```

```
break [-y]
bootmode [normal|reset_nvram|diag|skip_diag]
console [-f]
consolehistory [-b lines|-e lines] [-g lines] [-v]
[boot|run]
showlogs [-b lines|-e lines] [-g lines] [-v]
setlocator [on|off]
showlocator
showenvironment
showfru
showplatform [-v]
showsc [-v] [param]
shownetwork [-v]
setsc [param] [value]
setupsc
showdate
setdate [[mdd] HHMM | mddHHMM[cc]yy] [.SS]
resetsc [-y]
flashupdate [-s IPAddr -f pathname] [-v]
setdefaults [-y] [-a]
useradd <username>
userdel [-y] [username]
usershow [username]
userpassword [username]
userperm [username> [c] [u] [a] [r]
password
showusers [-g lines]
logout
help [command]
sc>
```

[ALOM シェルコマンド](#)

[その他のコマンド](#)

[ALOM コマンドの種類](#)

logout

logout コマンドを使用して、ALOM セッションを終了し、ALOM シリアルまたは Telnet 接続をクローズします。

logout コマンドの使用方法

注意: このコマンドを使用するにはユーザー権限は不要です。

sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> logout
```

[ALOM シェルコマンド](#)

[その他のコマンド](#)

[ALOM コマンドの種類](#)

password

現在ログインしているアカウントの ALOM パスワードを変更するには、`password` コマンドを使用します。このコマンドの機能は UNIX の `passwd(1)` コマンドと同様の昨日を果たします。

password コマンドの使用方法

注意: このコマンドを使用することにより、ユーザー固有の ALOM アカウントのパスワードを変更することができます。このコマンドを使用するにはユーザー権限は不要です。管理者がユーザーのパスワードを変更する場合は、[userpassword](#) コマンドを使用します。

sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> password
```

このコマンドを使用すると、現在のパスワードの入力を要求されます。正しいパスワードを入力すると、新しいパスワードの入力を 2 回要求されます。

次はその例です。

```
sc> password
password: Changing password for username
Enter current password: *****
Enter new password: *****
Re-enter new password: *****
sc>
```

パスワードの制限

パスワードには次の制限があります。

半角 6 文字以上を指定する必要があります。最初の 8 文字のみが認識され、8 文字より長いパスワードは 8 文字のみのパスワードとして処理されます。

2 文字以上の英字 (大文字または小文字) と 1 文字以上の数字または特殊文

字を使用する必要があります。

パスワードをログイン名と同じにすることはできません。また、ログイン名の文字を逆にしたり並べ変えたものをパスワードに使用することもできません。照合には、大文字と小文字は同じ文字として扱われます。

新しいパスワードは古いパスワードと少なくとも3文字以上異なるものにする必要があります。照合には、大文字と小文字は同じ文字として扱われます。

[ALOM 構成コマンド](#)

[ALOM シェルコマンド](#)

[ALOM コマンドの種類](#)

poweroff

ホストサーバーの電源をオフにしてスタンバイモードにするには、`poweroff` コマンドを使用します。サーバーの電源がすでにオフの場合、このコマンドは機能しません。ただし、ALOM はサーバーのスタンバイ電源を使用しているため、電源がオフでも稼働を続けます。スタンバイモードでは、一部の環境情報を参照できません。

poweroff コマンドの使用方法

注意: このコマンドを使用するには、[r レベルのユーザー権限](#)が必要です。

sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> poweroff option(s)
```

option(s) は指定するオプションです。

`poweroff` コマンドにオプションを指定しなければ、Solaris オペレーティング環境の正常な停止を開始します。この機能は Solaris オペレーティング環境の `shutdown`、`init`、または `uadmin` コマンドと同様です。

`poweroff` コマンドでシステムが完全に停止するまで最長で 65 秒かかる場合があります。これは、正常にシャットダウンが完了するまで待機してからシステムの電源をオフにするためです。

注意: `poweroff` コマンドでシステムがシャットダウンされると、次のメッセージが表示されます。

```
SC Alert: Host system has shut down.
```

このメッセージが表示されるのを確認してからシステム電源を再投入してください。

コマンドオプション

poweroff コマンドには以下のオプションがあります。 [両方のオプションを同時に使用する](#)ことも可能です。

オプション	説明
-f	ホストの状態に関係なく、ただちに強制停止します。Solaris オペレーティング環境の停止が失敗した場合は、このオプションを指定して直ちに電源をオフにしてください。このコマンドの機能はSolaris オペレーティング環境の halt コマンドと同様に動作し、システムの正常なシャットダウンやファイルシステムの同期を行います。
-y	操作中に次の「Are you sure you want to power off the system?」という確認メッセージが表示されないようにします。

[ALOM シェルコマンド](#)

[bootmode](#)

[poweron](#)

[ALOM コマンドの種類](#)

poweron

サーバーの電源をオンにするには、`poweron` コマンドを使用します。ホストサーバーのキースイッチが Off に設定されている場合、またはサーバーの電源がすでにオンになっている場合、このコマンドは機能しません。

poweron コマンドの使用方法

注意: このコマンドを使用するには、[r レベルのユーザー権限](#)が必要です。

sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> poweron
```

注意: `poweroff` コマンドでホストサーバーの電源をオフにすると、次のメッセージが表示されます。

```
SC Alert: Host system has shut down.
```

このメッセージが表示されるのを確認してからシステム電源を再投入してください。

サーバーの特定の FRU (現場交換可能ユニット) の電源をオンにするには、次のコマンドを入力します。

```
sc> poweron fru
```

fru には電源をオンにする FRU の名前を指定します。

たとえば、Power Supply 0 の電源をオンにするには、次のように入力します。

```
sc> poweron PS0
```

コマンドオプション

`poweron` コマンドのオプションは fru のみです。

fru オプションを指定すると、指定した FRU の電源がオンになります。たとえば、ホストサーバーの電源交換時にこのコマンドを使用できます。ALOM は以下の FRU をサポートしています。

値	説明
PS0	ホストサーバーの Power Supply 0 の電源をオンにします。
PS1	ホストサーバーの Power Supply 1 の電源をオンにします。

[ALOM シェルコマンド](#)

[bootmode](#)

[poweroff](#)

[ALOM コマンドの種類](#)

removefru

removefru コマンドは FRU (現場交換可能ユニット) の取り外しを準備し、ホストサーバー上の該当する取り外し可能 LED を点灯するのに使用します。取り外し可能 LED の位置については、サーバーのマニュアルを参照してください。

removefru コマンドの使用方法

sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> removefru fru
```

fru には取り外しの準備をする FRU の名前を指定します。

たとえば、Power Supply 0 の取り外しを準備するには、次のように入力します。

```
sc> removefru PS0
```

コマンドオプション

removefru コマンドのオプションは fru のみです。

fru オプションを指定すると、指定の FRU の取り外しを準備します。ALOM は以下の FRU をサポートしています。

値	説明
PS0	ホストサーバーの Power Supply 0 を取り外す準備をします。
PS1	ホストサーバーの Power Supply 1 を取り外す準備をします。

reset

`reset` コマンドはホストサーバーを直ちに強制リセットするのに使用します。サーバーは [bootmode](#) コマンドで指定したオプション (ある場合) を使用して再起動します。`reset` コマンドではシステムの正常なシャットダウンを行わないため、データが失われる可能性があります。なるべく Solaris オペレーティング環境からリセットするようにしてください。

OpenBoot PROM の `auto-boot?` 変数が `false` に設定されている場合、操作を再開するにはサーバーで Solaris オペレーティング環境を起動することが必要な場合があります。

reset コマンドの使用法

注意: このコマンドを使用するには、[r レベルのユーザー権限](#)が必要です。

`sc>` プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> reset option(s)
```

`option(s)` は指定するオプションです。

コマンドオプション

`reset` コマンドには以下のオプションがあります。[両方のオプションを同時に使用することも可能です](#)。

オプション	説明
-------	----

-x	<p>サーバーの XIR (外部操作による初期リセット) と同様の機能です。XIR が発生するとサーバーは OpenBoot PROM モードに変わり、ok プロンプトが表示されます。</p> <p>このオプションではサーバーのメモリーやレジスタの内容の多くが保存されるため、ドライバやカーネルのデバッグに便利です。</p>
-y	<p>操作中に次の「Are you sure you want to power off the system?」という確認メッセージが表示されないようにします。</p>

[ALOM シェルコマンド](#)

[権限レベル](#)

[ALOM コマンドの種類](#)

[OpenBoot PROM 機能の使用方法](#)

resetsc

resetsc コマンドは ALOM のハードリセットを行うのに使用します。これにより、現在のすべての ALOM セッションが終了します。

resetsc コマンドの使用方法

注意: このコマンドを使用するには、[a レベルのユーザー権限](#)が必要です。

リセットするには、次のコマンドを入力します。

```
sc> resetsc option
```

指定可能な option は `-y` です。

コマンドを実行すると、次のメッセージが表示されます。

```
Are you sure you want to reset the SC [y/n]?
```

処理を続けるには `y` と入力し、ALOM のリセットを中止するには `n` と入力します。

コマンドオプション

resetsc コマンドのオプションは `-y` のみです。

`-y` オプションを使用すると、確認メッセージを表示せずにリセットが行われます。

[権限レベル](#)

[ALOM コマンドの種類](#)

[OpenBoot PROM 機能の使用方法](#)

setdate

ALOM の現在の日付と時間を設定するには、`setdate` コマンドを使用します。

サーバーの起動時に ALOM の現在の日付と時間が設定されます。また、稼働中にも定期的に ALOM の日付と時間が設定されます。サーバーの起動時または稼働中に `setdate` コマンドを使用しようとする、次のエラーメッセージが表示されます。

```
sc> setdate 1200
Error: Unable to set clock while managed system OS is
running.
```

`setdate` コマンドは、サーバーが OpenBoot PROM または電源オフの状態である場合にのみ機能します。

注意: OpenBoot PROM に日付を設定する場合、`break` コマンドを使用して OpenBoot PROM に切り替えるだけでは、ALOM の日付は設定できません。OpenBoot PROM の状態で ALOM の日付を設定するには、OpenBoot PROM `auto-boot?` 変数を `false` に設定してから、ホストサーバーをリセットします。

setdate コマンドの使用方法

注意: このコマンドを使用するには、[a レベルのユーザー権限](#)が必要です。

sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> setdate mmddHHMMccyy.SS
```

このコマンドでは世紀、年、月、日、時、分、秒の設定が可能です。年、月、日を省略すると、現在日付の値がデフォルトで使用されます。世紀や秒の値も省略可能です。

注意: サーバーは現地時間を使用しますが、ALOM は UTC (ユニバーサル時間) を使用します。ALOM ではタイムゾーンの変換や夏時間の変更はサポートしていません。

この例では時間を 2002 年 9 月 16 日 午後 9 時 45 分 (ユニバーサル時間) に設定します。

```
SC> setdate 091621452002
```

```
MON SEP 16 21:45:00 2002 UTC
```

この例では時間を現在年の 9 月 16 日 午後 9 時 45 分 (ユニバーサル時間) に設定します。

```
SC> setdate 09162145
```

```
MON SEP 16 21:45:00 2002 UTC
```

この例では時間を現在年月日の午後 9 時 45 分 (ユニバーサル時間) に設定します。

```
SC> setdate 2145
```

```
MON SEP 16 21:45:00 2002 UTC
```

コマンドオプション

setdate コマンドには以下のオプションがあります。

オプション	説明
mm	月
dd	日
HH	時 (24 時間制)
MM	分
.SS	秒
cc	世紀 (年の上 2 桁)
YY	年 (年の下 2 桁)

[ALOM シェルコマンド](#)

[構成コマンド](#)

[ALOM コマンドの種類](#)

setdefaults

setdefaults コマンドは、すべての ALOM 設定変数を出荷時設定の値に戻すのに使用します。-a オプションを指定すると、ALOM 構成変数とすべてのユーザーの情報が出荷時設定の値に戻ります。

setdefaults コマンドの使用方法

注意: このコマンドを使用するには、[a レベルのユーザー権限](#)が必要です。権限レベルのコマンドを実行するにはパスワードを設定する必要があります。

sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> setdefaults option(s)
```

option(s) は指定するオプションです。

「Please reset your ALOM message」が表示されたら、[resetsc](#) コマンドを入力して ALOM をリセットします。ALOM がリセットされると、値は出荷時設定に戻ります。

次はその例です。

```
sc> setdefaults
```

```
Are you sure you want to reset the SC configuration [y/n]? y
```

注意: 新しい設定をアクティブにするには ALOM をリセットしてください。

```
sc> setdefaults -a
```

```
Are you sure you want to reset the SC configuration and  
users [y/n]? y
```

注意: 新しい設定をアクティブにするには ALOM をリセットしてください。

コマンドオプション

setdefaults コマンドには以下のオプションがあります。

オプション	説明
-a	すべての ALOM 設定変数が出荷時設定に戻り、ユーザーのアカウントおよび構成情報もクリアされます。システム上に残るアカウントは、パスワードなしの admin ユーザーアカウントだけです。
-y	確認メッセージ「Are you sure you want to reset the SC configuration?」を表示せずにコマンドを実行します。

[ALOM シェルコマンド](#)

[ALOM コマンドの種類](#)

setlocator

ホストサーバーのロケータ LED をオンまたはオフにするには、`setlocator` コマンドを使用します。

注意: このコマンドはフロントパネルにロケータ LED が付属しているサーバーにのみ有効です。Sun Fire V210、V240、V440 の各サーバーにはロケータ LED が付属しています。

ロケータ LED の詳細は、サーバーのマニュアルを参照してください。

setlocator コマンドの使用方法

注意: このコマンドを使用するにはユーザー権限は不要です。

sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> setlocator option
```

option は `on` または `off` のいずれかです。

次はその例です。

```
sc> setlocator on
```

```
sc> setlocator off
```

ロケータ LED の状態を表示するには、[showlocator](#) コマンドを使用します。

コマンドオプション

`setlocator` コマンドには `on` と `off` の 2 つのオプションがあります。

[ALOM シェルコマンド](#)

[showlocator](#)

[ALOM コマンドの種類](#)

setsc

ALOM ソフトウェアはプリインストールされているため、電源投入後、ホストサーバー上ですぐに実行することができます。ALOM のインストール設定をカスタマイズするには、最初に [setupsc](#) コマンドで[設定](#)します。カスタマイズした ALOM の設定を更新する場合は、`setsc` コマンドを使用します。

注意: `setsc` コマンドを実行するスクリプトを作成して、複数の[変数](#) (例: すべてのイベント変数) の設定に使用することができます。

setsc コマンドの使用方法

注意: このコマンドを使用するには、[a レベルのユーザー権限](#)が必要です。

コマンドの実行時には、[設定テーブル](#)があること、および変更する各[設定変数](#)の値に間違いがないことを確認してください。

`sc>` プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> setsc variable value
```

`variable` には設定変数、`value` には設定変数の値を指定します。

次はその例です。

```
sc> setsc netsc_ipaddr xxx.xxx.xxx.xxx
```

`xxx.xxx.xxx.xxx` は有効な IP アドレスです。

設定する変数に複数の値を指定する場合は、スペース区切りで値を入力します。`setsc` コマンドはスクリプトとコマンドプロンプトの両方で使用されるため、変数に値を入力しても情報は返されません。

`setsc` コマンドに設定変数を指定しないと、設定可能な変数の一覧が表示されません。

[ALOM シェルコマンド](#)

[ALOM コマンドの種類](#)

setupsc

ALOM をカスタマイズするには、`setupsc` コマンドを使用します。

コマンドの実行時には、[設定テーブル](#)があること、および変更する各[設定変数](#)の値に間違いがないことを確認してください。

setupsc コマンドの使用方法

注意: このコマンドを使用するには、[a レベルのユーザー権限](#)が必要です。

sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> setupsc
```

設定スクリプトが開始します。

スクリプトを終了し、変更を保存するには、Ctrl キーを押しながら Z キーを押します。変更を保存せずにスクリプトを終了するには、Ctrl キーを押しながら C キーを押します。

スクリプトの開始例を次に示します。

```
sc> setupsc
```

対話型のスクリプトモードになります。この時点で終了して変更を破棄するには、Ctrl キーを押しながら c キーを押し、終了して変更を保存するには、Ctrl キーを押しながら z キーを押します。

ALOM をカスタマイズするには、対話型の質問に答えます。

各[設定変数](#)を有効にするかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。変数を有効にして設定するには、y と入力します。括弧内のデフォルト値を使用する場合は Enter キーを押します。変数を無効にして次に進むには、n と入力します。

次はその例です。

Should the SC network interface be enabled [y]?

y を入力するか、Enter キーを押してデフォルト値を確定すると、setupsc スクリプトから変数の値を入力するよう要求されます。次の種類の変数設定を支援する情報が表示されます。

[シリアルインタフェース変数](#)
[ネットワークインタフェース変数](#)
[管理対象システムのインタフェース変数](#)
[ネットワーク管理および通知変数](#)
[システム変数](#)

注意: シリアルインタフェース変数はホストサーバーで自動的に設定されるため、設定または変更の必要はありません。

[ALOM 設定変数の概要](#)

[ALOM シェルコマンド](#)

[設定テーブル](#)

[ALOM の構成](#)

[ALOM コマンドの種類](#)

showdate

ALOM の現在の日付と時間を表示するには、showdate コマンドを使用します。ALOM は UTC (ユニバーサル時間) を表示し、ホストサーバーは現地の日付と時間を表示します。

showdate コマンドの使用方法

注意: このコマンドを使用するには[ユーザー権限](#)は不要です。

sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> showdate
```

次はその例です。

```
sc> showdate
```

```
MON SEP 16 21:45:00 2002 UTC
```

ALOM の日付と時間を変更するには、[setdate](#) コマンドを使用します。

注意: サーバーの起動時に、サーバーと ALOM の現在の日付と時間が同期されません。

[ALOM 構成コマンド](#)

[ALOM シェルコマンド](#)

[ALOM コマンドの種類](#)

showenvironment

サーバーの環境状態のスナップショットを表示するには、`showenvironment` コマンドを使用します。このコマンドで表示される情報は、システム温度、ハードディスクドライブ状態、電源およびファン状態、フロントパネル LED 状態、キースイッチの位置、電圧および電流センサー状態などです。このコマンドの出力結果は UNIX コマンドの `prtdiag(1m)` と同様です。

showenvironment コマンドの使用方法

注意: このコマンドを使用するには [ユーザー権限](#) は不要です。

sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> showenvironment
```

表示される出力結果はホストサーバーのモデルや構成によって異なります。スタンバイモードでは、一部の環境情報を参照できない場合があります。

次はその例です。

```
sc> showenvironment
```

```
===== Environmental Status =====
```

```
-----
```

```
System Temperatures (Temperatures in Celsius):
```

```
-----
```

```
Sensor   Status Temp LowHard LowSoft LowWarn HighWarn HighSoft HighHard
```

```
-----
```

C0.P0.T_CORE	OK	53	-20	-10	0	97	102	120
C1.P0.T_CORE	OK	65	-20	-10	0	97	102	120
C2.P0.T_CORE	OK	61	-20	-10	0	97	102	120

C3.P0.T_CORE	OK	55	-20	-10	0	97	102	120
C0.T_AMB	OK	25	-20	-10	0	60	65	75
C1.T_AMB	OK	26	-20	-10	0	60	65	75
C2.T_AMB	OK	25	-20	-10	0	60	65	75
C3.T_AMB	OK	26	-20	-10	0	60	65	75
SCSIBP.T_AMB	OK	23	-19	-11	0	47	52	62
MB.T_AMB	OK	27	-18	-10	0	65	75	85

 Front Status Panel:

Keyswitch position:NORMAL

 System Indicator Status:

SYS.LOCATE SYS.SERVICE SYS.ACT

 OFF OFF ON

 System Disks:

Disk Status Service OK2RM

 -

HDD0	OK	OFF	OFF
HDD1	OK	OFF	OFF
HDD2	OK	OFF	OFF
HDD3	OK	OFF	OFF

 Fans (Speeds Revolution Per Minute):

Sensor	Status	Speed	Warn	Low
-----	--	---	----	---
FT0.F0.TACH	OK	3229	2400	750
FT1.F0.TACH	OK	3729	2400	750
FT1.F1.TACH	OK	3792	2400	750

```
-----
Voltage sensors (in Volts):
-----
```

Sensor	Status	Voltage	LowSoft	LowWarn	HighWarn	HighSoft
MB.V_+1V5	OK	1.48	1.20	1.27	1.72	1.80
MB.V_VCCTM	OK	2.51	2.00	2.12	2.87	3.00
MB.V_NET0_1V2D	OK	1.26	0.96	1.02	1.38	1.44
MB.V_NET1_1V2D	OK	1.26	0.96	1.02	1.38	1.44
MB.V_NET0_1V2A	OK	1.25	0.96	1.02	1.38	1.44
MB.V_NET1_1V2A	OK	1.25	0.96	1.02	1.38	1.44
MB.V_+3V3	OK	3.38	2.64	2.80	3.79	3.96
MB.V_+3V3STBY	OK	3.33	2.64	2.80	3.79	3.96
MB.BAT.V_BAT	OK	3.06	--	2.25	--	--
MB.V_SCSI_CORE	OK	1.81	1.44	1.53	2.07	2.16
MB.V_+5V	OK	5.07	4.00	4.25	5.75	6.00
MB.V_+12V	OK	12.06	9.60	10.20	13.80	14.40
MB.V_-12V	OK	-12.25	-14.40	-13.80	-10.20	-9.60

```
-----
Power Supply Indicators:
-----
```

Supply	POK	STBY	Service	OK-to-Remove
PS0	ON	ON	OFF	OFF
PS1	ON	ON	OFF	OFF

```
-----
Power Supplies:
-----
```

Supply	Status
PS0	OK
PS1	OK

```
-----
Current sensors:
-----
```

```
Sensor      Status
-----
```

```
MB.FF_SCSIA OK
```

```
MB.FF_SCSIB OK
```

```
MB.FF_POK   OK
```

```
C0.P0.FF_POK OK
```

```
C1.P0.FF_POK OK
```

```
C2.P0.FF_POK OK
```

```
C3.P0.FF_POK OK
```

次の例は、ホストサーバーの電源がオフの状態のときに表示される環境情報を示します。

```
-----
-----
System Temperatures (Temperatures in Celsius):
-----
-----
```

```
Sensor Status Temp LowHard LowSoft LowWarn HighWarn HighSoft HighHard
```

CPU temperature information cannot be displayed when System power is off

```
-----
-----
MB.T_ENC   OK 23   -6      -3      5        40      48      51
-----
-----
```

[ALOM シェルコマンド](#)

[ALOM コマンドの種類](#)

showfru

showfru コマンドを使用すると、ホストサーバーの FRU PROM (現場交換可能ユニットプログラム可能読み取り専用メモリー) の全内容が表示されます。出力形式は Solaris オペレーティング環境の prtfru コマンドと同様です。

showfru コマンドの使用方法

注意: このコマンドを使用するには[ユーザー権限](#)は不要です。

sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> showfru
```

次の例は、showfru コマンドの出力結果サンプルを示します。

```
sc> showfru
```

```
FRU_PROM at PS0.SEEPROM
```

```
Timestamp: FRI FEB 07 18:18:32 2003
Description: P/S,SSI MPS,680W,HOT PLUG
Manufacture Location: DELTA ELECTRONICS CHUNGLI
TAIWAN
Sun Part No: 3001501
Sun Serial No: T00420
Vendor: Delta Electronics
Initial HW Dash Level: 02
Initial HW Rev Level: 05
Shortname: A42_PSU
```

```
FRU_PROM at MB.SEEPROM
```

```
Timestamp: TUE MAY 13 14:57:15 2003
Description: ASSY,A42,MOTHERBOARD
Manufacture Location: Celestica,Toronto,Ontario
Sun Part No: 5016344
Sun Serial No: 001196
```


Vendor: Celestica
Initial HW Dash Level: 04
Initial HW Rev Level: 10
Shortname: A42_MB

FRU_PROM at PS1.SEEPROM

Timestamp: FRI FEB 07 15:46:14 2003
Description: P/S,SSI MPS,680W,HOT PLUG
Manufacture Location: DELTA ELECTRONICS CHUNGLI
TAIWAN
Sun Part No: 3001501
Sun Serial No: T00409
Vendor: Delta Electronics
Initial HW Dash Level: 02
Initial HW Rev Level: 05
Shortname: A42_PSU

FRU_PROM at SC.SEEPROM

Timestamp: FRI MAR 07 13:36:00 2003
Description: ASSY,ALOM Card
Manufacture Location: Celestica, Toronto
Sun Part No: 5016346
Sun Serial No: 000461
Vendor: Celestica
Initial HW Dash Level: 04
Initial HW Rev Level: 05
Shortname: ALOM_Card

FRU_PROM at SCSIBP.SEEPROM

Timestamp: MON MAR 10 12:56:22 2003
Description: ASSY,A42,4 DRV SCSI BKPLN
Manufacture Location: Celestica, Toronto, Canada
Sun Part No: 5016335
Sun Serial No: 001213
Vendor: Celestica
Initial HW Dash Level: 03
Initial HW Rev Level: 05
Shortname: A42 SCSI_BP

FRU_PROM at C0.SEEPROM

Timestamp: MON MAR 17 12:09:52 2003
Description: ASSY,A42,1.280GHZ,0MB,CPU BD
Manufacture Location: Celestica, Toronto, Canada
Sun Part No: 5016370
Sun Serial No: 000335
Vendor: Celestica
Initial HW Dash Level: 02
Initial HW Rev Level: 05
Shortname: A42_CPU_1.280GHZZ

FRU_PROM at C1.SEEPROM

Timestamp: MON MAR 17 12:10:12 2003
Description: ASSY,A42,1.280GHZ,0MB,CPU BD
Manufacture Location: Celestica, Toronto, Canada
Sun Part No: 5016370
Sun Serial No: 000285
Vendor: Celestica
Initial HW Dash Level: 02
Initial HW Rev Level: 05
Shortname: A42_CPU_1.280GHZZ

FRU_PROM at C2.SEEPROM

Timestamp: MON MAR 17 12:10:31 2003
Description: ASSY,A42,1.280GHZ,0MB,CPU BD
Manufacture Location: Celestica, Toronto, Canada
Sun Part No: 5016370
Sun Serial No: 000306
Vendor: Celestica
Initial HW Dash Level: 02
Initial HW Rev Level: 05
Shortname: A42_CPU_1.280GHZZ

FRU_PROM at C3.SEEPROM

Timestamp: TUE MAR 18 14:01:25 2003

Description: ASSY,A42,1.280GHZ,0MB,CPU BD
Manufacture Location: Celestica, Toronto, Canada
Sun Part No: 5016370
Sun Serial No: 000313
Vendor: Celestica
Initial HW Dash Level: 02
Initial HW Rev Level: 05
Shortname: A42_CPU_1.280GHZZ

FRU_PROM at C0.P0.B0.D0.SEEPROM

Timestamp: MON DEC 30 12:00:00 2002
Description: SDRAM DDR, 1024 MB
Manufacture Location:
Vendor: Samsung
Vendor Part No: M3 12L2828DT0-CA2

FRU_PROM at C0.P0.B0.D1.SEEPROM

Timestamp: MON DEC 30 12:00:00 2002
Description: SDRAM DDR, 1024 MB
Manufacture Location:
Vendor: Samsung
Vendor Part No: M3 12L2828DT0-CA2

FRU_PROM at C0.P0.B1.D0.SEEPROM

Timestamp: MON DEC 30 12:00:00 2002
Description: SDRAM DDR, 1024 MB
Manufacture Location:
Vendor: Samsung
Vendor Part No: M3 12L2828DT0-CA2

[ALOM シェルコマンド](#)

[FRU コマンド](#)

ALOM コマンドの種類

showlocator

ホストサーバーのロケータ LED の状態 (on または off) を表示するには、`showlocator` コマンドを使用します。

注意: このコマンドはフロントパネルにロケータ LED が付属しているサーバーにのみ有効です。Sun Fire V210、V240、V440 の各サーバーにはロケータ LED が付属しています。

ロケータ LED の詳細は、サーバーのマニュアルを参照してください。

showlocator コマンドの使用法

注意: このコマンドを使用するには[ユーザー権限](#)は不要です。

sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> showlocator
```

ロケータ LED がオンの場合、ALOM の出力結果は次のようになります。

```
sc> showlocator
```

```
Locator LED is ON
```

ロケータ LED がオフの場合、ALOM の出力結果は次のようになります。

```
sc> showlocator
```

```
Locator LED is OFF
```

ロケータ LED の状態を変更するには、[setlocator](#) コマンドを使用します。

[ALOM シェルコマンド](#)

[setlocator](#)

[ALOM コマンドの種類](#)

showlogs

ALOM イベントバッファにログされたすべてのイベントの履歴を表示するには、`showlogs` コマンドを使用します。表示されるイベントには、サーバーリセットイベントおよびシステムの状態を変更するすべての ALOM コマンド (例: [reset](#)、[poweroff](#)、[poweron](#)) があります。

ログに記録される各イベントのフォーマットを次に示します。

```
date hostname: message
```

`date` は ALOM が記録したイベントの発生時間を表します。`hostname` はホストサーバー名、`message` はイベントの簡単な説明です。

`showlogs` コマンドにオプションを使用しなければ、ALOM はイベントログの最後の 20 行を表示します。

showlogs コマンドの使用方法

注意: このコマンドを使用するには[ユーザー権限](#)は不要です。

sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> showlogs option(s)
```

`option(s)` は指定するオプションです。

イベントログエントリの例を次に示します。

```
NOV 15 11:12:25 labserver: "SC Login: User johnsmith Logged on."
```

注意: ALOM イベントログのタイムスタンプは UTC (ユニバーサル時間) です。

次の例は、`showlogs` コマンドに `-v` オプションを指定した場合の出力結果を示します。`-v` オプションを指定すると、固定イベントログが表示されます。固定イベントログには NVRAM の内容が記録されます。

```

sc> showlogs -v
Persistent event log
-----
MAY 19 11:22:03 wgs40-232: 0004000e: "SC Request to Power
Off Host Immediately."
MAY 19 11:22:12 wgs40-232: 00040029: "Host system has shut
down."
MAY 19 11:22:43 wgs40-232: 00040002: "Host System has Reset"
Log entries since MAY 19 14:57:08
-----
MAY 19 14:57:08 wgs40-232:00060003: "SC System booted."
MAY 19 14:57:35 wgs40-232:00060000: "SC Login:User rich
Logged on."

```

コマンドオプション

showlogs コマンドには以下の4つのオプションがあります。-g オプションと -b、-e、または -v の各オプションを組み合わせることもできます。-g オプションを指定しなければ、画面出力は一時停止しません。

オプション	説明
-v	バッファの全内容と NVRAM の内容 (固定イベントログ) を表示します。
-b lines	ログバッファの先頭からイベントを表示します。lines は指定する行数です。たとえば、次のコマンドではバッファの最初の 100 行が表示されます。 showlogs -b 100
-e lines	ログバッファの最後からイベントを表示します。lines は指定する行数です。このコマンドの実行中にログに新しいデータが表示された場合、この新しいデータは画面出力に追加されます。次はその例です。 showlogs -e 10

-g lines	指定する時間に画面に表示する行数を制御します。lines は指定する行数を表します。一時停止するたびに次のメッセージが表示されます。「--pause-- Press 'q' to quit, any other key to continue.」
----------	---

[ALOM シェルコマンド](#)

[consolehistory](#)

[ALOM コマンドの種類](#)

shownetwork

shownetwork コマンドを使用すると、ALOM の現在のネットワーク構成が表示されます。

注意: 最後に ALOM を起動した後に ALOM のネットワーク構成を変更した場合、このコマンドの出力結果には変更後の構成情報が表示されないことがあります。変更後の構成を表示するには、[ALOM を再起動](#)してください。

shownetwork コマンドの使用方法

注意: このコマンドを使用するには[ユーザー権限](#)は不要です。

sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> shownetwork option
```

指定可能な option は -v です。

このコマンドの出力結果は次の例と同様です。xxx.xxx.xxx.xxx にはネットワーク構成の IP アドレス、ネットマスク、Ethernet アドレスが表示されます。

```
sc> shownetwork
```

```
SC network configuration is:
```

```
IP Address: XXX.XXX.XXX.XXX
```

```
Gateway address: XXX.XXX.XXX.XXX
```

```
Netmask: XXX.XXX.XXX.XXX
```

```
Ethernet Address: XX:XX:XX:XX:XX:XX
```

コマンドオプション

shownetwork コマンドのオプションは `-v` のみです。

shownetwork `-v` と入力すると、DHCP (動的ホスト構成プロトコル) サーバーの情報 ([構成されている場合](#)) など、ネットワークの詳細情報が表示されます。

[ALOM シェルコマンド](#)

[ALOM コマンドの種類](#)

showplatform

ホストサーバーのプラットフォーム ID および状態の情報を表示するには、`showplatform` コマンドを使用します。

showplatform コマンドの使用方法

注意: このコマンドを使用するにはユーザー権限は不要です。

sc> プロンプトで `showplatform` と入力します。

ホストサーバーから次のような情報が返されます。

```
sc> showplatform
```

```
SUNW,Sun-Fire-v440
```

```
Domain      Status
-----
wgs48-78    OS Running
```

```
sc> showplatform
```

```
SUNW,Sun-Fire-v440
```

```
Domain      Status
-----
wgs48-78    OS Reset
```

[ALOM 構成コマンド](#)

[ALOM シェルコマンド](#)

[ALOM ソフトウェアのコマンド](#)

[FRU コマンド](#)

showsc

showsc コマンドを使用すると、ALOM ソフトウェア構成とファームウェアバージョンに関する情報が表示されます。

showsc コマンドの使用方法

注意: このコマンドを使用するには[ユーザー権限](#)は不要です。

ALOM のすべての構成情報を表示するには、sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> showsc
```

特定の[設定変数](#)の値を表示するには、sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> showsc param
```

param は param オプションです。

次の例の xir は、[sys_autorestart](#) 設定変数の現在の値です。

```
sc> showsc sys_autorestart
```

```
xir
```

-v オプションを指定すると、指定した変数の詳細情報が表示されます。

たとえば、ALOM のバージョンを表示するには、次のいずれかを入力します。

```
sc> showsc version
```

```
Advanced Lights Out Manager v1.1
```

```
sc> showsc -v version
```

```
Advanced Lights Out Manager v1.1
```

```
SC Firmware version: 1.1.0
```

```
SC Bootmon version: 1.1.0
SC Bootmon Build Release: 37
SC bootmon checksum: C717B0FB
SC Bootmon built May 13 2003, 15:05:48
SC Build Release: 37
SC firmware checksum: 1BECB05A
SC firmware built May 13 2003, 15:05:33
SC firmware flashupdate MAY 19 2003, 14:55:38
SC System Memory Size: 8 MB
SC NVRAM Version = a
SC hardware type: 1
```

コマンドオプション

showsc コマンドには以下のオプションがあります。showsc にオプションを指定しないと、すべての設定変数が表示されます。

オプション	説明
-v	-v オプションを param オプションに使用すると、指定した設定変数の詳細情報が表示されます (内容は変数によって異なります)。
param	showsc コマンドにこのオプションを指定すると、指定した設定変数の値が表示されます。

[ALOM シェルコマンド](#)

[その他のコマンド](#)

[ALOM コマンドの種類](#)

showusers

現在 ALOM にログインしているユーザーの一覧を表示するには、`showusers` コマンドを使用します。一覧には、接続の種類、各ユーザーセッションの期間、クライアントの IP アドレス (ユーザーがネットワーク接続している場合)、ホストシステムのコンソールへの書き込みロックの有無 (これによりユーザーにシステムコンソールセッションへの入力に許可されるか、読み取り専用モードでのシステムコンソールの監視のみが許可されるかが決まります) などの詳細情報が表示されます。

showusers コマンドの使用法

注意: このコマンドを使用するには[ユーザー権限](#)は不要です。

sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> showusers option
```

指定可能な option は `-g lines` です。次はその例です。

```
sc> showusers
```

username	connection	login time	client IP addr	console
-----	-----	-----	-----	-----
joeuser	serial	Sep 16 10:30		-
bigadmin	net-3	Sep 14 17:24:00	123.123.123.123	system
sueuser	net-2	Sep 15 12:55:00	123.223.123.223	

1 ユーザーが複数のセッションを実行している場合、すべてのセッションが表示されます。

コマンドオプション

showusers コマンドのオプションは `-g lines` のみです。

このオプションを指定すると、lines で指定した行数を表示するごとに一時停止します。一時停止するたびに次のメッセージが表示されます。

```
--pause-- Press 'q' to quit, any other key to continue
```

警告状態またはイベントが検出されると、このメッセージの後にその情報が表示されます。続行するにはいずれかのキーを押し、表示を終了して `sc>` プロンプトに戻るには `q` キーを押します。

useradd

ALOM にユーザーアカウントを追加するには、`useradd` コマンドを使用します。

useradd コマンドの使用方法

注意: このコマンドを使用するには、[u レベルのユーザー権限](#)が必要です。

sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> useradd username
```

username は ALOM に追加するアカウントのユーザー名です。

username には次の制限があります。

- ユーザー名に英字、数字、ピリオド (.)、下線 (_)、ハイフン (-) を使用できる。

- 最大半角 16 文字で、1 文字以上の英小文字を使用する必要がある。

- ユーザー名は英字で始める必要がある。

最大 15 件の一意のユーザーアカウントを ALOM に追加することができます。

ユーザー名にパスワードを割り当てるには、[userpassword](#) コマンドを使用します。

ユーザー名に権限レベルを設定するには、[userperm](#) コマンドを使用します。

[ALOM 構成コマンド](#)

[ALOM シェルコマンド](#)

[ALOM コマンドの種類](#)

userdel

ALOM ユーザーアカウントを削除するには、`userdel` コマンドを使用します。アカウントを削除すると、削除されたユーザーの構成情報を復元することはできません。

指定したユーザー名が ALOM ユーザーの一覧に存在しない場合、エラーメッセージが返されます。また、一覧に 1 ユーザーしか存在しない場合、ユーザーアカウントは削除できません。

注意: ALOM ではデフォルトの `admin` ユーザーアカウントは削除できません。

userdel コマンドの使用方法

注意: このコマンドを使用するには、[u レベルのユーザー権限](#)が必要です。

sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> userdel useracct
```

useracct は削除するユーザーアカウント名です。

コマンドオプション

userdel コマンドのオプションは `-y` のみです。

userdel コマンドに `-y` オプションを指定すると、「Are you sure you want to delete user oldacct [y/n]?」という確認メッセージを表示せずにアカウントを削除します。

[ALOM 構成コマンド](#)

[ALOM シェルコマンド](#)

ALOM コマンドの種類

userpassword

指定したユーザーアカウントのパスワードを変更するには、`userpassword` コマンドを使用します。このコマンドは、管理者が ALOM アカウントのユーザーパスワードを変更するときに、対象ユーザーアカウントのパスワードが不明な場合に使用します。自分の ALOM アカウントのパスワードを変更するには、[password](#) コマンドを使用します。

userpassword コマンドの使用方法

注意: このコマンドを使用するには、[u レベルのユーザー権限](#)が必要です。

sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> userpassword username
```

username はパスワードを変更するユーザーアカウントの名前です。

このコマンドを使用すると、現在のパスワードの入力は要求されません。

次はその例です。

```
sc> userpassword msmith
```

```
New password:
```

```
Re-enter new password:
```

```
sc>
```

パスワードの制限

パスワードには次の制限があります。

半角 6 文字以上を指定する必要があります。最初の 8 文字のみが認識され、8 文字より長いパスワードは 8 文字のみのパスワードとして処理されます。

2 文字以上の英字 (大文字または小文字) と 1 文字以上の数字または特殊文字を使用する必要があります。

パスワードをログイン名と同じにすることはできません。また、ログイン名の文字を逆にしたり並べ変えたものをパスワードに使用することもできません。照合には、大文字と小文字は同じ文字として扱われます。新しいパスワードは古いパスワードと少なくとも3文字以上異なるものにする必要があります。照合には、大文字と小文字は同じ文字として扱われます。

[ALOM 構成コマンド](#)

[ALOM シェルコマンド](#)

[ALOM コマンドの種類](#)

userperm

指定したユーザーアカウントの権限レベルを設定または変更するには、userperm コマンドを使用します。デフォルトでは、初期設定の処理で ALOM admin アカウントが作成されます。このアカウントを削除したり、アカウントのユーザー権限を変更したりすることはできません。

権限レベル

すべてのユーザーが ALOM 情報を参照できますが、ALOM の機能の実行や設定の変更には権限が必要です。ユーザーの権限レベルは 4 種類あります。0 ~ 4 の権限レベルを指定します。

権限レベル	説明
a	管理 (Administrative)。このユーザーには、 ALOM 設定変数 の状態の変更や ALOM の再起動 を行う権限があります。
u	ユーザー管理 (User administration)。このユーザーには、 ユーザーの追加 や ユーザーの削除 、ユーザー権限の変更、他のユーザーの権限レベルの変更を行う権限があります。
c	コンソール 権限 (Console permission)。このユーザーには、ホストサーバーのシステムコンソールに接続する権限があります。
r	リセット / 電源権限 (Reset/power permission)。このユーザーには、ホストサーバーの リセット や、サーバー電源の オン または オフ を行う権限があります。

指定したユーザーに権限を割り当てない (権限レベル 0 を割り当てる) 場合、ユーザーの権限は読み取り専用になります。これは新規 ALOM ユーザーアカウントのデフォルト権限レベルです。

注意: ALOM を初めて起動するときに使用するアカウントのデフォルトユーザー権限は読み取り専用です。デフォルトの admin アカウントにパスワードを設定

すると、権限は `cuar` (フル権限) に変更されます。

ユーザーの権限レベルを表示するには、[usershow](#) コマンドを使用します。

userperm コマンドの使用法

注意: このコマンドを使用するには、[u レベルのユーザー権限](#)が必要です。

`sc>` プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> userperm username permission(s)
```

`username` は権限を割り当てるユーザー名、`permission(s)` はユーザーに割り当てる権限です。

たとえば、ユーザー `msmith` に `c` および `r` のユーザー権限を割り当てるには、ALOM コマンドプロンプトで次のように入力します。

```
sc> userperm msmith cr
```

ユーザーの権限レベルを表示するには、[usershow](#) コマンドを使用します。

読み取り専用権限のユーザーが使用できるのは以下のコマンドのみです。

- [help](#)
- [password](#)
- [showdate](#)
- [shownetwork](#)
- [showenvironment](#)
- [showlogs](#)
- [consolehistory](#)
- [showsc](#)
- [logout](#)
- [showlocator](#)

読み取り専用権限のユーザーの場合、次の例の `jeremy` と同様の出力結果になります。

```
sc> usershow
```

Username	Permissions	Password
--	-----	-----
--		-
admin	cuar	Assigned
jeremy	----	Assigned

[ALOM 構成コマンド](#)

[ALOM シェルコマンド](#)

[ALOM コマンドの種類](#)

usershow

指定したユーザーの ALOM アカウント、各ユーザーの[権限](#)、および[パスワード](#)の割り当ての有無を表示するには、usershow コマンドを使用します。

ユーザー名を指定しなければ、usershow はすべての ALOM アカウントを表示します。

usershow コマンドの使用方法

注意: このコマンドを使用するには、[u レベルのユーザー権限](#)が必要です。

sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> usershow username
```

username は指定するユーザー名です。

次はその例です。

```
sc> usershow
```

Username	Permissions	Password?
-----	-----	-----
admin	cuar	Assigned
wwilson	cuar	Assigned
jadams	--cr	None

```
sc> usershow wwilson
```

Username	Permissions	Password?
-----	-----	-----
wwilson	cuar	Assigned

[ALOM 構成コマンド](#)

[ALOM シェルコマンド](#)

[ALOM コマンドの種類](#)

ALOM 設定変数の概要

ALOM には、ALOM の動作を変更するための不揮発性の設定変数があります。これらの変数のデフォルト値はプリインストールされています。初めて変数をカスタマイズする場合は、対話型のスクリプトコマンド [setupsc](#) を使用します。各変数の設定を変更するには、ALOM コマンドシェルまたは [scadm set](#) コマンドを使用します。

ALOM コマンドシェルの設定変数の使用方法

注意: ALOM コマンドシェルから設定変数を設定するには、[a レベルのユーザー権限](#)が必要です。 [scadm](#) ユーティリティで ALOM 設定変数を設定するには、ホストサーバーに root でログインする必要があります。

ALOM コマンドシェルの場合

この変数の値を指定するには、[setupsc](#) コマンドを使用します。
設定変数およびその設定を表示するには、[showsc](#) コマンドを使用します。
設定変数の値を設定するには、[setsc](#) コマンドを使用します。
すべての変数を出荷時設定にリセットするには、[setdefaults](#) コマンドを使用します。

scadm ユーティリティの場合

現在の値を表示するには、[show](#) コマンドを使用します。
値を変更するには、[set](#) コマンドを使用します。

設定変数の種類

ALOM には以下の種類の設定変数があります。

- [シリアルポート変数](#)
- [ネットワークインタフェース変数](#)
- [管理対象システムのインタフェース変数](#)

[ネットワーク管理および通知変数](#)
[システムユーザー変数](#)

[scadm ユーティリティの概要](#)

[ALOM シェルコマンド](#)

シリアル管理ポート変数

シリアル管理ポート変数はホストサーバーの起動時に設定される読み取り専用の変数です。シリアルポート変数を設定または変更する必要はありません。

ALOM はシリアル管理ポート変数を使ってホストサーバー上のシリアル管理ポート (SER MGT) の設定を通知します。これらの変数の値を表示するには、ALOM コマンドシェルで [showsc](#) コマンドを使用します。scadm ユーティリティを使用して設定を表示するには、[scadm show](#) コマンドを使用します。

以下のシリアルポート管理変数の設定を表示することができますが、変更はできません。

[ser_baudrate](#)

[ser_data](#)

[ser_parity](#)

[ser_stopbits](#)

[ALOM 設定変数の概要](#)

[setsc](#)

[setupsc](#)

[showsc](#)

ネットワークインタフェース変数

ALOM がホストサーバー上のネットワーク管理 (NET MGT) ポートの Ethernet 接続で使用するネットワーク設定を指定するには、ネットワークインタフェース変数を使用します。

ALOM には以下のネットワークインタフェース変数があります。

[if_emailalerts](#)
[if_network](#)
[if_modem](#)
[netsc_dhcp](#)
[netsc_ipaddr](#)
[netsc_ipnetmask](#)
[netsc_ipgateway](#)
[netsc_tpelinktest](#)
[netsc_enetaddr](#)

ALOM コマンドシェルの場合

この変数の値を指定するには、[setupsc](#) コマンドを使用します。

設定変数およびその設定を表示するには、[showsc](#) コマンドを使用します。

設定変数の値を設定するには、[setsc](#) コマンドを使用します。

すべての変数を出荷時設定にリセットするには、[setdefaults](#) コマンドを使用します。

scadm ユーティリティの場合

現在の値を表示するには、[show](#) コマンドを使用します。

値を変更するには、[set](#) コマンドを使用します。

[ALOM 設定変数の概要](#)

管理対象システムのインタフェース変数

管理対象システムのインタフェース変数は、ホストサーバーに情報を受け渡すときの ALOM の動作を指定します。インタフェース変数には、設定可能な変数とデフォルト設定を変更できない変数があります。

ALOM には以下の管理対象システムインタフェース変数があります。

[sys_autorestart](#) (設定可)

[sys_eventlevel](#) (設定可)

[sys_hostnames](#) (設定不可)

[sys_enetaddr](#) (設定不可)

[sys_xirtimeout](#) (設定可)

ALOM コマンドシェルの場合

設定可の変数の値を指定するには、[setupsc](#) コマンドを使用します。

設定変数およびその設定を表示するには、[showsc](#) コマンドを使用します。

設定可の変数の値を設定するには、[setsc](#) コマンドを使用します。

すべての設定可の変数を出荷時設定にリセットするには、[setdefaults](#) コマンドを使用します。

scadm コーティリティの場合

現在の値を表示するには、[show](#) コマンドを使用します。

値を変更するには、[set](#) コマンドを使用します。

[ALOM 設定変数の概要](#)

ネットワーク管理および通知変数

ネットワーク管理および通知変数では、ALOM によるホストシステムの管理方法および警告の送信方法を指定します。

ALOM は以下のネットワーク管理および通知変数をサポートしています。

[mgt_mailhost](#)

[mgt_mailalert](#)

ALOM コマンドシェルの `sc>` プロンプトから以下の機能を使用できます。

インタフェース変数を設定するには、[setupsc](#) コマンドを使用します。

現在の設定を表示するには、[showsc](#) コマンドを使用します。

変数の値を変更するには、[setsc](#) コマンドを使用します。

[設定変数の使用方法](#)

システムユーザー変数

システムユーザー変数では、ホストサーバーの識別方法およびホストサーバーとの対話方法をカスタマイズします。[setupsc](#) スクリプトで ALOM をカスタマイズする場合、[setupsc](#) からメッセージが表示されたときに `y` を入力すると、これらの変数を操作することができます。

ALOM は以下のシステムユーザー変数をサポートしています。

- [sc_backupuserdata](#)
- [sc_clieventlevel](#)
- [sc_clipasswdecho](#)
- [sc_cliprompt](#)
- [sc_clitimeout](#)
- [sc_customerinfo](#)
- [sc_escapechars](#)
- [sc_powerondelay](#)
- [sc_powerstatememory](#)

ALOM コマンドシェルの場合

この変数の値を指定するには、[setupsc](#) コマンドを使用します。

設定変数およびその設定を表示するには、[showsc](#) コマンドを使用します。

設定変数の値を設定するには、[setsc](#) コマンドを使用します。

すべての変数を出荷時設定にリセットするには、[setdefaults](#) コマンドを使用します。

scadm コーティリティの場合

現在の値を表示するには、[show](#) コマンドを使用します。

値を変更するには、[set](#) コマンドを使用します。

[ALOM 設定変数の概要](#)

if_emailalerts

電子メールによる警告を有効にするには、この変数を使用します。この変数に `true` (有効) を設定すると、[ALOM ネットワーク管理および通知変数](#)の値を設定できるようになります。ネットワーク管理および通知変数の [mgt_mailhost](#) および [mgt_mailalert](#) では、電子メールによる警告の管理方法を指定し、警告を有効にします。

注意: [if_network](#) 変数を有効にしてから、`if_emailalerts` を有効にする必要があります。

ALOM コマンドシェルの場合

この変数の値を指定するには、[setupsc](#) コマンドを使用します。

値を設定または変更するには、[setsc](#) コマンドを使用します。

この変数の現在の値を表示するには、[showsc](#) コマンドを使用します。

setupsc コマンドで if_emailalerts 変数を設定する方法

1. `sc>` プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> setupsc
```

`setupsc` スクリプトから次のメッセージが表示されます。

```
Should the SC email alerts be enabled [y]?
```

2. インタフェースを設定する場合 (値を `true` に設定する場合) は、`y` を入力します。

この変数のデフォルト値は `true` (有効) です。

setsc コマンドで if_emailalerts 変数を変更する方法

sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> setsc if_emailalerts response
```

response には、電子メールによる警告を有効にする場合は `true`、無効にする場合は `false` を指定します。

if_network

ALOM ネットワークインタフェースを有効にするには、この変数を使用します。この変数に `true` (有効) を設定すると、[ALOM ネットワークインタフェース変数](#)を使用できるようになります。

ALOM コマンドシェルの場合

この変数の値を指定するには、[setupsc](#) コマンドを使用します。

設定変数およびその設定を表示するには、[showsc](#) コマンドを使用します。

設定変数の値を設定するには、[setsc](#) コマンドを使用します。

すべての変数を出荷時設定にリセットするには、[setdefaults](#) コマンドを使用します。

scadm ユーティリティの場合

現在の値を表示するには、[show](#) コマンドを使用します。

値を変更するには、[set](#) コマンドを使用します。

setupsc コマンドで if_network 変数を設定する方法

1. `sc>` プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> setupsc
```

`setupsc` スクリプトから次のメッセージが表示されます。

```
Do you wish to configure the enabled interfaces [y]?
```

2. インタフェースを設定する場合は `y` を入力します。

この変数のデフォルト値は `true` (有効) です。

setsc コマンドで if_network 変数を変更す

る方法

sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> setsc if_network response
```

response には、ネットワークインタフェースを有効にする場合は `true`、無効にする場合は `false` を指定します。

if_modem

ALOM では、外部モデムからシリアルモデム通信を受信してリモート管理ができます。通信を受信するには、リモートでシステムにアクセスする前に、ローカルでモデムのハードウェアと ALOM ソフトウェアを設定しておく必要があります。

シリアル管理ポート (SERIAL MGT) に取り付けられたモデムは、ポートを排他的に使用します。ローカルユーザーが Telnet を通じて ALOM に接続できるように、ALOM を Ethernet で使用するように設定します。詳細は、[ALOM の構成](#) または [手動によるネットワーク設定](#) を参照してください。

シリアル管理ポートを設定してモデムを使用する方法

1. 以下のいずれかを実行して、if_modem 変数を true に設定します。
 - Telnet セッションで ALOM にログインして次のように入力します。

```
sc> setsc if_modem true
```

SC Alert: Serial Mgt port input is disabled until a modem call is received.
 - ホストサーバーにログインし、scadm ユーティリティで次のように入力します。

```
# scadm set if_modem true
```

May 19 13:59:07 wgs40-232 rmclomv: Serial Mgt port input is disabled until a modem call is received
SC Alert: Serial Mgt port input is disabled until a modem call is received
2. モデムをシリアル管理ポート (SERIAL MGT) に接続してモデムの電源をオンにします。

DTR、CTS、および AA のライトが点灯します。

注意: if_modem 変数を true に設定すると、シリアルポートの DCD 信号の設定を高くするか、if_modem 変数を false に戻さない限り、シリアル接続での入力は無効になります。SERIAL MGT ポートを使用するには、モデムを接続する必要があります。ただし、telnet を使えば、NET MGT ポートにより ALOM に接続できます。

モデムを使用しないシリアル管理ポートに戻す方法

1. モデムの電源をオフにします。
2. シリアル管理ポート (SERIAL MGT) から RJ-45 モデム接続を取り外します。
3. モデムを接続する前に別のデバイスがシリアル管理ポートに取り付けられていた場合、そのデバイスをシリアル管理ポートに再接続します。
4. 以下のいずれかを実行して、if_modem 変数を false に設定します。

- Telnet セッションで ALOM にログインして次のように入力します。

```
sc> setsc if_modem false
```

- ホストサーバーにログインし、scadm ユーティリティで次のように入力します。

```
scadm set if_modem false
```

モデム設定の障害追跡

問題	解決方法
ALOM モデムが応答しない	正しく配線されていることを確認します。詳細は、 ハードウェアの設定 を参照してください。
ALOM モデムの応答がすぐに途絶える	if_modem 変数が true に設定されていることを確認します。
ALOM モデムが応答しているが接続していないようだ	<ol style="list-style-type: none"> 1. ALOM エスケープ文字 (#.) を入力して、ALOM ログインプロンプトまたは sc> プロンプトに戻れることを確認します。 2. シリアル管理ポートとモデムポートの速度が同じ値に設定されていることを確認します。 3. データ圧縮を無効にしてみます。モデムの多くが、AT&K0 モデムコマンドを使用して無効にします。



[外部モデムの設定](#)

mgt_mailalert

電子メールによる警告を設定するには、この変数を使用します。

電子メールによる警告の設定手順は、使用方法により多少異なります。最大 8 件の電子メールアドレスを指定できます。

ALOM コマンドシェルの場合

この変数の値を指定するには、[setupsc](#) コマンドを使用します。

現在の値を表示するには、[showsc](#) コマンドを使用します。

値を変更するには、[setsc](#) コマンドを使用します。

scadm コーティリティの場合

この変数の現在の値を表示するには、[show](#) コマンドを使用します。

値を変更するには、[set](#) コマンドを使用します。

setupsc コマンドで mgt_mailalert 変数を設定する方法

1. `sc>` プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> setupsc
```

setupsc スクリプトから次のメッセージが表示されます。

```
Enter the number of email recipients to configure [0]?
```

```
2
```

2. 電子メールの受信者数を入力します。

メッセージの後の角括弧内にデフォルト値 (0) が表示されます。

受信者を 1 件指定するたびに次のメッセージが表示されます。<n> は現在設定している受信者数を表します (たとえば、上の例のように「2」を入力すると、アドレス 1 の警告を設定した後、アドレス 2 の警告を設定するように指示するメッセージが表示されます)。

```
Enter the email address for recipient <n> (maximum of
30characters) []? johnsmith@sysadmin.com
```

3. 上の例のように、受信者の電子メールアドレスを入力します。

ALOM には最大 30 文字の電子メールアドレスを設定可能です。ここで次のようなメッセージが表示されます。

```
Enter the level of events to send to recipient <n>
where valid settings are 1 (critical), 2 (critical and
major) and 3 (critical, major and minor) [2]?
```

4. 送信する警告に設定する重要度を入力します。

setsc コマンドで mgt_mailalert 変数を変更する方法

sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> setsc mgt_mailalert email level
```

email には警告の宛先電子メールアドレス、level には送信する警告のレベル (critical、major、または minor) を指定します。

次はその例です。

```
sc> setsc mgt_mailalert kevin@abc.com 1
```

mgt_mailalert のエントリを削除するには、この変数の値を再指定して警告レベルを省略します。たとえば、先の例のエントリを削除するには、次のように入力します。

```
sc> setsc mgt_mailalert kevin@abc.com
```

[ALOM 設定変数の概要](#)

[ネットワーク管理および通知変数](#)

[showsc](#)

.

mgt_mailhost

ALOM から電子メールによる警告を送信する 1 ~ 2 台のメールサーバーの送信先 IP (インターネットプロトコル) アドレスを指定するには、この変数を使用します。

ALOM コマンドシェルの場合

この変数の値を指定するには、[setupsc](#) コマンドを使用します。

現在の値を表示するには、[showsc](#) コマンドを使用します。

値を変更するには、[setsc](#) コマンドを使用します。

scadm ユーティリティの場合

この変数の現在の値を表示するには、[show](#) コマンドを使用します。

値を変更するには、[set](#) コマンドを使用します。

setsc コマンドで mgt_mailhost 変数を変更する方法

sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> setsc mgt_mailhost ipaddr1 ipaddr2
```

ipaddr1 および ipaddr2 は、指定するメールホストの IP アドレスです。

たとえば、`setsc` で 1 台のメールサーバーを指定するには、`sc>` プロンプトで次のコマンドを入力します。`xxx.xxx.xxx.xxx` には、メールサーバーの IP アドレスを指定します。

```
sc> setsc mgt_mailhost xxx.xxx.xxx.xxx
```

デフォルト IP アドレスは 0.0.0.0 です。

注意: デフォルト IP アドレス 0.0.0.0 は無効な IP アドレスです。このコマンドに

有効な IP アドレスを入力する必要があります。

2 台のメールサーバーを指定するには、次のコマンドを入力します。1 台目のメールサーバーと 2 台目のメールサーバーの IP アドレスは半角スペース 1 個で区切ります。

```
sc> setsc mgt_mailhost xxx.xxx.xxx.xxx yyy.yyy.yyy.yyy
```

scadm ユーティリティで mgt_mailhost 変数を変更する方法

サーバーのスーパーユーザーのプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
# scadm set mgt_mailhost ipaddr1 ipaddr2
```

ipaddr1 および ipaddr2 は、指定するメールホストの IP アドレスです。

たとえば、scadm set で 1 台のメールサーバーを指定するには、# プロンプトで次のコマンドを入力します。xxx.xxx.xxx.xxx には、メールサーバーの IP アドレスを指定します。

```
# scadm set mgt_mailhost xxx.xxx.xxx.xxx
```

デフォルト IP アドレスは 0.0.0.0 です。

注意: デフォルト IP アドレス 0.0.0.0 は無効な IP アドレスです。このコマンドに有効な IP アドレスを入力する必要があります。

2 台のメールサーバーを指定するには、次のコマンドを入力します。1 台目のメールサーバーと 2 台目のメールサーバーの IP アドレスは半角スペース 1 個で区切ります。

```
# scadm set mgt_mailhost xxx.xxx.xxx.xxx yyy.yyy.yyy.yyy
```

[ALOM 設定変数の概要](#)

[ネットワーク管理および通知変数](#)

[showsc](#)

.

netsc_dhcp

ネットワーク構成の取得に DHCP (動的ホスト構成プロトコル) を使用するかどうかを指定するには、この変数を使用します。有効な値は `true` および `false` です。デフォルト値は `false` です。

ALOM コマンドシェルの場合

この変数の値を指定するには、[setupsc](#) コマンドを使用します。

現在の値を表示するには、[showsc](#) コマンドを使用します。

値を変更するには、[setsc](#) コマンドを使用します。

scadm コーティリティの場合

この変数の現在の値を表示するには、[show](#) コマンドを使用します。

値を変更するには、[set](#) コマンドを使用します。

[ALOM 設定変数の概要](#)

[ネットワークインタフェース変数](#)

[showsc](#)

netsc_enetaddr

ALOM の MAC アドレス (Ethernet アドレス) を標準の 6 バイトフォーマット (例: 0a:2c:3f:1a:4c:4d) で表示するには、この変数を使用します。この変数は出荷時に設定されます。この変数は設定または変更することができます。

ALOM コマンドシェルの場合

この変数の現在の値を表示するには、[showsc](#) コマンドを使用します。

scadm ユーティリティの場合

現在の値を表示するには、[show](#) コマンドを使用します。

[ALOM 設定変数の概要](#)

[ネットワークインタフェース変数](#)

[showsc](#)

netsc_ipaddr

ALOM の IP (インターネットプロトコル) アドレスを指定するには、この変数を使用します。

ALOM コマンドシェルの場合

この変数の値を指定するには、[setupsc](#) コマンドを使用します。

現在の値を表示するには、[showsc](#) コマンドを使用します。

値を変更するには、[setsc](#) コマンドを使用します。

scadm コーティリティの場合

この変数の現在の値を表示するには、[show](#) コマンドを使用します。

値を変更するには、[set](#) コマンドを使用します。

この変数のデフォルト IP アドレスは 0.0.0.0 です。

注意: ALOM のネットワーク構成の取得に DHCP を使用している場合、この変数を設定する必要はありません。[netsc_dhcp](#) に true を設定している場合、[setupsc](#) スクリプトは netsc_ipaddr を設定するよう指示するメッセージを表示しません。

一般的な IP アドレスは 0 ~ 255 の数字 4 つを小数点で区切って表記します。これを標準ドット表記と呼びます。

指定の IP アドレスが指定のサブネットマスクおよびゲートウェイアドレスに対応していない場合、次のエラーメッセージが表示されます。[netsc_ipgateway](#) および [netsc_ipnetmask](#) には、それぞれゲートウェイアドレスとサブネットマスクが表示されます。

```
Error: Invalid IP address for gateway address
<netsc_ipgateway> and IP netmask <netsc_ipnetmask>.
```

入力したすべての値に間違いがないことを確認します。正しい IP アドレスの取得方法が不明な場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

[ALOM 設定変数の概要](#)

[ネットワークインタフェース変数](#)

[showsc](#)

netsc_ipgateway

デフォルト IP ゲートウェイ (ルーターとも呼びます) の IP (インターネットプロトコル) アドレスを指定するには、この変数を使用します。ゲートウェイを使用すると、他のサブネットワークにアクセスすることができます。

ALOM コマンドシェルの場合

この変数の値を指定するには、[setupsc](#) コマンドを使用します。

現在の値を表示するには、[showsc](#) コマンドを使用します。

値を変更するには、[setsc](#) コマンドを使用します。

scadm ユーティリティの場合

この変数の現在の値を表示するには、[show](#) コマンドを使用します。

値を変更するには、[set](#) コマンドを使用します。

この変数のデフォルト IP アドレスは 0.0.0.0 です。

注意: ALOM のネットワーク構成の取得に DHCP を使用している場合、この変数を設定する必要はありません。[netsc_dhcp](#) に true を設定している場合、[setupsc](#) スクリプトは netsc_ipgateway を設定するよう指示するメッセージを表示しません。

一般的な IP アドレスは 0 ~ 255 の数字 4 つを小数点で区切って表記します。これを標準ドット表記と呼びます。

指定の IP アドレスが指定のサブネットマスクおよび ALOM IP アドレスに対応していない場合、次のエラーメッセージが表示されます。[netsc_ipnetmask](#) および [netsc_ipaddr](#) には、それぞれサブネットマスクと IP アドレスが表示されません。

```
Error: Invalid IP gateway address for IP address  
<netsc_ipaddr> and IP netmask <netsc_ipnetmask>.
```

入力したすべての値に間違いがないことを確認します。正しい IP アドレスの取得方法が不明な場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

[ALOM 設定変数の概要](#)

[ネットワークインタフェース変数](#)

[showsc](#)

netsc_ipnetmask

ALOM の IP (インターネットプロトコル) ネットマスクを指定するには、この変数を使用します。

ALOM コマンドシェルの場合

この変数の値を指定するには、[setupsc](#) コマンドを使用します。

現在の値を表示するには、[showsc](#) コマンドを使用します。

値を変更するには、[setsc](#) コマンドを使用します。

scadm コーティリティの場合

この変数の現在の値を表示するには、[show](#) コマンドを使用します。

値を変更するには、[set](#) コマンドを使用します。

この変数のデフォルト IP アドレスは 255.255.255.0 (クラス C ネットワーク) です。

注意: ALOM のネットワーク構成の取得に DHCP を使用している場合、この変数を設定する必要はありません。[netsc_dhcp](#) に true を設定している場合、[setupsc](#) スクリプトは `netsc_ipnetmask` を設定するよう指示するメッセージを表示しません。

一般的な IP アドレスは 0 ~ 255 の数字 4 つを小数点で区切って表記します。これを標準ドット表記と呼びます。

指定の IP アドレスが指定のサブネットマスクおよび ALOM IP アドレスに対応していない場合、次のエラーメッセージが表示されます。[netsc_ipgateway](#) および [netsc_ipaddr](#) には、それぞれゲートウェイアドレスと IP アドレスが表示されます。

```
Error: Invalid IP netmask for IP address <netsc_ipaddr> and  
IP gateway <netsc_ipgateway>.
```

入力したすべての値に間違いがないことを確認します。正しい IP アドレスの取得方法が不明な場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

[ALOM 設定変数の概要](#)

[ネットワークインタフェース変数](#)

[showsc](#)

netsc_tpelinktest

この変数を使用すると、10BASE-T Ethernet リンクの完全性をテストすることができます。Ethernet リンクの完全性のテストがサポートされていないか無効になっているハブで ALOM を使用している場合は、この変数に `false` を設定します。この変数の変更は、次回 ALOM をリセットした後に適用されます。テスト実行時、Ethernet ネットワークのユーザーは ALOM にログインできなくなります。

ALOM コマンドシェルの場合

この変数の値を指定するには、[setupsc](#) コマンドを使用します。

現在の値を表示するには、[showsc](#) コマンドを使用します。

値を変更するには、[setsc](#) コマンドを使用します。

scadm ユーティリティの場合

この変数の現在の値を表示するには、[show](#) コマンドを使用します。

値を変更するには、[set](#) コマンドを使用します。

注意: Ethernet リンクの完全性のテストの有効または無効の設定は、ALOM とローカルハブで統一する必要があります。この設定が矛盾していると、通信できない場合があります。

この変数は、一部の Sun プラットフォームで使用可能な OpenBoot PROM の "tpe-link-test?" 環境変数と同様の機能を果たします。

[ALOM 設定変数の概要](#)

[ネットワークインタフェース変数](#)

[showsc](#)

sc_backupuserdata

この変数では、ALOM のローカルユーザーデータベース (ユーザー、パスワード、権限情報) をバックアップするかどうかを指定します。この変数を true に設定すると、データは Sun Fire V440 など、システム構成カード (SCC) が付属したシステムの SCC にバックアップされます。ホストサーバーに SCC がない場合、この変数は無効です。

[setupsc](#) スクリプトを実行中の場合、`setupsc` から次のメッセージが表示されます。

```
Should the SC user database be stored on the SCC [n]?
```

この変数の値を次に示します。

```
true -- ユーザーデータベースを SCC にバックアップします。  
false -- バックアップされません (これはデフォルト値です)。
```

ALOM コマンドシェルの場合

この変数の現在の値を表示するには、[showsc](#) コマンドを使用します。
現在の値を変更するには、[setsc](#) コマンドを使用します。

scadm ユーティリティの場合

この変数の現在の値を表示するには、[show](#) コマンドを使用します。
現在の値を変更するには、[set](#) コマンドを使用します。

sc_clieventlevel

ALOM セッション時に ALOM シェルに表示する ALOM イベントレベルを指定するには、この変数を使用します。イベントのレベルには次の 4 種類があります。

- 0 (None) -- イベントを表示しない
- 1 (Critical) -- 重要度が Critical (高) のイベントのみ
- 2 (Major) -- 重要度が Critical (高) および Major (中) のイベント
- 3 (Minor) -- 重要度が Critical (高)、Major (中) および Minor (低) のイベント

この変数のデフォルト値は 2 (Major) です。

ALOM コマンドシェルの場合

この変数の値を指定するには、[setupsc](#) コマンドを使用します。

現在の値を表示するには、[showsc](#) コマンドを使用します。

値を変更するには、[setsc](#) コマンドを使用します。

scadm ユーティリティの場合

この変数の現在の値を表示するには、[show](#) コマンドを使用します。

値を変更するには、[set](#) コマンドを使用します。

[ALOM 設定変数の概要](#)

[管理対象システムのインタフェース変数](#)

[showsc](#)

sc_clipprompt

ALOM シェルプロンプトを変更するには、この変数を使用します。デフォルトは `sc>` プロンプトです。

このプロンプトには最大 16 文字の文字を指定できます。有効な文字は英数字、ハイフン、下線です。

ALOM コマンドシェルの場合

この変数の値を指定するには、[setupsc](#) コマンドを使用します。

現在の値を表示するには、[showsc](#) コマンドを使用します。

値を変更するには、[setsc](#) コマンドを使用します。

scadm ユーティリティの場合

この変数の現在の値を表示するには、[show](#) コマンドを使用します。

値を変更するには、[set](#) コマンドを使用します。

setsc コマンドで sc_clipprompt 変数を変更する方法

`sc>` プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> setsc cliprompt prompt
```

`prompt` は指定する ALOM コマンドプロンプトです。

たとえば、ホスト名が `ernie` でホストの ALOM 名が `ernie-sc` の場合、`ernie-sc` を ALOM シェルプロンプトに指定するには次のコマンドを入力します。

```
sc> setsc sc_clipprompt ernie-sc
```

```
ernie-sc>
```

また、[setupsc](#) コマンドでこの変数を設定することもできます。setupsc コマンドスクリプトでは、次のメッセージが表示されます。

```
Enter the SC cli prompt (maximum of 16 characters) [sc] ?
```

デフォルトの `sc>` プロンプトを使用するには、Enter キーを押します。

scadm ユーティリティで `sc_cliprompt` 変数を変更する方法

サーバーのスーパーユーザーのプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
# scadm set cliprompt prompt
```

prompt は指定する ALOM コマンドプロンプトです。

[ALOM 設定変数の概要](#)

[showsc](#)

[システムユーザー変数](#)

sc_clitimeout

自動ログアウトが行われるまでに ALOM シェルのセッションが待機する時間 (秒) を指定するには、この変数を使用します。0 ~ 10,000 秒を指定できます。1 ~ 59 秒の値を指定すると、変数は自動的に最小値の 60 秒に設定されます。

デフォルト値は 0 秒 (待機なし) です。

注意: ALOM セッションが [console](#) モードの場合、この変数が設定されていても自動ログアウトは行われません。

たとえば、自動ログアウトの間隔を 60 秒に設定するには、ALOM シェルプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> setsc sc_clitimeout 60
```

タイムアウトの値を [setupsc](#) コマンドを使用して指定することもできます。setupsc スクリプトでは、次のように値の入力を要求します。

```
Enter the SC CLI timeout in seconds (maximum of 10000s) [0]?
```

ALOM コマンドシェルの場合

この変数の値を指定するには、[setupsc](#) コマンドを使用します。

現在の値を表示するには、[showsc](#) コマンドを使用します。

値を変更するには、[setsc](#) コマンドを使用します。

scadm コーティリティの場合

この変数の現在の値を表示するには、[show](#) コマンドを使用します。

値を変更するには、[set](#) コマンドを使用します。

[ALOM 設定変数の概要](#)

システムユーザー変数

showsc

sc_clipasswdecho

パスワードのエコー表示をオンまたはオフにするには、この変数を使用します。パスワードのエコー表示をオンにすると、ユーザーの ALOM ログイン時に入力した各文字がアスタリスク (*) で画面にエコー表示されます。実際のパスワードは画面にエコー表示されません。

この変数のデフォルト値は `y` (画面にアスタリスクでエコー表示) です。

たとえば、この変数の値を `n` (エコー表示なし) に変更するには、ALOM コマンドプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> setsc sc_clipasswdecho n
```

この変数の値を [setupsc](#) コマンドを使用して指定することができます。setupsc スクリプトでは、次のように値の入力を要求します。

```
Should password entry echo '*'s [y] ?
```

ALOM コマンドシェルの場合

この変数の値を指定するには、[setupsc](#) コマンドを使用します。
現在の値を表示するには、[showsc](#) コマンドを使用します。
値を変更するには、[setsc](#) コマンドを使用します。

scadm ユーティリティの場合

この変数の現在の値を表示するには、[show](#) コマンドを使用します。
値を変更するには、[set](#) コマンドを使用します。

[ALOM 設定変数の概要](#)

[showsc](#)

システムユーザー変数

sc_customerinfo

ホストサーバーに関する情報や、ホストサーバーを ALOM に認識させるために入力したその他の情報を保存するには、この変数を使用します。 [setupsc](#) スクリプトから「Do you wish to configure the SC parameters [y]?」というメッセージが表示されたときに y と入力すると、setupsc スクリプトによって次のプロンプトが表示されます。

```
Enter any customer data for this platform (maximum of 40
characters) []?
```

次はその例です。

```
Enter any customer data for this platform (maximum of 40
characters) []? This is the test lab server.
```

ALOM コマンドシェルの場合

この変数の値を指定するには、 [setupsc](#) コマンドを使用します。

現在の値を表示するには、 [showsc](#) コマンドを使用します。

値を変更するには、 [setsc](#) コマンドを使用します。

scadm ユーティリティの場合

この変数の現在の値を表示するには、 [show](#) コマンドを使用します。

値を変更するには、 [set](#) コマンドを使用します。

[ALOM 設定変数の概要](#)

[showsc](#)

[システムユーザー変数](#)

sc_escapechars

エスケープ文字シーケンスを変更するには、この変数を使用します。デフォルトでは、システムコンソールセッションから ALOM に切り替えるのに使用するエスケープ文字シーケンスは #. (ハッシュ記号とピリオド) です。最初の 2 文字を指定して、エスケープ文字シーケンスをカスタマイズすることができます。2 文字目はピリオド (.) にする必要があります。

この変数の値を [setupsc](#) コマンドを使用して指定することができます。setupsc スクリプトでは、次のように値の入力を要求します。

```
Enter the console session escape sequence (2 characters).The
first character can be any printable characters or control-A
through control-Y except for control-C, control-D, control-H,
control-J, or control-M. The second character must be a ".".
[#.]?
```

ALOM コマンドシェルの場合

この変数の値を指定するには、[setupsc](#) コマンドを使用します。
現在の値を表示するには、[showsc](#) コマンドを使用します。
値を変更するには、[setsc](#) コマンドを使用します。

scadm ユーティリティの場合

この変数の現在の値を表示するには、[show](#) コマンドを使用します。
値を変更するには、[set](#) コマンドを使用します。

[ALOM 設定変数の概要](#)

[showsc](#)

[システムユーザー変数](#)

sc_powerondelay

電源がオンになるまでサーバーを短時間待機させるには、この変数を使用します。この遅延は1 ~ 5秒の間のランダムな間隔です。サーバーの電源投入を遅延させることで主電源のサージ電流を最小限に抑えられます。これは停電後、ラックの複数サーバーの電源をオンにする場合に重要な機能です。

電源投入遅延は [setupsc](#) コマンドを使用して設定することができます。setupsc スクリプトで次のメッセージが表示されたら、`y` を入力して遅延を有効にするか、`n` を入力して遅延を無効にします。

```
Should poweron sequencing be disabled [y]?
```

ALOM コマンドシェルおよび `scadm` ユーティリティでは、この変数の値は `enable` と `disable` です。

たとえば、`scadm` ユーティリティで遅延を有効にするには、次のコマンドを入力します。

```
# set sc_powerondelay enable
```

遅延を無効にするには、次のように入力します。

```
# set sc_powerondelay disable
```

ALOM コマンドシェルの場合

この変数の値を指定するには、[setupsc](#) コマンドを使用します。

現在の値を表示するには、[showsc](#) コマンドを使用します。

値を変更するには、[setsc](#) コマンドを使用します。

`scadm` ユーティリティの場合

この変数の現在の値を表示するには、[show](#) コマンドを使用します。

値を変更するには、[set](#) コマンドを使用します。

[ALOM 設定変数の概要](#)

[showsc](#)

[システムユーザー変数](#)

.

sc_powerstatememory

ホストサーバーに電源が投入されると、サーバーの電源がオフの場合でも、ALOM は直ちに動作します。ホストサーバーに初めて電源を投入すると、ALOM は実行を開始しますが、サーバーは電源がオンになるまで起動しません。

sc_powerstatememory 変数では、ホストサーバーの状態に false (ホストサーバーをオフの状態にしておく) または true (電源をオフにしたときの状態にサーバーを復帰する) を指定できます。これは停電時や、サーバーの場所を物理的に移動する場合に便利な機能です。

たとえば、ホストサーバーの動作中に電源が遮断された場合、sc_powerstatememory 変数が false に設定されていると、電源が回復してもホストサーバーは停止したままになります。sc_powerstatememory 変数が true に設定されていると、ホストサーバーは電源の回復時に再起動します。

この変数の値を次に示します。

true -- 電源がオフになったときのホストサーバーの状態を "記憶" し、電源が再投入されたときにサーバーを復帰させます。
false -- 電源が投入されてもサーバーを停止状態にしておきます。

ALOM コマンドシェルの場合

この変数の値を指定するには、[setupsc](#) コマンドを使用します。
現在の値を表示するには、[showsc](#) コマンドを使用します。
値を変更するには、[setsc](#) コマンドを使用します。

scadm ユーティリティの場合

この変数の現在の値を表示するには、[show](#) コマンドを使用します。
値を変更するには、[set](#) コマンドを使用します。

[ALOM 設定変数の概要](#)

[showsc](#)

[システムユーザー変数](#)

ser_baudrate

この変数はシリアル管理ポート (SERIAL MGT) のボーレートを設定します。この値はプリセットされており、変更することはできません。

デフォルト設定は 9600 です。

sc> プロンプトの場合

この変数の現在の値を表示するには、[showsc](#) コマンドを使用します。

scadm ユーティリティの場合

この変数の現在の値を表示するには、[show](#) コマンドを使用します。

[ALOM 設定変数の概要](#)

[シリアル管理ポート変数](#)

[showsc](#)

ser_data

この変数はシリアル管理ポート (SERIAL MGT) のデータビット数を設定します。この値はプリセットされており、変更することはできません。

デフォルト設定は 8 です。

sc> プロンプトの場合

この変数の現在の値を表示するには、[showsc](#) コマンドを使用します。

scadm ユーティリティの場合

この変数の現在の値を表示するには、[show](#) コマンドを使用します。

[ALOM 設定変数の概要](#)

[シリアル管理ポート変数](#)

[showsc](#)

ser_parity

この変数はシリアル管理ポート (SERIAL MGT) のパリティを設定します。この値はプリセットされており、変更することはできません。

デフォルト設定は `none` です。

sc> プロンプトの場合

この変数の現在の値を表示するには、[showsc](#) コマンドを使用します。

scadm ユーティリティの場合

この変数の現在の値を表示するには、[show](#) コマンドを使用します。

[ALOM 設定変数の概要](#)

[シリアル管理ポート変数](#)

[showsc](#)

ser_stopbits

この変数はシリアル管理ポート (SERIAL MGT) のストップビット数を設定します。この値はプリセットされており、変更することはできません。

デフォルト設定は 1 です。

sc> プロンプトの場合

この変数の現在の値を表示するには、[showsc](#) コマンドを使用します。

scadm ユーティリティの場合

この変数の現在の値を表示するには、[show](#) コマンドを使用します。

[ALOM 設定変数の概要](#)

[シリアル管理ポート変数](#)

[showsc](#)

sys_autorestart

ALOM には、ホストサーバーを監視し、ホストサーバーの動作が停止すると感知する「ウォッチドッグ」機能があります。ホストからの応答を待機中にウォッチドッグ機能がタイムアウトした場合の ALOM の処理を指定するには、この変数を使用します。ウォッチドッグ機能がサーバーの動作停止を検出すると、ALOM イベントログに記録されます。

`sys_autorestart` には 3 つのオプションがあります。

`none` -- ALOM イベントログへのイベント記録のみを行う。

`xir` -- XIR (外部操作による初期リセット) を行う。XIR のデフォルトタイムアウト値は [sys_xirtimeout](#) 変数 (デフォルトタイムアウト値は 900 秒、つまり 15 分) で設定されます。

`reset` -- サーバーを [リセット](#) し、Solaris オペレーティング環境を起動します。

デフォルト値は `xir` です。

注意: `xir` オプションおよび `reset` オプションのイベントは、アクションを記録したログエントリと ALOM イベントログに記録されます。

ALOM コマンドシェルの場合

この変数の値を指定するには、[setupsc](#) コマンドを使用します。

現在の値を表示するには、[showsc](#) コマンドを使用します。

値を変更するには、[setsc](#) コマンドを使用します。

scadm コーティリティの場合

この変数の現在の値を表示するには、[show](#) コマンドを使用します。

値を変更するには、[set](#) コマンドを使用します。

[ALOM 設定変数の概要](#)

管理対象システムのインタフェース変数

showsc

sys_enetaddr

この変数はシステムソフトウェアによって自動設定されるため、値の設定や変更を行うことはできません。値はホストサーバーの MAC アドレス (Ethernet アドレス) から読み取られて設定され、ALOM 変数として保存されます。

sc> プロンプトの場合

この変数の現在の値を表示するには、[showsc](#) コマンドを使用します。

scadm ユーティリティの場合

この変数の現在の値を表示するには、[show](#) コマンドを使用します。

[ALOM 設定変数の概要](#)

[管理対象システムのインタフェース変数](#)

[showsc](#)

sys_eventlevel

ホストサーバーに送信する ALOM イベントのレベルを指定するには、この変数を使用します。イベントのレベルには次の 4 種類があります。

- 0 (None) -- イベントを送信しない
- 1 (Critical) -- 重要度が Critical (高) のイベントのみ
- 2 (Major) -- 重要度が Critical (高) および Major (中) のイベント
- 3 (Minor) -- 重要度が Critical (高)、Major (中) および Minor (低) のイベント

この変数のデフォルト値は 2 (Major) です。

ALOM コマンドシェルの場合

この変数の値を指定するには、[setupsc](#) コマンドを使用します。

現在の値を表示するには、[showsc](#) コマンドを使用します。

値を変更するには、[setsc](#) コマンドを使用します。

scadm ユーティリティの場合

この変数の現在の値を表示するには、[show](#) コマンドを使用します。

値を変更するには、[set](#) コマンドを使用します。

[ALOM 設定変数の概要](#)

[管理対象システムのインタフェース変数](#)

[showsc](#)

sys_hostname

`sys_hostname` 変数はシステムソフトウェアによって自動設定されるため、値の設定や変更を行うことはできません。ホストサーバーを起動して ALOM との通信を開始すると、ALOM はサーバーのオペレーティングシステムからホスト名を読み取ってこの変数に保存します。

sc> プロンプトの場合

この変数の現在の値を表示するには、[showsc](#) コマンドを使用します。

scadm ユーティリティの場合

この変数の現在の値を表示するには、[show](#) コマンドを使用します。

[ALOM 設定変数の概要](#)

[管理対象システムのインタフェース変数](#)

[showsc](#)

sys_xirtimeout

注意: この変数は、[sys_autorestart](#) 変数が `xir` に設定されている場合にのみ機能します。

`sys_autorestart` 変数を使用して指定した XIR (外部操作による初期リセット) のタイムアウト値を設定するには、この変数を使用します。XIR が指定の時間 (秒) 内に完了しない場合、XIR は中止され、サーバーは強制的にハード[リセット](#)されます。タイムアウトを 0 秒に指定すると、ウォッチドッグの XIR イベント後に XIR はタイムアウトしません。

タイムアウトに 0 秒以外の値を指定する場合、900 ~ 10,800 秒 (15 分から 3 時間) を指定してください。1 ~ 899 の値を指定すると、値はデフォルト値の 900 に設定されます。10,800 より大きい値を指定すると、値はデフォルト値の 10,800 に設定されます。

この変数の値を [setupsc](#) コマンド実行時に指定することもできます。この変数を `setupsc` を使用して設定すると、次のプロンプトが表示されます。

```
How many seconds should be allowed for an XIR to complete  
(maximum timeout of 10800s) [900]?
```

ALOM コマンドシェルの場合

この変数の値を指定するには、[setupsc](#) コマンドを使用します。

現在の値を表示するには、[showsc](#) コマンドを使用します。

値を変更するには、[setsc](#) コマンドを使用します。

scadm ユーティリティの場合

この変数の現在の値を表示するには、[show](#) コマンドを使用します。

値を変更するには、[set](#) コマンドを使用します。

[ALOM 設定変数の概要](#)

[管理対象システムのインタフェース変数](#)

[showsc](#)

scadm ユーティリティの概要

Solaris オペレーティング環境の機能の一部である System Controller Administration (scadm) ユーティリティを使用すると、ホストサーバーへのログイン中にさまざまな ALOM のタスクを実行することができます。 [scadm コマンド](#) は複数の機能を制御しており、その中には ALOM の [設定変数](#) の表示や設定を行う機能もあります。

scadm を使用するには、ホストに root でログインする必要があります。

注意: サーバー上で SunVTS ソフトウェアを実行中の場合、scadm ユーティリティは機能しません。

scadm ユーティリティの出力結果は stdout に出力されます。 [scadm をスクリプトに使用](#) して、ホストシステムから ALOM を管理およびカスタマイズすることができます。

scadm ユーティリティの詳細は、scadm のマニュアルページを参照してください。システムプロンプトで `man scadm` と入力します。scadm のマニュアルページは Solaris オペレーティング環境の各バージョンの Solaris HW Supplement CD に入っています。

[scadm ユーティリティの開始](#)

[scadm コマンド](#)

[scadm のエラーメッセージ](#)

[scadm ユーティリティへのパスの設定](#)

scadm ユーティリティの開始

scadm ユーティリティを使用するには、以下の手順を実行します。

1. [scadm ユーティリティへのパスを設定します。](#)
2. ホストシステムに root でログインします。
3. スーパーユーザープロンプトで **scadm** と入力してから、使用する [コマンド](#) を入力します。

注意: サーバー上で SunVTS ソフトウェアを実行中の場合、scadm ユーティリティは機能しません。

[scadm コマンド](#)

[scadm のエラーメッセージ](#)

scadm ユーティリティへのパスの設定

scadm ユーティリティにパスを設定するには、次の 2 つの手順を実行します。

1. システムの正しいプラットフォーム名を調べます。
2. システム上の scadm へのパスを設定します。

パスの設定方法については、Solaris オペレーティング環境のマニュアルを参照してください。Solaris オペレーティング環境で使用するコマンドシェルや、パス情報を記述するファイルの種類によって手順は異なります。

scadm ユーティリティは次のディレクトリに常駐します。

```
/usr/platform/platform-name /sbin
```

platform-name にはシステムのプラットフォーム名を指定します。

システムのプラットフォーム名を調べるには

システムプロンプトで、`uname -i` と入力します。

次のような結果が表示されます。

```
% uname -i  
SUNW,Sun-Fire-V440
```

この例の結果に表示されているプラットフォーム名は Sun Fire V440 サーバー用です。表示される結果はサーバーのモデルによって異なります。この例は、Sun Fire V440 上の ALOM ソフトウェアのデフォルトディレクトリが次の場所であることを示しています。

```
/usr/platform/SUNW,Sun-Fire-V440/sbin
```

[scadm ユーティリティの開始](#)

scadm コマンド

scadm コマンドは ALOM コマンドと同様の機能を果たします。

scadm コマンドの使用方法

[scadm ユーティリティへのパスを設定](#)し、ホストシステムに root でログインするか、cd コマンドで /usr/platform/platform-name /sbin ディレクトリに移動します。platform-name は [ホストサーバーのプラットフォーム名](#) です。

コマンドを使用するには、ホストシステムのスーパーユーザープロンプトで次のように入力します。command には使用するコマンドを指定します。

```
# scadm command
```

scadm コマンド

次の一覧では、scadm ユーティリティのコマンドを説明しています。

コマンド	説明
help	scadm コマンドの一覧と、各コマンドの説明および構文を表示します。
date	日付と時間を表示します。
shownetwork	現在のネットワーク構成情報を表示します。
show	指定した ALOM 設定変数 の現在の値を表示します。
loghistory	ALOM イベントバッファにログされたイベントを表示します。
resetrsc [-s]	直ちに ALOM をリセットします。-s オプションを指定すると、ソフトリセットが行われます。

set	指定した ALOM 設定変数に指定の値を設定します。
download	メインファームウェアまたは bootmon ファームウェアを ALOM フラッシュ PROM にダウンロードします。
modem_setup	サポート対象のプラットフォーム上でモデム通信を行います。Sun Fire V210、V240、V440 ではモデムトランザクションの送信はサポートされていません。
send_event [-c]	カスタムメッセージをイベントとして送信します。-c オプションを指定すると、イベントに重要度「高」が割り当てられます。
version [-v]	ALOM のバージョン情報を表示します。-v オプションを指定すると、詳細出力が表示されます。
useradd	ALOM ユーザーアカウントを追加します。
userdel	ALOM ユーザーアカウントを削除します。
usershow	ALOM ユーザーアカウントに関する情報を表示します。
userpassword	ユーザーパスワードを設定または変更します。
userperm	ユーザー権限を設定または変更します。

[scadm ユーティリティの開始](#)

[scadm のエラーメッセージ](#)

[scadm ユーティリティへのパスの設定](#)

scadm date

ALOM の日付と時間を表示するには、`scadm date` コマンドを使用します。このコマンドは ALOM シェルコマンドの [showdate](#) と同様の機能を果たします。

注意: ホストサーバーは現地時間を使用しますが、ALOM は UTC (ユニバーサル時間) を使用します。ALOM ではタイムゾーンの変換や夏時間の変更はサポートしていません。

scadm date コマンドの使用方法

ホストサーバーに `root` でログインします。

システムのスーパーユーザーのプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
# scadm date
```

次はその例です。

```
# scadm date
```

```
MON SEP 16 21:45:00 2002 UTC
```

`date` コマンドの表示フォーマットは `ddmmHHMMccyy.SS` です。各記号の意味は次のとおりです。

値	説明
mm	月
dd	日
HH	時 (24 時間制)
MM	分
.SS	秒
cc	世紀 (年の上 2 桁)

YY	年 (年の下 2 桁)
----	-------------

[scadmコマンド](#)

[scadm のエラーメッセージ](#)

scadm download

ALOM ファームウェアをプログラムするには、`scadm download` コマンドを使用します。このコマンドは ALOM シェルコマンドの [flashupdate](#) と同様の機能を果たします。

ALOM 製品ページのダウンロードサイトへのリンクは、次のサイトを参照してください。

<http://www.sun.com/servers/alom.html>

ALOM ファームウェアは、メインイメージと起動監視 (bootmon) の 2 つで構成されます。

注意: ダウンロードには数分かかることがあります。メインファームウェアイメージのダウンロードには最大 10 分程度かかることがあります。起動監視 (bootmon) イメージのダウンロードには数分かかることがあります。ダウンロードが完了すると、ALOM は自動的にリセットします。

注意: ファームウェアのアップデート処理中は [scadm resetrsc](#) コマンドを使用しないでください。ALOM を手動でリセットする必要がある場合は、アップデートが完了するまで待ってください。そうしないと、ALOM ファームウェアに障害が発生し、使用不能になる場合があります。

scadm download コマンドの使用法

ホストサーバーに root でログインします。

メインイメージをプログラムするには、スーパーユーザープロンプトで次のコマンドを入力します。

```
# scadm download filename
```

filename はダウンロードするメインイメージファイル名です。

起動監視 (bootmon) をプログラムするには、スーパーユーザープロンプトで次のコマンドを入力します。

```
# scadm download boot filename
```

filename はダウンロードする起動監視ファイル名です。

次はその例です。

ALOM メインファームウェアをダウンロードする場合

```
# scadm download/usr/platform/platform-name /lib/  
images/alommainfw
```

platform-name には[ホストサーバーのプラットフォーム名](#)を指定します。

bootmon イメージをダウンロードする場合

```
# scadm downloadboot /usr/platform/platform-name /lib/  
images/alombootfw
```

platform-name には[ホストサーバーのプラットフォーム名](#)を指定します。

コマンドオプション

download コマンドのオプションは boot のみです。

このオプションを指定すると、download コマンドは指定のダウンロードファイルの起動監視をプログラムします。

[scadmコマンド](#)

[scadm のエラーメッセージ](#)

scadm help

scadm ユーティリティで使用可能なコマンドとその構文を一覧表示するには、scadm help コマンドを使用します。

scadm help コマンドの使用方法

ホストサーバーに root でログインします。

システムのスーパーユーザーのプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
# scadm help
```

次はその例です。

```
# scadm help
```

```
USAGE: scadm <command> [options]
```

```
For a list of commands, type "scadm help"
```

```
scadm- COMMANDS SUPPORTED
```

```
help, date, set, show, resetrsc, download, send_event, modem_setup,  
useradd, userdel, usershow, userpassword, userperm, shownetwork,  
loghistory, version
```

```
SCADM - COMMAND DETAILS
```

```
scadm help => this message
```

```
scadm date [-s] | [[mmdd]HHMM | mmddHHMM[cc]yy] [.SS] => print or set  
date
```

```
scadm set <variable> <value> => set variable to value
```

```
scadm show [variable] => show variable(s)
```

```
scadm resetrsc [-s] => reset SC (-s soft reset)
```

```
scadm download [boot] <file> => program firmware or [boot] monitor
```

```
scadm send_event [-c] "message" => send message as event (-c CRITICAL)
```

```
scadm modem_setup => connect to modem port
```

```
scadm useradd <username> => add SC user account
scadm userdel <username> => delete SC user account
scadm usershow [username] =>show user details
scadm userpassword <username> => set user password
scadm userperm <username> [cuar] => set user permissions
scadm shownetwork => show network configuration
scadm loghistory => show SC event log
scadm version [-v] => show SC version (-v verbose)
```

#

[scadmコマンド](#)

[scadmのエラーメッセージ](#)

scadm loghistory

ALOM イベントバッファに記録されたすべてのイベントの履歴を表示するには、scadm loghistory コマンドを使用します。表示されるイベントには、サーバーリセットイベントおよびシステムの状態を変更するすべての ALOM コマンドまたは scadm コマンド (例: ALOM コマンドシェルの [reset](#)、[poweroff](#)、[poweron](#)) などがあります。このコマンドは ALOM シェルコマンドの [showlogs](#) と同様の機能を果たします。

ログに記録される各イベントのフォーマットを次に示します。

```
date time errorcode: message
```

date time は ALOM が記録したイベントの発生時間を表します。*errorcode* はログ記録されたイベントのコード、*message* はイベントの簡単な説明です。

scadm loghistory コマンドの使用方法

ホストサーバーに root でログインします。

スーパーユーザーのプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
# scadm loghistory
```

イベントログエントリの例を次に示します。

```
MAR08 13:41:21 wgs-48-49: 00060000: "SC Login: User admin  
Logged on."
```

注意: コンソールログに記録されているタイムスタンプはサーバーの時間を反映しています。ALOM イベントログのタイムスタンプは UTC (ユニバーサル時間) です。

[scadmコマンド](#)

scadm のエラーメッセージ

scadm modem_setup

scadm modem_setup コマンドは Sun Fire V210、V240、V440 の各サーバーではサポートされていません。外部モデムを設定して受信トランザクションをサポートする方法については、[if_modem](#) 変数のオンラインヘルプを参照してください。

[scadmコマンド](#)

[scadm のエラーメッセージ](#)

scadm resetrsc

ALOM をリセットするには、`scadm resetrsc` コマンドを使用します。このコマンドは ALOM シェルコマンドの [resetrsc](#) と同様の機能を果たします。

注意: ファームウェアのアップデート ([scadm download](#) または [flashupdate](#)) 処理中は、`scadm resetrsc` コマンドを使用しないでください。ALOM をリセットする必要がある場合は、アップデートが完了するまで待ってください。そうしないと、ALOM ファームウェアに障害が発生し、使用不能になる場合があります。

scadm resetrsc コマンドの使用方法

ホストサーバーに `root` でログインします。

スーパーユーザーのプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
# scadm resetrsc option
```

指定可能な option は `-s` です。

このコマンドでは直ちにリセットを行います。

注意: `scadm resetrsc` コマンドの入力後にホストサーバーから応答がないと、直ちにリセットされます。

コマンドオプション

`resetrsc` コマンドのオプションは `-s` のみです。

このオプションを指定すると、ソフトリセットが行われます。`scadm resetrsc` コマンドに `-s` オプションを指定しなければ、ハードリセットが行われます。

[scadmコマンド](#)

[scadm のエラーメッセージ](#)

scadm send_event

ALOM イベントログに記録されたすべてのイベントの警告を電子メールで送信することができます。

次の宛先にイベントを送信するには、`scadm send_event` コマンドを使用します。

電子メール -- [mgt_mailalert](#) 設定変数で設定した電子メールアドレスに警告を送信します。
サーバーの syslog -- このオプションは [sys_eventlevel](#) 設定変数を使用して設定します。
ALOM にログイン中のすべてのユーザー -- このオプションは [sc_clieventlevel](#) 設定変数で設定します。

scadm send_event コマンドの使用方法

ホストサーバーに root でログインします。

スーパーユーザーのプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
# scadm send_event "message"
```

message はカスタマイズしたメッセージです。

次はその例です。

-c オプションを使用すると重要度が「高」のイベントを送信します。

```
# scadm send_event -c "Restarting the server at 4:00 PM"
```

-c オプションを指定しないで `send_event` を使用すると、重要度が「中」のイベントを送信します。

```
# scadm send_event "TEST"
```

[scadmコマンド](#)

[scadmのエラーメッセージ](#)

[警告の送受信](#)

scadm set

ALOM [設定変数](#)に目的の値を設定するには、scadm set コマンドを使用します。このコマンドはALOM シェルコマンドの [setsc](#) と同様の機能を果たします。

scadm set コマンドの使用方法

ホストサーバーに root でログインします。

スーパーユーザーのプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
# scadm set variable value
```

variable は設定する変数名、value は変数の値です。

次はその例です。

```
# scadm set netsc_ipaddr 123.123.123.123
```

[scadmコマンド](#)

[scadm のエラーメッセージ](#)

scadm show

指定した ALOM [設定変数](#)の値を表示するには、scadm show コマンドを使用します。このコマンドは ALOM シェルコマンドの [showsc](#) と同様の機能を果たします。

scadm show コマンドの使用法

ホストサーバーに root でログインします。

スーパーユーザーのプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
# scadm show variable
```

variable は変数名です。

次はその例です。

```
# scadm show netsc_ipaddr
```

```
123.123.123.123
```

変数を指定しないで scadm show を入力すると、すべての変数の値が表示されます。次はその例です。

```
# scadm show
```

```
if_network="true"  
if_modem="false"  
if_emailalerts="false"  
sys_autorestart="xir"  
sys_xirtimeout="900"  
netsc_tpelinktest="true"  
netsc_dhcp="false"  
netsc_ipaddr="129.148.40.233"  
netsc_ipnetmask="255.255.255.0"  
netsc_ipgateway="129.148.40.254"  
mgt_mailhost=" "
```



```
mgt_mailalert=" "  
sc_customerinfo=" "  
sc_escapechars="#."  
sc_powerondelay="true"  
sc_powerstatememory="false"  
sc_clipasswdecho="true"  
sc_cliprompt="sc"  
sc_clitimeout="0"  
sc_clieventlevel="2"  
sc_backupuserdata="true"  
sys_eventlevel="2"
```

[scadmコマンド](#)

[scadm のエラーメッセージ](#)

scadm shownetwork

scadm shownetwork コマンドを使用すると、現在のネットワーク構成が表示されます。このコマンドは ALOM シェルコマンドの [shownetwork](#) と同様の機能を果たします。

注意: 最後にホストサーバーを起動した後にネットワーク構成を変更した場合、このコマンドの出力結果には変更後の構成情報が表示されないことがあります。変更後の構成を表示するには、サーバーを再起動してください。

scadm shownetwork コマンドの使用方法

このコマンドの出力結果は次の例と同様です。XXX.XXX.XXX.XXX にはネットワーク構成の IP アドレス、ネットマスク、Ethernet アドレスが表示されます。

ホストサーバーに root でログインします。

スーパーユーザーのプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
# scadm shownetwork
```

```
SC network configuration is:
```

```
IP address: XXX.XXX.XXX.XXX
```

```
Gateway Address: XXX.XXX.XXX.XXX
```

```
Netmask: XXX.XXX.XXX.XXX
```

```
Ethernet Address: XX:XX:XX:XX:XX:XX
```

[scadmコマンド](#)

scadm のエラーメッセージ

scadm useradd

ALOM にユーザーアカウントを追加するには、`scadm useradd` コマンドを使用します。このコマンドは ALOM シェルコマンドの [useradd](#) と同様の機能を果たします。

最大 15 件の一意のユーザーアカウントを ALOM に追加することができます。

scadm useradd コマンドの使用方法

ホストサーバーに root でログインします。

スーパーユーザーのプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
# scadm useradd username
```

username は追加するユーザー名です。

username には次の制限があります。

- ユーザー名に英字、数字、ピリオド (.)、下線 (_)、ハイフン (-) を使用できる。

- 最大半角 16 文字で、1 文字以上の英小文字を使用する必要がある。

- ユーザー名は英字で始める必要がある。

ユーザー名にパスワードを割り当てるには、[scadm userpassword](#) コマンドを使用します。

ユーザー名に権限レベルを設定するには、[scadm userperm](#) コマンドを使用します。

[scadmコマンド](#)

[scadm のエラーメッセージ](#)

scadm userdel

ALOM からユーザーアカウントを削除するには、`scadm userdel` コマンドを使用します。このコマンドは ALOM シェルコマンドの [userdel](#) と同様の機能を果たします。

注意: デフォルトの `admin` アカウントを ALOM から削除することはできません。

scadm userdel コマンドの使用方法

ホストサーバーに `root` でログインします。

スーパーユーザーのプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
# scadm userdel username
```

`username` は削除するユーザー名です。

[scadmコマンド](#)

[scadm のエラーメッセージ](#)

scadm usershow

指定したユーザーの ALOM アカウント、各ユーザーの[権限](#)、および[パスワード](#)の割り当ての有無を表示するには、scadm usershow コマンドを使用します。指定したユーザーのこの情報を表示するには、scadm usershow コマンドの後にユーザー名を指定します。このコマンドは ALOM シェルコマンドの[usershow](#)と同様の機能を果たします。

scadm usershow コマンドの使用法

ホストサーバーに root でログインします。

1 ユーザーの情報を表示するには、スーパーユーザープロンプトで次のコマンドを入力します。

```
# scadm usershow username
```

username は情報を表示する指定のユーザー名です。ユーザー名を指定しなければ、usershow はすべてのアカウントを表示します。

次はその例です。

```
# scadm usershow
```

Username	Permissions	Password?
-----	-----	-----
admin	cuar	Assigned
wwilson	cuar	Assigned
jadams	--cr	None

```
# scadm usershow wwilson
```

Username	Permissions	Password?
-----	-----	-----
wwilson	cuar	Assigned

[scadmコマンド](#)

[scadm のエラーメッセージ](#)

scadm userpassword

指定したユーザーアカウントのパスワードを設定または変更するには、scadm userpassword コマンドを使用します。このコマンドは ALOM シェルコマンドの [userpassword](#) と同様の機能を果たします。

scadm userpassword コマンドの使用方法

ホストサーバーに root でログインします。

スーパーユーザーのプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
# scadm userpassword username
```

username はパスワードを設定または変更するユーザー名です。

このコマンドを使用すると、現在のパスワードの入力は要求されません。

次はその例です。

```
# scadm userpassword msmith
```

```
New password:
```

```
Re-enter new password:
```

パスワードの制限

パスワードには次の制限があります。

半角 6 文字以上を指定する必要があります。最初の 8 文字のみが認識され、8 文字より長いパスワードは 8 文字のみのパスワードとして処理されます。

2 文字以上の英字 (大文字または小文字) と 1 文字以上の数字または特殊文字を使用する必要があります。英字には大文字と小文字の両方が使用できます。

パスワードをログイン名と同じにすることはできません。また、ログイン名の文字を逆にしたり並べ変えたものをパスワードに使用することもできません。照合には、大文字と小文字は同じ文字として扱われます。

新しいパスワードは古いパスワードと少なくとも 3 文字以上異なるものに

する必要があります。照合には、大文字と小文字は同じ文字として扱われます。

[scadmコマンド](#)

[scadm のエラーメッセージ](#)

scadm userperm

指定したユーザーアカウントの権限レベルを設定または変更するには、scadm userperm コマンドを使用します。このコマンドは ALOM シェルコマンドの [userperm](#) と同様の機能を果たします。

注意: ALOM にアカウントが 1 つ (admin アカウント) しかない場合、このアカウントの削除や、このアカウントの a または u レベルのユーザー権限の削除を行うことはできません。

権限レベル

すべてのユーザーが ALOM 情報を参照できますが、ALOM の機能の実行や設定の変更には権限が必要です。ユーザーの権限レベルは 4 種類あります。0 ~ 4 の権限レベルを指定します。

権限レベル	説明
a	管理 (Administrative)。このユーザーには ALOM 設定変数 の状態を変更する権限があります。
u	ユーザー管理 (User administration)。このユーザーには、 ユーザーの追加 や ユーザーの削除 、ユーザー権限の変更、他のユーザーの権限レベルの変更を行う権限があります。
c	コンソール 権限 (Console permission)。このユーザーには、ホストサーバーのシステムコンソールに接続する権限があります。
r	リセット / 電源権限 (Reset/power permission)。このユーザーには、ホストサーバーの リセット 、サーバー電源の オン または オフ 、および ALOM の再起動 を行う権限があります。

指定したユーザーに権限を割り当てない (権限レベル 0 を割り当てる) 場合、ユーザーの権限は読み取り専用になります。これは新規 ALOM ユーザーアカウント

のデフォルト権限レベルです。

注意: ALOM を初めて起動するときに使用するアカウントのデフォルトユーザー権限は `cuar` (フル権限) です。このアカウントは `admin` アカウントであるため、削除や権限の変更を行うことはできません。

ユーザーの権限レベルを表示するには、[scadm usershow](#) コマンドを使用します。

scadm userperm コマンドの使用方法

ホストサーバーに `root` でログインします。

スーパーユーザーのプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
# scadm userperm username perms
```

`username` は指定するアカウント、`perms` は設定または変更する権限レベルです。

たとえば、ユーザー `msmith` に `c` および `r` のユーザー権限を割り当てるには、次のコマンドを入力します。

```
# scadm userperm msmith cr
```

[scadmコマンド](#)

[scadm のエラーメッセージ](#)

scadm version

ALOM のバージョン情報を表示するには、`scadm version` コマンドを使用します。

scadm version コマンドの使用方法

ホストサーバーに `root` でログインします。

スーパーユーザーのプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
# scadm version option
```

指定可能な option は `-v` です。

次はその例です。

```
# scadm version
```

```
SC Version v1.1  
SC Bootmon Version: v1.1.0  
SC Firmware Version: v1.1.0
```

```
# scadm version -v
```

```
SC Version v1.1  
SC Bootmon Version: v1.1.0  
SC Bootmon checksum: 908462D2  
SC Firmware Version: v1.1.0  
SC Build Release: 38  
SC firmware checksum: 11F7196A  
SC firmware built: May 19 2003, 14:20:22  
SC System Memory Size 8MB  
SC NVRAM Version = a  
SC hardware type: 1
```

コマンドオプション

このコマンドのオプションは `-v` のみです。

`-v` オプションを指定すると、ALOM の詳細なバージョン情報が表示されます。

[scadmコマンド](#)

[scadm のエラーメッセージ](#)

OpenBoot PROM 機能の使用法

OpenBoot PROM の一部の機能では ALOM をサポートしています。これらの機能を使用するには、`ok` プロンプトでコマンドを入力します。

サポートされるコマンドを次に示します。

[`.sc`](#)

[`reset-sc`](#)

ALOM コマンドシェルと OpenBoot PROM プロンプトとの切り替え方法

Solaris オペレーティング環境がホストサーバー上で動作している場合、`sc>` プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> break
```

```
Are you sure you want to send a break to the system [y/n]? y
```

```
sc> console
```

```
ok
```

ホストサーバーにすでに OpenBoot PROM プロンプト (`ok`) が表示されている場合、`sc>` プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> console
```

```
ok
```

OpenBoot PROM プロンプトから ALOM コマンドシェルに切り替えるには、`ok` プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
ok #.
```

```
sc>
```

注意: #. (ハッシュ記号とピリオド) は、ALOM コマンドプロンプトに切り替えるときに使用するデフォルトエスケープ文字シーケンスです。エスケープ文字シーケンスを変更するには、[sc_escapechars](#) 変数を使用します。

ok プロンプトから Solaris オペレーティング環境に戻るには、次のコマンドを入力します。

ok go

reset-sc

ALOM を OpenBoot PROM プロンプト (ok) からリセットするには、`reset-sc` コマンドを使用します。

このコマンドを使用するには、`ok` プロンプトで `reset-sc` と入力します。

次はその例です。

```
ok reset-sc
```

[OpenBoot PROM 機能の使用方法](#)

.sc

ALOM を調べ、OpenBoot PROM (ok) プロンプトから ALOM の状態を取得するには、.sc コマンドを使用します。

このコマンドを使用するには、以下の手順に従います。

1. ALOM の sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。
sc> **break -y**
2. OpenBoot PROM の ok プロンプトで次のコマンドを入力します。
ok **setenv auto-boot? false**
3. ok プロンプトで次のコマンドを入力します。
ok **reset-all**
4. ok プロンプトで次のコマンドを入力します。
ok **.sc**

次はその例です。

```
ok .sc
SEEPROM: OK
I2C: OK
Ethernet: OK
Ethernet (2): OK
CPU: OK
RAM: OK
Console: OK
SC Control line: OK
FlashRAM Boot CRC: OK
FlashRAM Main CRC: OK
```

[OpenBoot PROM 機能の使用方法](#)

障害追跡

以下の障害追跡情報のセクションを参照してください。

[ALOM の問題の障害追跡](#) -- ALOM 使用時の一般的な問題の一覧

[ALOM によるサーバーの障害追跡](#) -- ALOM による一般的なサーバーの問題の障害追跡の提案

[ALOM シェルのエラーメッセージ](#) -- ALOM 使用時のコマンドシェルの一般的なエラーメッセージの一覧

[scadm のエラーメッセージ](#) -- scadm ユーティリティ使用時の一般的なエラーメッセージの一覧

ALOM の問題の障害追跡

問題	説明
ALOM にログインできない	<p>以下の処置で ALOM のログインに関する問題の障害追跡を行うことができます。</p> <p>接続している ALOM デバイス名 (例: bert-sc) を確認します。該当するホストサーバーの ALOM 名の指定に間違いがないことを確認します。</p> <p>使用している ALOM ユーザー名に間違いがないことを確認します。ALOM ユーザー名はシステムのユーザー名とは異なる場合があります。</p> <p>使用している ALOM パスワードに間違いがないことを確認します。</p>
telnet コマンドで ALOM に接続できない	<p>ALOM は 1 サーバーあたり、同時に 4 つの Telnet セッションをサポートします。最大数の Telnet セッションがアクティブな場合、さらに telnet で接続しようとする connection closed エラーが発生します。次の例は UNIX オペレーティング環境のシステムメッセージを示しています。</p> <pre data-bbox="464 1308 1230 1554"> % telnet bert-sc Trying 129.148.49.120...? Connected to bert-sc. Escape character is '^]'.? Connection closed by foreign host. </pre>
	<p>まず、サーバーに root でログインして、scadm version コマンドが成功するかどうかを確認します。成功すれば、ALOM は動作しているので、Ethernet の設定に問題があります。Ethernet 設定変数が正しく設定されているかを確認するには、scadm show コマンドを使用します。</p> <p>Ethernet の障害追跡を以下の処置で行うこともできます。</p> <p>シリアル管理ポート (SERIAL MGT) を使って ALOM にログインし、shownetwork コマンドで現在の設定を表示します。</p>

Ethernet 接続で ALOM に接続できない	<p>ネットワーク上の他のマシンにログインし、ping コマンドで ALOM が動作していることを確認します。ping コマンドの引数には、ホストサーバー名ではなく、ALOM のデバイス名 (例: servername-sc) を指定してください。</p> <p>SunVTS 診断を実行して Ethernet 接続を検査します。外部 Ethernet をテストするには、正常に機能している 10 メガビットのハブにデバイスを接続する必要があります。</p> <p>SunVTS 診断を実行して ALOM カードを検査します。</p> <p>scadm version コマンドを使用して ALOM の状態を検査します。</p>
ALOM から警告を受信できない	<p>syslog の sys_eventlevel 変数、ALOM コマンドシェルの sc_clieventlevel 変数、および電子メールによる警告の mgt_mailalert 変数の設定をチェックして、指定の場所に適切なレベルのイベントが送られていることを確認します。また、if_emailalerts が true に設定されていること、および mgt_mailhost が電子メールによる警告用に正しく設定されていることを確認します。</p>
ALOM のパスワードがわからない	<p>ユーザーが ALOM のパスワードを忘れた場合やパスワードを使用できない場合、サーバーに root でログインし、scadm userpassword コマンドで新しいパスワードを設定します。ALOM ユーザーに新しいパスワードを通知してください。</p>
ALOM の一部の機能を使用できない	<p>一部の機能の実行には一定のユーザー権限が必要です。権限レベルを確認してください。また、次の問題が存在する可能性があります。</p> <p>ALOM でシステムコンソールログの表示やシステムコンソールへの接続を行うことができない。 サーバーをデバッグモードで使用したり、ALOM の break コマンドを使用したりすることができない。 サーバーのキースイッチがロックされています。</p> <p><code>poweroff</code> コマンドが機能しない。サーバーの電源</p>

はすでにオフになっています。

`poweron` コマンドが機能しない。サーバーの電源がすでにオンになっているか、キースイッチが Standby に設定されています。

ALOM によるサーバーの障害追跡

ALOM は応答しないサーバーの障害追跡に便利です。サーバーが応答したら、接続して Sun Management Center、SunVTS、OpenBoot Diagnostics などの標準的な障害追跡ツールを使用します。

サーバーが応答しなければ、ALOM アカウントにログインして以下の操作を行います。

[ALOM イベントログ](#)と[サーバー環境の状態](#)で問題を確認します。
[コンソールログ](#)で最近のエラーメッセージを確認します。
システム[コンソール](#)に接続してシステムを再起動します。

システムコンソール書き込みロックの概要

複数ユーザーが ALOM からシステムコンソールに接続可能ですが、システムコンソールに書き込みアクセスが許されるのは1度に1ユーザーのみです(つまり、1ユーザーのみがシステムコンソールにコマンドを入力できます)。他のユーザーが入力した文字は無視されます。これを書き込みロックと呼び、他のユーザーセッションは読み取り専用モードになります。コンソールにアクセスしているユーザーが他にいなければ、[console](#) コマンドを実行すると、自動的に書き込みロックを取得します。書き込みロック中のユーザーを表示するには、[showusers](#) コマンドを使用します。

タイムアウトしたホストサーバーのリセット

ALOM には、ホストサーバーのオペレーティングシステムが動かなくなると感知する「ウォッチドッグ」機能があります。ウォッチドッグ機能は、ホストサーバーのオペレーティングシステムが動作しているかどうかを定期的にチェックします。ホストサーバーから応答がないと、一定時間の経過後にウォッチドッグはタイムアウトします。ウォッチドッグがタイムアウトを検出した場合、ALOM コマンドシェルから [reset](#) コマンドでサーバーを手動でリセットする方法と、[sys_autorestart](#) 変数を設定して自動でリセットする方法があります。

ALOM シェルのエラーメッセージ

ここでは、ALOM コマンドシェルのエラーメッセージを種類別に示します。

[使用方法エラー](#)

[一般的なエラー](#)

[FRU エラー](#)

これらのメッセージは `sc>` プロンプトでコマンドを入力したときに表示されません。

使用方法エラー

この一覧は、コマンド入力時の構文が間違っている場合に表示される使用方法関連エラーメッセージを示しています。コマンドの説明を参照して、正しい構文にします。

エラーメッセージ	コマンド / 説明
Error: Invalid command option.Type help to list commands.	Help
Error: Invalid command options Usage: usage string	シェルコマンドは正しく入力されていますが、コマンドのオプションが不正です。usage string はコマンドオプションの正しい構文を表します。コマンドオプションを確認してからコマンドを再入力してください。
Error: Invalid configuration parameter.	存在しない設定変数が setsc または showsc コマンドに指定されています。 設定テーブル の設定変数と値を確認し、コマンドを再入力してください。

Error: Invalid image. Please check file integrity and specified path.

[flashupdate](#) コマンドの実行時にエラーが発生しました。ダウンロードするファームウェアイメージのパスの指定が正しいことを確認してください。パスに問題がなければ、サーバーの管理者にファームウェアイメージの保存場所を確認してください。

Error: Invalid setting for parameter param.

param に指定した設定変数の値が不正です。使用する[設定変数](#)を確認し、コマンドを再入力してください。

Error: Unable to program flash device when system is locked.

ホストサーバーのキースイッチがロックされています。サーバーのマニュアルを参照してキースイッチを Normal (ロックされていない状態) の位置に設定し、[flashupdate](#) コマンドを再実行してください。

Error: Unable to set clock while managed system OS is running.

ホストサーバーの稼働中に ALOM の日付と時間を設定しようとしてしました。ALOM の日付と時間を設定する場合は、まずシステムの電源がオフになっていることを確認してください。Solaris オペレーティング環境はサーバーの起動時にシステム時間と ALOM 時間の同期をとり、サーバーの稼働中にも定期的に同期を実行します。

一般的なエラー

ALOM は以下の一般的なエラーを通知します。

エラーメッセージ	コマンド / 説明
Error adding user <username>	useradd コマンドの実行中にエラーが発生しました。このメッセージの後にエラーの内容を説明する詳細メッセージが表示されます。
Error: Cannot delete admin user	ALOM の admin ユーザーアカウントを削除しようとした。このアカウントを削除することはできません。
Error changing password for <username>	userpassword コマンドの実行中にエラーが発生しました。このメッセージの後にエラーの内容を説明する詳細メッセージが表示されます。
Error: Inconsistent passwords entered.	userpassword コマンドの実行時に入力した 2 回目のパスワードが最初のパスワードと異なります。コマンドを再実行してください。
Error: invalid password entered.Password must be 6-8 characters, differ from the previous by at least 3 characters and contain at least two alphabetic characters and at least one numeric or special character.	入力したパスワードが無効です。 パスワードの制限 を参照し、パスワードを入力し直してください。
Error: invalid username string.Please re-enter username or type 'usershow' to see a list of existing users.	ユーザーアカウント一覧にない ALOM ユーザーアカウントを指定しました。有効なユーザーアカウント一覧を表示するには、 usershow コマンドを使用してください。
Error displaying user <username>	usershow コマンドの実行中にエラーが発生しました。このメッセージの後にエラーの内容を説明する詳細メッセージが表示されます。

<pre>Error: Invalid IP address for gateway address <netsc_ipgateway> and IP netmask <netsc_ipnetmask>.</pre>	<p>入力した netsc_ipaddr 変数の値が netsc_ipgateway 変数および netsc_ipnetmask 変数に指定した値と対応していません。アドレスに間違いがないことを確認してから setupsc または setsc を再実行してください。</p>
<pre>Error: Invalid IP netmask for IP address <netsc_ipaddr> and IP gateway <netsc_ipgateway>.</pre>	<p>入力した netsc_ipnetmask 変数の値が netsc_ipgateway 変数および netsc_ipaddr 変数に指定した値と対応していません。アドレスに間違いがないことを確認してから setupsc または setsc を再実行してください。</p>
<pre>Error: Invalid IP gateway for IP address <netsc_ipaddr> and IP netmask <netsc_ipnetmask>.</pre>	<p>入力した netsc_ipgateway 変数の値が netsc_ipnetmask 変数および netsc_ipaddr 変数に指定した値と対応していません。アドレスに間違いがないことを確認してから setupsc または setsc を再実行してください。</p>
<pre>Error setting permission for <username></pre>	<p>userperm コマンドの実行中にエラーが発生しました。このメッセージの後にエラーの内容を説明する詳細メッセージが表示されます。</p>
<pre>Error: Invalid username string.Please re-enter a username of no more than 16 bytes consisting of characters from the set of alphabetic characters, numeric characters, period (.), underscore (_), and hyphen (-).The first character should be alphabetic and the field should contain at least one lower case alphabetic character.</pre>	<p>入力したユーザー名が無効です。ユーザー名の正しい構文を確認し、再入力してください。</p>

Error: Unable to execute break as system is locked.	ホストサーバーのフロントパネルのキースイッチがロックされています。キースイッチの位置を変更してから break コマンドを再入力してください。
Failed to allocate buffer for console mode	console コマンドの実行時に、システムコンソールに接続するためのメモリーが不足しているため割り当てられませんでした。
Failed to get password for <username>	userpassword コマンドの実行中に SEEPROM エラーが発生しました。コマンドを再実行してください。
Failed to set <variable> to <value>	setsc コマンドの実行中に SEEPROM エラーが発生しました。コマンドを再実行してください。
Invalid login	ログインに失敗しました。このメッセージはログインプロンプトに表示されません。ログイン名とパスワードの指定が正しいことを確認し、再度ログインしてください。
Invalid password	userpassword コマンドで入力したパスワードが無効です。パスワードの指定に間違いがないことを確認して、パスワードを再入力してください。
Invalid permission: <permission>	入力した ユーザー権限 が無効です。ユーザー権限情報の指定に間違いがないことを確認して、権限を再入力してください。
Error: Maximum number of users already configured.	ALOM にすでに 16 件 (最大件数) のアカウントが設定済みの場合にユーザーアカウントを追加しようとすると、このエラーが発生します。新しいユーザーアカウントを追加する前に アカウントを削除する 必要があります。
Passwords don't match	新しいパスワードの 1 回目と 2 回目の入力が異なります。パスワードを再入力してください。
Permission denied	許可されていない ユーザー権限レベル のシェルコマンドを実行しようとした。

Sorry, wrong password	入力したパスワードが不正です。パスワードを再入力してください。
Error: User <username> already exists.	追加しようとしているユーザーは、このサーバーの ALOM アカウントをすでに取得しています。

FRU エラー

以下のエラーメッセージは、ALOM で FRU (現場交換可能ユニット) の問題が検出されたときに表示されます。

エラーメッセージ	コマンド / 説明
Error: xxx is currently powered off.	xxx はコマンドの送信先 FRU の名前です。FRU は現在、電源オフの状態です。コマンドを実行する前に電源をオンに戻す必要があります。
Error: xxx is currently powered on.	xxx は poweron コマンドの送信先 FRU の名前です。FRU はすでに電源オンの状態です。
Error: xxx is currently prepared for removal.	xxx は removefru コマンドの送信先 FRU の名前です。FRU はすでに電源オフの状態で、削除準備ができています。
Error: Invalid FRU name.	FRU コマンド にオプションを指定していないか、コマンドに無効な FRU 名を指定しています。FRU 名が有効であることを確認してコマンドを再入力してください。

[ALOM シェルコマンド](#)

scadm のエラーメッセージ

次の表は、scadm の一般的なエラーメッセージと原因を表示しています。メッセージはアルファベット順に表示しています。

エラーメッセージ	説明
Passwords didn't match, try again	scadm userpassword コマンドの実行時に、パスワードを 2 回入力する必要があります。入力した 2 つのパスワードが異なる場合にこのエラーメッセージが表示されます。userpassword コマンドを再実行してください。
scadm: all user slots are full	ALOM にすでに最大件数の 16 件が設定されている場合にユーザーアカウントを追加しようとする、このエラーが発生します。新しいアカウントを追加する前に 既存アカウントを削除 する必要があります。
scadm: command line too long	コマンド行に入力した文字が長すぎます。使用したコマンドが有効であることを確認し、文字数を減らして再度コマンドを実行してください。
scadm: command unknown	使用したこのコマンドは scadm では無効です。コマンドが有効な ALOM コマンド であっても scadm コマンドとして存在しない場合、ALOM コマンドシェルの sc> プロンプトから実行する必要があります。

<pre>scadm: could not read date from SC</pre>	<p>scadm で ALOM から現在の日付と時間を取得中に、ALOM ファームウェアに未定義のエラーが発生しました。コマンドを再度実行するか、ALOM コマンドシェルの <code>sc></code> プロンプトからコマンドを実行してください。</p>
<pre>scadm: could not send alert</pre>	<p>scadm send_event コマンドの実行中に、ALOM ファームウェアでイベントログ記録や警告メッセージの送信ができませんでした。</p>
<pre>scadm: could not set date on SC</pre>	<p>scadm ユーティリティで ALOM の現在の日付と時間を設定中に、ALOM ファームウェアに未定義のエラーが発生しました。コマンドを再度実行するか、ALOM コマンドシェルの <code>sc></code> プロンプトからコマンドを実行してください。</p>
<pre>scadm: couldn't add user</pre>	<p>ユーザーアカウントの追加中に scadm に内部エラーが発生しました。SEEPROM に問題がある可能性があります。</p>
<pre>scadm: couldn't change password</pre>	<p>ユーザーパスワードの変更中に scadm に内部エラーが発生しました。SEEPROM に問題がある可能性があります。</p>
<pre>scadm: couldn't change permissions</pre>	<p>ユーザー権限の変更中に scadm に内部エラーが発生しました。SEEPROM に問題がある可能性があります。</p>
<pre>scadm: couldn't delete user</pre>	<p>ユーザーアカウントの削除中に scadm に内部エラーが発生しました。SEEPROM に問題がある可能性があります。</p>

<pre>scadm: couldn't get information on user</pre>	<p>scadm usershow コマンドの実行中に scadm に内部エラーが発生しました。SEEPROM に問題がある可能性があります。</p>
<pre>scadm: download failed, SC reported erase error</pre>	<p>scadm download コマンドの実行中にハードウェアの問題が発生しました。SEEPROM に問題がある可能性があります。</p>
<pre>scadm: download failed, SC reported int_wp error</pre>	<p>scadm download コマンドの実行中にハードウェアの問題が発生しました。SEEPROM に問題がある可能性があります。</p>
<pre>scadm: download failed, SC reported range error</pre>	<p>scadm download コマンドの実行中にハードウェアの問題が発生しました。SEEPROM に問題がある可能性があります。</p>
<pre>scadm: download failed, SC reported verify error</pre>	<p>scadm download コマンドの実行中にハードウェアの問題が発生しました。SEEPROM に問題がある可能性があります。</p>
<pre>scadm: download failed, SC reported vpp error</pre>	<p>scadm download コマンドの実行中にハードウェアの問題が発生しました。SEEPROM に問題がある可能性があります。</p>
<pre>scadm: download failed, SC reported wp error</pre>	<p>scadm download コマンドの実行中にハードウェアの問題が発生しました。SEEPROM に問題がある可能性があります。</p>
<pre>scadm: download rejected, keyswitch in secure mode?</pre>	<p>サーバーのキースイッチがロックされていると、scadm download コマンドを実行できません。キースイッチの位置を確認してからコマンドを再実行してください。</p>
<pre>scadm: Error downloading file</pre>	<p>scadm download コマンドの実行中に内部エラーが発生しました。コマンドを再実行してください。</p>

<pre>scadm: ERROR, callback init failed</pre>	<p>scadm download コマンドの実行中に内部エラーが発生しました。コマンドを再実行してください。</p>
<pre>scadm: Error, Invalid setting for parameter param.</pre>	<p>param に指定した設定変数の値が不正です。使用する設定変数を確認し、コマンドを再入力してください。</p>
<pre>scadm: Error, invalid configuration parameter.</pre>	<p>存在しない設定変数が set または show コマンドに指定されています。設定テーブルの設定変数と値を確認し、コマンドを再入力してください。</p>
<pre>scadm: ERROR, passwords didn't match</pre>	<p>scadm userpassword コマンドの実行時に、パスワードを2回入力する必要があります。入力した2つのパスワードが異なる場合にこのエラーメッセージが表示されます。コマンドを再実行してください。</p>
<pre>scadm: ERROR, unable to set up message queue</pre>	<p>scadm download コマンドの実行中に内部エラーが発生しました。コマンドを再実行してください。</p>
<pre>scadm: event message can't exceed 80 characters</pre>	<p>send event コマンドに指定するメッセージの長さは最大半角79文字です。</p>
<pre>scadm: file could not be opened</pre>	<p>scadm download コマンドの実行中にエラーが発生しました。scadm はコマンド行で指定されたファイルを開けませんでした。ファイルの指定に間違いがないことを確認して、コマンドを再実行してください。</p>

<pre>scadm: file not a valid s- record</pre>	<p>scadm download コマンドの実行中にエラーが発生しました。指定したダウンロードファイルは有効な s-record ファイルではありません。ファイル名を確認してからコマンドを再実行してください。</p>
<pre>scadm: INTERNAL ERROR in date</pre>	<p>scadm date コマンドの実行中に内部エラーが発生しました。コマンドを再実行してください。</p>
<pre>scadm: INTERNAL ERROR, overflow in callback</pre>	<p>scadm download コマンドの実行中に内部エラーが発生しました。コマンドを再実行してください。</p>
<pre>scadm: invalid variable</pre>	<p>scadm set コマンドの実行中に無効な変数が入力されました。設定変数の一覧を確認してからコマンドを再実行してください。</p>
<pre>scadm: invalid variable or value</pre>	<p>scadm set コマンドの実行中に無効な変数または値が入力されました。設定変数の一覧を確認してからコマンドを再実行してください。</p>
<pre>scadm: malformed password</pre>	<p>入力したパスワードが無効です。有効なパスワードの長さは半角 6 ~ 8 文字で、そのうち 2 文字以上を英字、1 文字以上を数字または特殊文字にする必要があります。</p>
<pre>scadm: malformed username</pre>	<p>入力したユーザー名の文字が無効です。</p>
<pre>scadm: maximum username length is 16</pre>	<p>入力したユーザー名の長さが 16 文字を超えています。16 文字以下でユーザー名を再入力してください。</p>
<pre>scadm: SC did not respond during boot initialization</pre>	<p>scadm download コマンドの実行中に内部エラーが発生しました。コマンドを再実行してください。</p>

<pre>scadm: SC failed to respond during download</pre>	<p>scadm download コマンドの実行中に、ALOM は正常に起動モードに入ることができませんでした。</p>
<pre>scadm: SC firmware not responding</pre>	<p>メイン ALOM ファームウェアが応答しません。このエラーは、ALOM の起動時、メインファームウェアに障害がある場合、または ALOM のハードウェアに問題がある場合に起こります。しばらく経ってから、コマンドを再実行してください。</p>
<pre>scadm: SC not responding to requests</pre>	<p>scadm に対して ALOM からの適切な応答がありません。ALOM が動作していることを確認してください。</p>
<pre>scadm: ALOM returned fatal error</pre>	<p>scadm download コマンドの実行中に ALOM から特定できないエラーが返されました。コマンドを再実行してください。</p>
<pre>scadm: ALOM returned garbage</pre>	<p>このエラーはさまざまな状況で発生します。コマンドを再実行してください。</p>
<pre>scadm: ALOM returned unknown error</pre>	<p>scadm download コマンドの実行中に ALOM から特定できない状態 (成功でも失敗でもない状態) が返されました。コマンドを再実行してください。</p>
<pre>scadm: ALOM returned wrong response</pre>	<p>scadm user* コマンドの実行中に ALOM から無効な応答がありました。これは ALOM または scadm ユーティリティの内部エラーであると考えられます。</p>
<pre>scadm: ALOM unable to free up memory</pre>	<p>このメッセージはさまざまな状況で発生します。scadm ユーティリティが ALOM ファームウェアから受信したメッセージを解放できませんでした。</p>

scadm: Unable to reset ALOM hardware	scadm resetrsc コマンドの実行中に ALOM のハードリセットが失敗しました。
scadm: unable to send data to ALOM	ALOM に送信したデータが認識されませんでした。ALOM が動作していることを確認してください。
scadm: user already exists	追加しようとしているユーザーは、このサーバーの ALOM アカウントをすでに取得しています。
scadm:username did not start with letter or did not contain? lowercase letter	追加する ALOM ユーザーアカウントのユーザー名のフォーマットが無効です。 scadm useradd コマンドを参照し、コマンドを再実行してください。
scadm: username does not exist	指定したユーザー名はこのサーバーの ALOM アカウントに関連付けられていません。
This program MUST be run as root	サーバーに root でログインし、scadm を再実行してください。
USAGE: scadm <command> [options]	コマンドの一覧を表示するには、 <code>scadm help</code> と入力します。
USAGE:scadm date [-s] [[mdd]HHMM mddHHMM[yyyy]][.SS]	scadm date の値の指定が不正です。 scadm date コマンドの正しい構文を参照し、scadm date コマンドを再実行してください。
USAGE: scadm download [boot] <file>	scadm download の値の指定が不正です。 scadm download コマンドの正しい構文を参照し、scadm download コマンドを再実行してください。

<p>USAGE: scadm loghistory</p>	<p>scadm loghistory の値の指定が不正です。 scadm loghistory コマンドの正しい構文を参照し、scadm loghistory コマンドを再実行してください。</p>
<p>USAGE:scadm resetrsc [-s]</p>	<p>scadm resetrsc の値の指定が不正です。 scadm resetrsc コマンドの正しい構文を参照し、scadm resetrsc コマンドを再実行してください。</p>
<p>USAGE: scadm set<variable> <value></p>	<p>scadm set の値の指定が不正です。 scadm set コマンドの正しい構文を参照し、scadm set コマンドを再実行してください。</p>
<p>USAGE: scadm show [variable]</p>	<p>scadm show の値の指定が不正です。 scadm show コマンドの正しい構文を参照し、scadm show コマンドを再実行してください。</p>
<p>USAGE: scadm shownetwork</p>	<p>scadm shownetwork の値の指定が不正です。 scadm shownetwork コマンドの正しい構文を参照し、scadm shownetwork コマンドを再実行してください。</p>
<p>USAGE: scadm useradd <username></p>	<p>scadm useradd の値の指定が不正です。 scadm useradd コマンドの正しい構文を参照し、scadm useradd コマンドを再実行してください。</p>

USAGE: scadm userdel <username>	scadm userdel の値の指定が不正です。 scadm userdel コマンドの正しい構文を参照し、scadm userdel コマンドを再実行してください。
USAGE: scadm userpassword <username>	scadm userpassword の値の指定が不正です。 scadm userpassword コマンドの正しい構文を参照し、scadm userpassword コマンドを再実行してください。
USAGE: scadm userperm <username> [cuar]	scadm userperm の値の指定が不正です。 scadm userperm コマンドの正しい構文を参照し、scadm userperm コマンドを再実行してください。
USAGE: scadm usershow [username]	scadm usershow の値の指定が不正です。 scadm usershow コマンドの正しい構文を参照し、scadm usershow コマンドを再実行してください。